

---

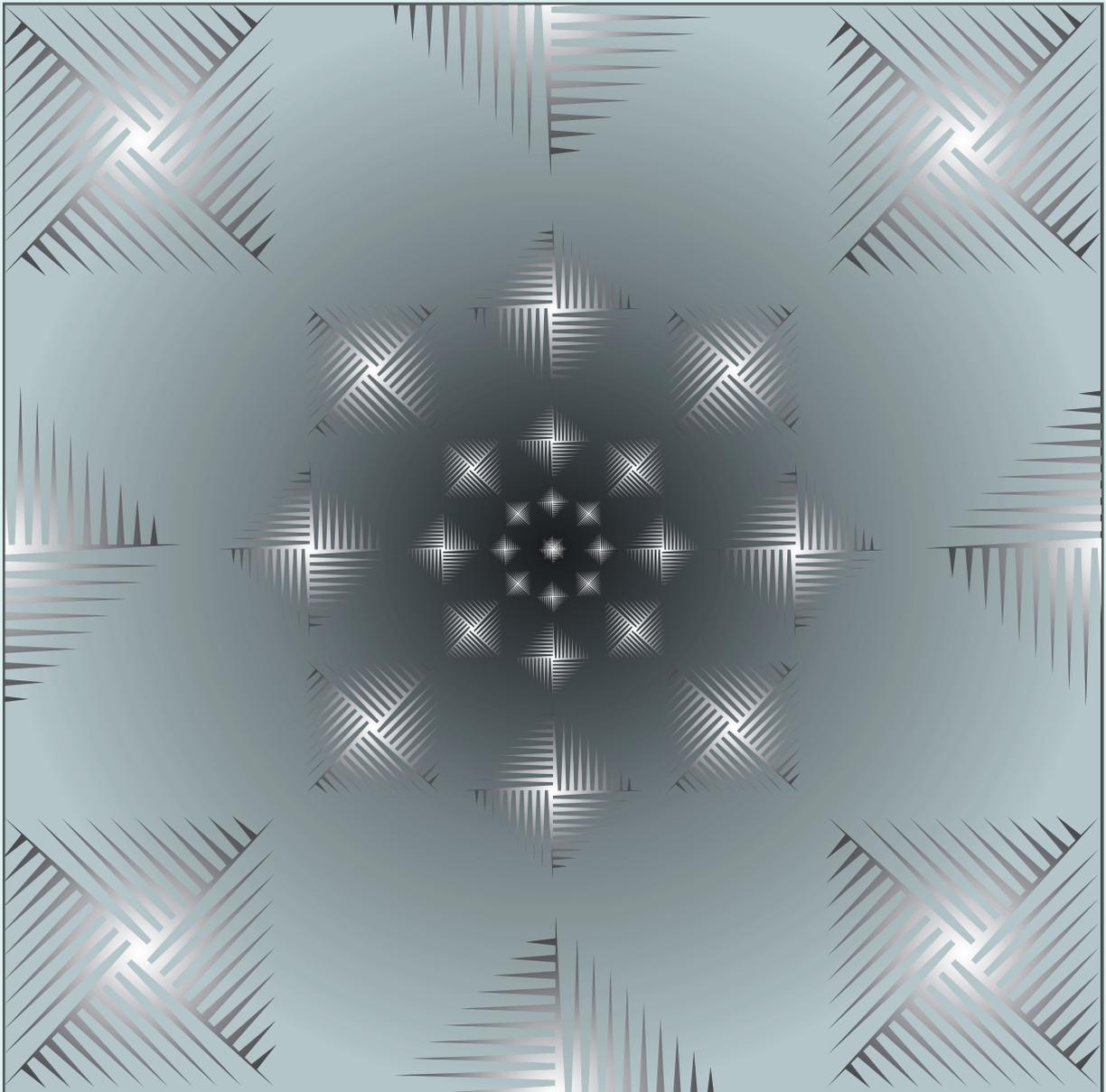
2010年度

---

# シラバス

# フランス語学科

---



秋学期は配布しません。1年間必ず保管すること。

---

---

獨協大学

# —— 総 合 目 次 ——

シラバスの見方	-----	2
2008年度以降入学者用目次	-----	3
2003～2007年度入学者用目次	-----	6
外国語学部共通科目（2003年度以降入学者用）	-----	9
担当者別授業内容	-----	11

# シラバスの見方

シラバスは、科目の担当教員が学期ごとの授業計画、講義概要、評価方法などを学生に周知することにより、受講する際の指針とし、授業の理解を深めることを目的に作成されたものです。

シラバスをよく読んで、計画的な履修登録をしてください。

## 1. 目次について

### ①シラバスページの検索方法

ページ端にあるインデックスで自分の入学年度に該当する目次ページを確認してください。

目次の科目は学則別表と同じ順序で掲載しています。

※入学年度によっては学則別表とシラバスの順序が一致していない場合があります。

科目名とページ番号をよく確認してください。

### ②履修できない科目

「履修不可」の欄に所属学部・学科名が記されている場合は、その科目を履修することができません。

〈略称説明〉

外：外国語学部      養：国際教養学部

独：ドイツ語学科

英：英語学科

仏：フランス語学科

交：交流文化学科

言：言語文化学科

全：フランス語学科以外の全学部学科

経：経済学部

済：経済学科

営：経営学科

法：法学部

律：法律学科

国：国際関係法学科

総：総合政策学科

## 2. シラバスページの見方(右図参照)

### ①入学年度

09年度以降……2009年度以降入学者

08年度以降……2008年度以降入学者

07年度以前……2003～2007年度入学者

06～07年度……2006～2007年度入学者

### ②入学年度に対応した科目名

### ③授業の目的や講義全体の説明、学生への要望

### ④学期の授業計画

各回ごとの講義のテーマ、内容を記載しています。

### ⑤授業で使用するテキスト、参考文献

### ⑥評価方法

①	②	担当者
講義目的、講義概要	授業計画	
③	④	
<b>春学期</b>		
テキスト、参考文献	評価方法	
⑤	⑥	

①	②	担当者
講義目的、講義概要	授業計画	
③	④	
<b>秋学期</b>		
テキスト、参考文献	評価方法	
⑤	⑥	

## 3. 注意事項

### ①履修条件

担当教員が履修者に対して、その他の科目の履修や単位の修得などを条件としている科目があります。

必ず「講義目的、講義概要」の欄(③の部分)および『授業時間割表』を確認してください。

### ②定員

科目の中には定員制のものがあります。詳細は『授業時間割表』を参照してください。

# フランス語学科 授業科目(2008年度以降入学者用 目次)

## 学科基礎科目

時間割 コード	開講科目名称	担当者	開講 学期	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ	
	フランス語Ⅰ(文法)	授業時間割表を参照して ください。	春	1	1	全	11	
	フランス語Ⅱ(文法)		秋	1	1	全	11	
	フランス語Ⅰ(講読)既修者のみ		春	1	1	全	12	
	フランス語Ⅱ(講読)既修者のみ		秋	1	1	全	12	
	フランス語Ⅰ(総合)		春	1	1	全	13	
	フランス語Ⅱ(総合)		秋	1	1	全	13	
	フランス語Ⅰ(TP) 既修者のみ		春	1	1	全	14	
	フランス語Ⅱ(TP) 既修者のみ		秋	1	1	全	14	
	フランス語Ⅰ(会話)未修者のみ		春	1	1	全	15	
	フランス語Ⅱ(会話)未修者のみ		秋	1	1	全	15	
	フランス語Ⅰ(LL)		春	1	1	全	16	
	フランス語Ⅱ(LL)		秋	1	1	全	16	
	フランス語Ⅲ(文法)		授業時間割表を参照して ください。	春	1	2	全	17
	フランス語Ⅳ(文法)			秋	1	2	全	17
	フランス語Ⅲ(講読)	春		1	2	全	18	
	フランス語Ⅳ(講読)	秋		1	2	全	18	
	フランス語Ⅲ(総合)	春		1	2	全	19	
	フランス語Ⅳ(総合)	秋		1	2	全	19	
	フランス語Ⅲ(TP) 既修者のみ	春		1	2	全	20	
	フランス語Ⅳ(TP) 既修者のみ	秋		1	2	全	20	
	フランス語Ⅲ(会話)未修者のみ	春		1	2	全	21	
	フランス語Ⅳ(会話)未修者のみ	秋		1	2	全	21	
	フランス語Ⅲ(構文)	春		1	2	全	22	
	フランス語Ⅳ(構文)	秋		1	2	全	22	
時間割 コード	開講科目名称	担当者	開講 学期	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
15245	フランス芸術文化入門Ⅰ	谷口 亜沙子	春	木1	2	1		23
15246	フランス芸術文化入門Ⅱ	谷口 亜沙子	秋	木1	2	1		23
15247	フランス現代社会入門Ⅰ	鈴木 隆	春	水3	2	1		24
15248	フランス現代社会入門Ⅱ	鈴木 隆	秋	水3	2	1		24

## 学科共通科目

時間割 コード	開講科目名称	担当者	開講 学期	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
	総合フランス語Ⅰ	授業時間割表を参照してください。	春		2	3	全	25
	総合フランス語Ⅱ	授業時間割表を参照してください。	秋		2	3	全	25
20336	フランス語文章表現法Ⅰ	PH. ヴァネ	春	月2	2	3		26
20337	フランス語文章表現法Ⅱ	PH. ヴァネ	秋	月2	2	3		26
20330	フランス語文章表現法Ⅰ	C. パジェス	春	月3	2	3		27
20331	フランス語文章表現法Ⅱ	C. パジェス	秋	月3	2	3		27
20332	フランス語文章表現法Ⅰ	Ch. ペリセロ	春	火1	2	3		28
20333	フランス語文章表現法Ⅱ	Ch. ペリセロ	秋	火1	2	3		28
20338	フランス語文章表現法Ⅰ	小石 悟	春	火2	2	3		29
20339	フランス語文章表現法Ⅱ	小石 悟	秋	火2	2	3		29
20340	フランス語文章表現法Ⅰ	筒井 伸保	春	水1	2	3		30
20341	フランス語文章表現法Ⅱ	筒井 伸保	秋	水1	2	3		30
20334	フランス語文章表現法Ⅰ	M. ミズバヤシ	春	木1	2	3		31
20335	フランス語文章表現法Ⅱ	M. ミズバヤシ	秋	木1	2	3		31
20328	フランス語文章表現法Ⅰ	B. レウルス	春	金2	2	3		32
20329	フランス語文章表現法Ⅱ	B. レウルス	秋	金2	2	3		32

時間割 コード	開講科目名称	担当者	開講 学期	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
20347	フランス語会話Ⅰ	M. P. ミュノーズ	春	火3	2	3		33
20348	フランス語会話Ⅱ	M. P. ミュノーズ	秋	火3	2	3		33
20349	フランス語会話Ⅰ	M. サガズ	春	木3	2	3		34
20350	フランス語会話Ⅱ	M. サガズ	秋	木3	2	3		34
20343	フランス語会話Ⅰ	E. クロズ	春	金2	2	3		35
20344	フランス語会話Ⅱ	E. クロズ	秋	金2	2	3		35
20345	フランス語会話Ⅰ	F. ルーセル	春	金3	2	3		36
20346	フランス語会話Ⅱ	F. ルーセル	秋	金3	2	3		36
20353	ビジネスフランス語Ⅰ	C. パジェス	春	月2	2	3		37
20354	ビジネスフランス語Ⅱ	C. パジェス	秋	月2	2	3		37
20351	上級フランス語Ⅰ	井上 美穂	春	木2	2	3		38
20352	上級フランス語Ⅱ	井上 美穂	秋	木2	2	3		38
19132	フランス語圏事情Ⅰ	藤田 朋久	春	火2	2	2		39
19133	フランス語圏事情Ⅱ	井上 たか子	秋	水4	2	2		40

## 学科専門科目

時間割 コード	開講科目名称	担当者	開講 学期	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
19173	フランス語学論Ⅰ	田中 善英	春	火1	2	2		41
19174	フランス語学論Ⅱ	田中 善英	秋	火1	2	2		41
20744	フランス語文章理論Ⅰ	小石 悟	春	木2	2	3		42
20745	フランス語文章理論Ⅱ	小石 悟	秋	木2	2	3		42
19136	フランス語言語教育論Ⅰ	中村 公子	春	水1	2	2		43
19137	フランス語言語教育論Ⅱ	中村 公子	秋	水1	2	2		43
20358	フランス語コミュニケーション各論Ⅰ	古川 直世	春	火3	2	3		44
20787	フランス語コミュニケーション各論Ⅱ	古川 直世	秋	火3	2	3		44
20367	フランス語コミュニケーション講読Ⅰ	中村 公子	春	木2	2	3		45
20368	フランス語コミュニケーション講読Ⅱ	中村 公子	秋	木2	2	3		45
20363	フランス語コミュニケーション講読Ⅰ	小石 悟	春	木3	2	3		46
20364	フランス語コミュニケーション講読Ⅱ	小石 悟	秋	木3	2	3		46
20366	フランス語コミュニケーション講読Ⅰ	田中 善英	春	金3	2	3		47
20682	フランス語コミュニケーション講読Ⅱ	田中 善英	秋	金3	2	3		47
21044	フランスの美術Ⅰ	阿部 明日香	春	水1	2	2	交	48
21045	フランスの美術Ⅱ	阿部 明日香	秋	水1	2	2	交	48
21046	フランスの音楽Ⅰ	松橋 麻利	春	木4	2	2	交	49
21047	フランスの音楽Ⅱ	松橋 麻利	秋	木4	2	2	交	49
	フランスの舞台芸術Ⅰ	休講						
	フランスの舞台芸術Ⅱ	休講						
19267	フランス文学史Ⅰ	田村 毅	春	水4	2	2		50
19268	フランス文学史Ⅱ	田村 毅	秋	水4	2	2		50
20360	フランスの文学Ⅰ	田村 毅	春	月3	2	3		51
20361	フランスの文学Ⅱ	田村 毅	秋	月3	2	3		51
20359	フランス芸術文化各論Ⅰ	谷口 亜沙子	春	水1	2	3		52
20362	フランス芸術文化各論Ⅱ	谷口 亜沙子	秋	水1	2	3		52
20369	フランス芸術文化講読Ⅰ	M. ミズバヤシ	春	火1	2	3		53
20370	フランス芸術文化講読Ⅱ	M. ミズバヤシ	秋	火1	2	3		53
20381	フランス芸術文化講読Ⅰ	根本 祐徳	春	火2	2	3		54
20382	フランス芸術文化講読Ⅱ	根本 祐徳	秋	火2	2	3		54
20371	フランス芸術文化講読Ⅰ	伊藤 幸次	春	水1	2	3		55
20372	フランス芸術文化講読Ⅱ	伊藤 幸次	秋	水1	2	3		55
20377	フランス芸術文化講読Ⅰ	田村 毅	春	水2	2	3		56
20378	フランス芸術文化講読Ⅱ	田村 毅	秋	水2	2	3		56
20379	フランス芸術文化講読Ⅰ	筒井 伸保	春	木3	2	3		57
20380	フランス芸術文化講読Ⅱ	筒井 伸保	秋	木3	2	3		57
20375	フランス芸術文化講読Ⅰ	谷口 亜沙子	春	金2	2	3		58
20376	フランス芸術文化講読Ⅱ	谷口 亜沙子	秋	金2	2	3		58
20373	フランス芸術文化講読Ⅰ	阿部 明日香	春	金3	2	3		59
20374	フランス芸術文化講読Ⅱ	阿部 明日香	秋	金3	2	3		59

時間割 コード	開講科目名称	担当者	開講 学期	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
20383	フランス地域論Ⅰ	鈴木 隆	春	火4	2	3		60
20384	フランス地域論Ⅱ	鈴木 隆	秋	火4	2	3		60
19124	フランスの歴史Ⅰ	藤田 朋久	春	水2	2	2		61
19125	フランスの歴史Ⅱ	藤田 朋久	秋	水2	2	2		61
20390	フランスの政治経済Ⅱ	廣田 愛理	秋	木2	2	2	交	62
20391	フランスの政治経済Ⅰ	千代浦 昌道	春	木3	2	2	交	63
20392	フランスの政治経済Ⅱ	千代浦 昌道	秋	木3	2	2	交	63
20385	フランス現代思想Ⅰ	若森 栄樹	春	水2	2	3		64
20386	フランス現代思想Ⅱ	若森 栄樹	秋	水2	2	3		64
19134	現代フランス論Ⅰ	乗川 聡	春	月3	2	2		65
19135	現代フランス論Ⅱ	乗川 聡	秋	月3	2	2		65
20393	フランス現代社会各論Ⅰ	PH. ヴァネ	春	火1	2	3		66
20394	フランス現代社会各論Ⅱ	PH. ヴァネ	秋	火1	2	3		66
20395	フランス現代社会各論Ⅰ	井上 たか子	春	水3	2	3		67
20396	フランス現代社会各論Ⅱ	井上 たか子	秋	水3	2	3		67
20397	フランス現代社会講読Ⅰ	PH. ヴァネ	春	火2	2	3		68
20398	フランス現代社会講読Ⅱ	PH. ヴァネ	秋	火2	2	3		68
20403	フランス現代社会講読Ⅰ	藤田 朋久	春	火3	2	3		69
20404	フランス現代社会講読Ⅱ	藤田 朋久	秋	火3	2	3		69
20499	フランス現代社会講読Ⅰ	E. クロズ	春	金3	2	3		70
20500	フランス現代社会講読Ⅱ	E. クロズ	秋	金3	2	3		70
20633	フランス現代社会講読Ⅰ	乗川 聡	春	月2	2	3		71
20634	フランス現代社会講読Ⅱ	乗川 聡	秋	月2	2	3		71
20405	フランス現代社会講読Ⅰ	横地 卓哉	春	月3	2	3		72
20406	フランス現代社会講読Ⅱ	横地 卓哉	秋	月3	2	3		72
20399	フランス現代社会講読Ⅰ	鈴木 隆	春	水1	2	3		73
20400	フランス現代社会講読Ⅱ	鈴木 隆	秋	水1	2	3		73
20402	フランス現代社会講読Ⅱ	廣田 愛理	秋	水1	2	3		74
20407	フランス現代社会講読Ⅰ	若森 栄樹	春	木2	2	3		75
20408	フランス現代社会講読Ⅱ	若森 栄樹	秋	木2	2	3		75

### 交流文化論(09年度以降入学者)

時間割 コード	開講科目名称	担当者	開講 学期	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
20565	交流文化論(ツーリズム文化論)	太田 勉	春	月4	2	2	交・養 経・法	76
20598	交流文化論(市民参加のまちづくり論)	北野 収	春	月5	2	2	交・養 経・法	77
20593	交流文化論(旅行・宿泊産業論)	遠藤 充信	春	火4	2	2	交・養 経・法	78
20594	交流文化論(航空産業論)	遠藤 充信	春	木3	2	2	交・養 経・法	79
20601	交流文化論(表象文化論)	高橋 雄一郎	春	金2	2	2	交・養 経・法	80
20602	交流文化論(開発文化論)	北野 収	春	金3	2	2	交・養 経・法	81
20597	交流文化論(ツーリズム人類学)	須永 和博	春	金5	2	2	交・養 経・法	82
20595	交流文化論(サステイナブル・ツーリズム論)	北野 収	秋	月5	2	2	交・養 経・法	83
20575	交流文化論(国際会議・イベント事業論)	遠藤 充信	秋	火4	2	2	交・養 経・法	84
20592	交流文化論(ツーリズム政策論)	遠藤 充信	秋	火5	2	2	交・養 経・法	85
20571	交流文化論(ツーリズム・マネジメント論)	遠藤 充信	秋	木3	2	2	交・養 経・法	86
20567	交流文化論(ツーリズム・メディア論)	高橋 利男	秋	金1	2	2	交・養 経・法	87
20604	交流文化論(食の文化論)	北野 収	秋	金1	2	2	交・養 経・法	88
20600	交流文化論(パフォーマンス研究)	高橋 雄一郎	秋	金2	2	2	交・養 経・法	89
20603	交流文化論(トランスナショナル社会学)	北野 収	秋	金3	2	2	交・養 経・法	90
20596	交流文化論(オルタナティブ・ツーリズム論)	須永 和博	秋	金4	2	2	交・養 経・法	91
20599	交流文化論(メディア・ライティング論)	阿部 純一	秋	土1	2	2	交・養 経・法	92

# フランス語学科 授業科目 (2003～2007年度入学者用 目次)

## 学科基礎科目

時間割コード	開講科目名称	担当者/曜時	開講学期	単位数	開始学年	履修不可	ページ
	フランス語 I a・b(文法)	授業時間割表を参照してください。	春・秋	1	1	全	11
	フランス語 I a・b(講読) 既修者のみ		春・秋	1	1	全	12
	フランス語 I a・b(総合)		春・秋	1	1	全	13
	フランス語 I a・b(会話)未修者のみ		春・秋	1	1	全	15
	フランス語 I a・b(LL)		春・秋	1	1	全	16
	フランス語 II a・b(文法)		春・秋	1	2	全	17
	フランス語 II a・b(講読)		春・秋	1	2	全	18
	フランス語 II a・b(総合)		春・秋	1	2	全	19
	フランス語 II a・b(TP) 既修者のみ		春・秋	1	2	全	20
	フランス語 II a・b(会話)未修者のみ		春・秋	1	2	全	21
	フランス語 II a・b(文章表現)		春・秋	1	2	全	22

## 学科共通科目

時間割コード	開講科目名称	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
	総合フランス語a	授業時間割表を参照してください。	春		2	3	全	25
	総合フランス語b	授業時間割表を参照してください。	秋		2	3	全	25
09639	フランス語文章表現法a	PH. ヴァネ	春	月2	2	3		26
09640	フランス語文章表現法b	PH. ヴァネ	秋	月2	2	3		26
09641	フランス語文章表現法a	C. パジェス	春	月3	2	3		27
09642	フランス語文章表現法b	C. パジェス	秋	月3	2	3		27
09645	フランス語文章表現法a	Ch. ペリセロ	春	火1	2	3		28
09646	フランス語文章表現法b	Ch. ペリセロ	秋	火1	2	3		28
09643	フランス語文章表現法a	M. ミズバヤシ	春	木1	2	3		31
09644	フランス語文章表現法b	M. ミズバヤシ	秋	木1	2	3		31
09637	フランス語文章表現法a	B. レウルス	春	金2	2	3		32
09638	フランス語文章表現法b	B. レウルス	秋	金2	2	3		32
09735	和文仏訳a	小石 悟	春	火2	2	3		29
09736	和文仏訳b	小石 悟	秋	火2	2	3		29
09737	和文仏訳a	筒井 伸保	春	水1	2	3		30
09738	和文仏訳b	筒井 伸保	秋	水1	2	3		30
09614	フランス語会話a	M. P. ミュノーズ	春	火3	2	3		33
09618	フランス語会話b	M. P. ミュノーズ	秋	火3	2	3		33
09608	フランス語会話a	M. サガズ	春	木3	2	3		34
09609	フランス語会話b	M. サガズ	秋	木3	2	3		34
09612	フランス語会話a	E. クロズ	春	金2	2	3		35
09613	フランス語会話b	E. クロズ	秋	金2	2	3		35
09610	フランス語会話a	F. ルーセル	春	金3	2	3		36
09611	フランス語会話b	F. ルーセル	秋	金3	2	3		36
09719	時事フランス語a	井上 美穂	春	木2	2	3		38
09720	時事フランス語b	井上 美穂	秋	木2	2	3		38
09721	商業フランス語a	C. パジェス	春	月2	2	3		37
09722	商業フランス語b	C. パジェス	秋	月2	2	3		37

## 学科専門科目

時間割 コード	開講科目名称	担当者	開講 学期	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
09623	フランス語学概論a	田中 善英	春	火1	2	3		41
09624	フランス語学概論b	田中 善英	秋	火1	2	3		41
01635	フランス文学概論a	谷口 亜沙子	春	木1	2	1		23
01636	フランス文学概論b	谷口 亜沙子	秋	木1	2	1		23
	フランス語史a	休講						
	フランス語史b	休講						
09681	フランス文学史a	田村 毅	春	水4	2	2		50
09682	フランス文学史b	田村 毅	秋	水4	2	2		50
09627	フランス語学各論a	古川 直世	春	火3	2	3		44
09628	フランス語学各論b	古川 直世	秋	火3	2	3		44
09665	フランス文学各論a	田村 毅	春	月3	2	3		51
09666	フランス文学各論b	田村 毅	秋	月3	2	3		51
14275	フランス文学各論a	谷口 亜沙子	春	水1	2	3		52
14276	フランス文学各論b	谷口 亜沙子	秋	水1	2	3		52
09633	フランス語学講読a	中村 公子	春	木2	2	3		45
09634	フランス語学講読b	中村 公子	秋	木2	2	3		45
14283	フランス語学講読a	小石 悟	春	木3	2	3		46
14284	フランス語学講読b	小石 悟	秋	木3	2	3		46
12713	フランス語学講読a	田中 善英	春	金3	2	3		47
12714	フランス語学講読b	田中 善英	秋	金3	2	3		47
09673	フランス文学講読a	M. ミズバヤシ	春	火1	2	3		53
09674	フランス文学講読b	M. ミズバヤシ	秋	火1	2	3		53
09671	フランス文学講読a	根本 祐徳	春	火2	2	3		54
09672	フランス文学講読b	根本 祐徳	秋	火2	2	3		54
09677	フランス文学講読a	伊藤 幸次	春	水1	2	3		55
09678	フランス文学講読b	伊藤 幸次	秋	水1	2	3		55
11420	フランス文学講読a	田村 毅	春	水2	2	3		56
11421	フランス文学講読b	田村 毅	秋	水2	2	3		56
09675	フランス文学講読a	筒井 伸保	春	木3	2	3		57
09676	フランス文学講読b	筒井 伸保	秋	木3	2	3		57
09679	フランス文学講読a	谷口 亜沙子	春	金2	2	3		58
09680	フランス文学講読b	谷口 亜沙子	秋	金2	2	3		58
09629	フランス文学講読a	阿部 明日香	春	金3	2	3		59
09630	フランス文学講読b	阿部 明日香	秋	金3	2	3		59
01723	フランス文化・社会概論a	鈴木 隆	春	水3	2	1		24
01724	フランス文化・社会概論b	鈴木 隆	秋	水3	2	1		24
01705	フランス事情	藤田 朋久	春	火2	2	2		39
01719	フランス事情	井上 たか子	秋	水4	2	2		40
09606	フランスの地誌a	鈴木 隆	春	火4	2	2		60
09607	フランスの地誌b	鈴木 隆	秋	火4	2	2		60
07566	フランスの歴史a	藤田 朋久	春	水2	2	2		61
07567	フランスの歴史b	藤田 朋久	秋	水2	2	2		61
07570	フランスの思想a	若森 栄樹	春	水2	2	2		64
07571	フランスの思想b	若森 栄樹	秋	水2	2	2		64
11410	フランスの美術a	阿部 明日香	春	水1	2	2		48
11411	フランスの美術b	阿部 明日香	秋	水1	2	2		48
07560	フランスの音楽a	松橋 麻利	春	木4	2	2		49
07561	フランスの音楽b	松橋 麻利	秋	木4	2	2		49
	フランスの演劇a	休講						
	フランスの演劇b	休講						
	フランスの政治a	休講						
09605	フランスの政治b	廣田 愛理	秋	木2	2	2		62
11977	フランスの経済a	千代浦 昌道	春	木3	2	2		63
11978	フランスの経済b	千代浦 昌道	秋	木3	2	2		63

時間割 コード	開講科目名称	担当者	開講 学期	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
14277	フランス文化・社会各論a	PH. ヴァネ	春	火1	2	3		66
14278	フランス文化・社会各論b	PH. ヴァネ	秋	火1	2	3		66
09647	フランス文化・社会各論a	井上 たか子	春	水3	2	3		67
09648	フランス文化・社会各論b	井上 たか子	秋	水3	2	3		67
01654	フランス文化・社会講読a	乗川 聡	春	月2	2	3		71
01655	フランス文化・社会講読b	乗川 聡	秋	月2	2	3		71
09663	フランス文化・社会講読a	横地 卓哉	春	月3	2	3		72
09664	フランス文化・社会講読b	横地 卓哉	秋	月3	2	3		72
09655	フランス文化・社会講読a	PH. ヴァネ	春	火2	2	3		68
09656	フランス文化・社会講読b	PH. ヴァネ	秋	火2	2	3		68
09661	フランス文化・社会講読a	藤田 朋久	春	火3	2	3		69
09662	フランス文化・社会講読b	藤田 朋久	秋	火3	2	3		69
09657	フランス文化・社会講読a	鈴木 隆	春	水1	2	3		73
09832	フランス文化・社会講読b	鈴木 隆	秋	水1	2	3		73
09660	フランス文化・社会講読a	廣田 愛理	秋	水1	2	3		74
09651	フランス文化・社会講読a	若森 栄樹	春	木2	2	3		75
09652	フランス文化・社会講読b	若森 栄樹	秋	木2	2	3		75
09653	フランス文化・社会講読a	E. クロズ	春	金3	2	3		70
09654	フランス文化・社会講読b	E. クロズ	秋	金3	2	3		70

## 外国語学部共通科目

時間割 コード	科目名	担当者	開講 学期	曜時	定員	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
19598	総合講座	工藤 和宏	春	水3		2	1	養・経・法	93
19599	総合講座	工藤 和宏	秋	水3		2	1	養・経・法	93
07691	総合講座	廣田 愛理	秋	水2		2	1	養・経・法	94
00220	情報科学概論a	呉 浩東	春	月2	50	2	1	養・経・法	95
	情報科学概論b	休講							
	(入門)情報科学各論	各担当教員							96~98
19458	(情報処理演習)[総合]	田中 雅英	春	火2	50	2	1	養・経・法	
19460		田中 雅英	春	火3	50	2	1	養・経・法	
19456		長崎 等	春	水1	50	2	1	養・経・法	
19455		内田 俊郎	秋	木4	50	2	1	養・経・法	
19592	(情報処理演習)[英語]	羽山 恵	春	木3	50	2	1	養・経・法	
19593		羽山 恵	秋	木3	50	2	1	養・経・法	
15229	(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	金井 満	春	火2	45	2	1	養・経・法	
14281		田中 善英	春	金4	45	2	1	養・経・法	
15230		金井 満	秋	火2	45	2	1	養・経・法	
14282		田中 善英	秋	金4	45	2	1	養・経・法	
	(応用)情報科学各論	各担当教員							99~102
19471	(Excel・プレゼンテーション中級)	松山 恵美子	春	水2	30	2	1	養・経・法	
19450		内田 俊郎	春	木2	30	2	1	養・経・法	
19462		田中 雅英	秋	火4	30	2	1	養・経・法	
19472		松山 恵美子	秋	水2	30	2	1	養・経・法	
19463	(プレゼンテーション中級)	金子 憲一	春	月4	30	2	1	養・経・法	
19464		金子 憲一	秋	月4	30	2	1	養・経・法	
19465	(Word中級)	金子 憲一	春	月3	30	2	1	養・経・法	
19467		金子 憲一	春	月5	30	2	1	養・経・法	
19454		内田 俊郎	春	木4	30	2	1	養・経・法	
19459		田中 雅英	秋	火2	30	2	1	養・経・法	
19457		長崎 等	秋	水1	30	2	1	養・経・法	
19453		内田 俊郎	秋	木3	30	2	1	養・経・法	
19469	(Office中級)	松山 恵美子	春	水3	30	2	1	養・経・法	
19470		松山 恵美子	秋	水3	30	2	1	養・経・法	
16993	(言語情報処理1)	羽山 恵	春	木2	50	2	2	養・経・法	103
16994		吉成 雄一郎	春	金2	50	2	2	養・経・法	104
15232	(言語情報処理2)	羽山 恵	秋	木2	50	2	2	養・経・法	103
15234		吉成 雄一郎	秋	金2	50	2	2	養・経・法	104
	(HTML)情報科学各論	各担当教員							105
19451	(HTML初級)	内田 俊郎	秋	木2	50	2	1	養・経・法	
19452		内田 俊郎	春	木3	50	2	1	養・経・法	
19466		金子 憲一	秋	月3	50	2	1	養・経・法	
19461		田中 雅英	秋	火3	50	2	1	養・経・法	
19468	(HTML中級)	金子 憲一	秋	月5	30	2	1	養・経・法	106
00087	経済原論a	井上 智弘	春	水2	350	2	1	養・経・法	107
00088	経済原論b	井上 智弘	秋	水2	350	2	1	養・経・法	107
	社会心理学a	休講							
	社会心理学b	休講							

※定員のある科目はオンライン登録による抽選となります。必ず結果を確認してください。

※情報科学各論を履修する場合は、『授業時間割表』の「情報科学各論 重複履修可否一覧」を参考にしてください。

# フランス語学科シラバス

08年度以降 07年度以前	フランス語 I (文法) フランス語 Ia (文法)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
1年間でフランス語文法の概略を学ぶことを目的としています。未修クラスは週2回(1コマずつ)、既修クラスは週1回授業が行われます。使用教材や授業の進め方については、最初の授業時に各クラスの担当教員より説明があります。		(クラスによって使用教材と進度が異なりますので全てのクラスで共通して扱う内容とは言えませんが、一例として未修クラスで春学期に学習する可能性のある内容を示しておきます。)  冠詞 名詞・形容詞の男性形・女性形と単数・複数 形容詞の位置 所有形容詞 指示形容詞 疑問形容詞 比較級と最上級 直説法現在の動詞の活用 (être, avoir, -er, -ir, 不規則動詞) 否定形と疑問形 否定文中の de 冠詞の縮約 近接未来と近接過去 代名動詞 等 (順不同)	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
担当の先生より指示されます。		担当の先生より指示されます。	

08年度以降 07年度以前	フランス語 II (文法) フランス語 Ib (文法)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
同上。		(クラスによって使用教材と進度が異なりますので全てのクラスで共通して扱う内容とは言えませんが、一例として未修クラスで秋学期に学習する可能性のある内容を示しておきます。)  直説法複合過去・半過去・大過去 直説法単純未来・前未来 命令法 受動態 感嘆文 中性代名詞 人称代名詞 (直接目的、間接目的、強勢形) 関係代名詞 指示代名詞・所有代名詞・疑問代名詞 条件法 話法 (直接話法と間接話法) 接続法 現在分詞とジェロンディフ 使役動詞 (faire と laisser) 等 (順不同)	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
同上。		同上。	

08年度以降 07年度以前	フランス語 I (講読) (既修クラスのみ履修) フランス語 Ia (講読) (既修クラスのみ履修)	担当者	担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
この授業はフランス語で書かれたテキストを読む力を養うことを目的としており、1年生では既修クラスのみ履修します。使用教材や授業の進め方については、最初の授業時に担当教員より説明があります。		担当の先生より指示されます。	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
担当の先生より指示されます。		担当の先生より指示されます。	

08年度以降 07年度以前	フランス語 II (講読) (既修クラスのみ履修) フランス語 Ib (講読) (既修クラスのみ履修)	担当者	担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
同上。		同上。	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
同上。		同上。	

08年度以降 07年度以前	フランス語 I (総合) フランス語 Ia (総合)	担当者	各担当教員																																													
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>																																														
<p>この授業はフランス語の実力を総合的に養うことを目的としています。この授業は週2回あり(同日2コマ連続)、未修クラスは「LL」、「会話」と同じ教科書 <i>Champion 1</i> を用います。既修クラスでは「LL」と同じ <i>Reflets 1</i> を使います。</p> <p>未修クラスでは特に文法や語彙の修得に中心を置きます。各課の最初にある <i>dialogue</i> の理解、関連した文法事項の学習、口頭練習、練習問題を通して、フランス語の基礎となる知識と基本的な表現を確実に身につけてゆきます。</p> <p>既修クラスではネイティブ・スピーカーが授業を担当し、会話を中心に、総合的な運用能力を身につけることを目標にします。</p> <p>進度や授業方法は担当の先生から最初の授業時に指示があります。</p>		<table border="0"> <tr> <td></td> <td><i>Champion I</i></td> <td><i>Reflets I</i></td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>Unité 0</td> <td>Dossier 0</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Unité 1</td> <td>Dossier 1</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Unité 2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td>Dossier 2</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>Unité 3</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>Unité 4</td> <td>Dossier 3</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>Bilan 1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>11</td> <td></td> <td>Dossier 4</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>Unité 5</td> <td></td> </tr> <tr> <td>13</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>まとめ</td> <td>まとめ</td> </tr> </table> <p>原則として上記のような進度になりますが、クラスによって多少の差があります。</p>			<i>Champion I</i>	<i>Reflets I</i>	1	Unité 0	Dossier 0	2	Unité 1	Dossier 1	3			4	Unité 2		5		Dossier 2	6	Unité 3		7			8	Unité 4	Dossier 3	9			10	Bilan 1		11		Dossier 4	12	Unité 5		13			14	まとめ	まとめ
	<i>Champion I</i>	<i>Reflets I</i>																																														
1	Unité 0	Dossier 0																																														
2	Unité 1	Dossier 1																																														
3																																																
4	Unité 2																																															
5		Dossier 2																																														
6	Unité 3																																															
7																																																
8	Unité 4	Dossier 3																																														
9																																																
10	Bilan 1																																															
11		Dossier 4																																														
12	Unité 5																																															
13																																																
14	まとめ	まとめ																																														
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>																																														
未修クラス： <i>Champion 1</i> 既修クラス： <i>Reflets 1</i>		担当の先生より指示されます。																																														

08年度以降 07年度以前	フランス語 II (総合) フランス語 Ib (総合)	担当者	各担当教員																																													
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>																																														
同上。		<table border="0"> <tr> <td></td> <td><i>Champion I</i></td> <td><i>Reflets I</i></td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>Unité 6</td> <td>Dossier 5</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Unité 7</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Unité 8</td> <td>Dossier 6</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>Bilan 2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>Unité 9</td> <td>Dossier 7</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>Unité 10</td> <td></td> </tr> <tr> <td>12</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>まとめ</td> <td>まとめ</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>原則として上記のような進度になりますが、クラスによって多少の差があります。</p>			<i>Champion I</i>	<i>Reflets I</i>	1	Unité 6	Dossier 5	2			3	Unité 7		4			5	Unité 8	Dossier 6	6			7	Bilan 2		8			9	Unité 9	Dossier 7	10			11	Unité 10		12			13	まとめ	まとめ	14		
	<i>Champion I</i>	<i>Reflets I</i>																																														
1	Unité 6	Dossier 5																																														
2																																																
3	Unité 7																																															
4																																																
5	Unité 8	Dossier 6																																														
6																																																
7	Bilan 2																																															
8																																																
9	Unité 9	Dossier 7																																														
10																																																
11	Unité 10																																															
12																																																
13	まとめ	まとめ																																														
14																																																
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>																																														
同上。		同上。																																														

08年度以降	フランス語 I (TP) (既修クラスのみ履修)	担当者	担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>TP (= Travaux Pratiques) では学習者のレベルに応じて、様々なメディアを利用し、各自のレベルやペースに従って練習問題等の課題に取り組みます。教材や授業の進め方等については担当教員から最初の授業時に説明があります。</p>		<p>担当教員より指示されます。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>担当教員より指示されます。</p>		<p>担当教員より指示されます。</p>	

08年度以降	フランス語 II (TP) (既修クラスのみ履修)	担当者	担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>同上。</p>		<p>同上。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>同上。</p>		<p>同上。</p>	

08年度以降 07年度以前	フランス語 I (会話) (未修クラスのみ履修) フランス語 Ia (会話) (未修クラスのみ履修)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
この授業はフランス語の運用能力をつけることを目的としています。フランス語のネイティブ・スピーカーが担当して、特に会話と決まった言い回しの修得を中心とした授業になります。教科書は、「総合」、「LL」と連動して同じ教科書 <i>Champion 1</i> を使用します。授業の進め方については各担当教員から説明があります。		進度は「フランス語 I (総合)」と同じです。	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<i>Champion 1</i>		担当の先生より指示されます。	

08年度以降 07年度以前	フランス語 II (会話) (未修クラスのみ履修) フランス語 Ib (会話) (未修クラスのみ履修)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
同上。		進度は「フランス語 II (総合)」と同じです。	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
同上。		同上。	

08年度以降 07年度以前	フランス語 I (LL) フランス語 Ia (LL)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業では、発音、綴り字と音、聞き取りの練習に力を入れます。未修クラスでは「総合」や「会話」と同じ教科書 <i>Champion 1</i> 、既修クラスでは「総合」と同じ <i>Reflets 1</i> を使用します。どちらのクラスもこの授業は CAL 教室で行います。授業の進め方については各担当教員から説明があります。		進度は「フランス語 I (総合)」と同じです。	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>Champion 1</i> <i>Reflets 1</i>		担当の先生より指示されます。	

08年度以降 07年度以前	フランス語 II (LL) フランス語 Ib (LL)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
同上。		進度は「フランス語 II (総合)」と同じです。	
テキスト、参考文献		評価方法	
同上。		同上。	

08年度以降 07年度以前	フランス語 III (文法) フランス語 IIa (文法)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業は初級文法を習得した学生に、文法上の難しい事柄について踏み込んだ説明をし、より洗練された知識を身につけてもらうことを目的としています。既修クラス、未修クラスともに週1回の授業です。</p> <p>使用教材や授業の進め方については、最初の授業時に各クラスの担当教員から説明があります。</p>		<p>担当の先生より指示されます。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>担当の先生より指示されます。</p>		<p>担当の先生より指示されます。</p>	

08年度以降 07年度以前	フランス語 IV (文法) フランス語 IIb (文法)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>同上。</p>		<p>同上。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>同上。</p>		<p>同上。</p>	

08年度以降 07年度以前	フランス語 III (講読) フランス語 IIa (講読)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業はフランス語で書かれた簡単なテキストを読むことによって読解力を養うことを目的としています。</p> <p>使用教材や授業の進め方については、最初の授業時に各担当教員から説明があります。</p>		<p>担当の先生より指示されます。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>担当の先生より指示されます。</p>		<p>担当の先生より指示されます。</p>	

08年度以降 07年度以前	フランス語 IV (講読) フランス語 IIb (講読)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>同上。</p>		<p>同上。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>同上。</p>		<p>同上。</p>	

08年度以降 07年度以前	フランス語 III (総合) フランス語 IIa (総合)	担当者	各担当教員																																													
講義目的、講義概要		授業計画																																														
<p>この授業はフランス語の実力を総合的にのばすことを目的としています。授業は週2回あり（同日2コマ連続）、未修クラスでは「会話」と同じ教科書 <i>Champion 1, 2</i>、既修クラスでは <i>Reflets 2</i> を使用し、未修クラスは日本人教員、既修クラスはネイティブ・スピーカーが授業を担当します。</p> <p>授業の進め方等については、各担当教員から説明があります。</p>		<table border="0"> <tr> <td></td> <td><i>Champion 1</i></td> <td><i>Reflets 1</i></td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>Unité 11</td> <td>Dossier 8</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Unité 12</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td>Dossier 9</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Bilan 3</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>Unité 13</td> <td>Dossier 10</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>Unité 14</td> <td></td> </tr> <tr> <td>10</td> <td></td> <td>Dossier 11</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>Unité 15</td> <td></td> </tr> <tr> <td>12</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>まとめ</td> <td>Dossier 12</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>原則として上記のような進度になりますが、クラスによって多少の差があります。</p>			<i>Champion 1</i>	<i>Reflets 1</i>	1	Unité 11	Dossier 8	2			3	Unité 12		4		Dossier 9	5	Bilan 3		6			7	Unité 13	Dossier 10	8			9	Unité 14		10		Dossier 11	11	Unité 15		12			13	まとめ	Dossier 12	14		
	<i>Champion 1</i>	<i>Reflets 1</i>																																														
1	Unité 11	Dossier 8																																														
2																																																
3	Unité 12																																															
4		Dossier 9																																														
5	Bilan 3																																															
6																																																
7	Unité 13	Dossier 10																																														
8																																																
9	Unité 14																																															
10		Dossier 11																																														
11	Unité 15																																															
12																																																
13	まとめ	Dossier 12																																														
14																																																
テキスト、参考文献		評価方法																																														
未修クラス： <i>Champion 1</i> 既修クラス： <i>Reflets 2</i>		担当の先生より指示されます。																																														

08年度以降 07年度以前	フランス語 IV (総合) フランス語 IIb (総合)	担当者	各担当教員																																													
講義目的、講義概要		授業計画																																														
同上。		<table border="0"> <tr> <td></td> <td><i>Champion 1 &amp; 2</i></td> <td><i>Reflets 2</i></td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>Unité 16</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td>Dossier 1</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Bilan 6</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td><i>Champion 2</i> Unité 1</td> <td>Dossier 2</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>Unité 2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8</td> <td></td> <td>Dossier 3</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>Unité 3</td> <td></td> </tr> <tr> <td>10</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>Bilan 1</td> <td>Dossier 4</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>Unité 4</td> <td></td> </tr> <tr> <td>13</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>まとめ</td> <td>まとめ</td> </tr> </table> <p>原則として上記のような進度になりますが、クラスによって多少の差があります。</p>			<i>Champion 1 &amp; 2</i>	<i>Reflets 2</i>	1	Unité 16		2		Dossier 1	3	Bilan 6		4			5	<i>Champion 2</i> Unité 1	Dossier 2	6			7	Unité 2		8		Dossier 3	9	Unité 3		10			11	Bilan 1	Dossier 4	12	Unité 4		13			14	まとめ	まとめ
	<i>Champion 1 &amp; 2</i>	<i>Reflets 2</i>																																														
1	Unité 16																																															
2		Dossier 1																																														
3	Bilan 6																																															
4																																																
5	<i>Champion 2</i> Unité 1	Dossier 2																																														
6																																																
7	Unité 2																																															
8		Dossier 3																																														
9	Unité 3																																															
10																																																
11	Bilan 1	Dossier 4																																														
12	Unité 4																																															
13																																																
14	まとめ	まとめ																																														
テキスト、参考文献		評価方法																																														
未修クラス： <i>Champion 1, 2</i> 既修クラス： <i>Reflets 2</i>		同上。																																														

08年度以降 06～07年度	フランス語 III (TP) (既修クラスのみ履修) フランス語 II a (TP) (既修クラスのみ履修)	担当者	担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>TP (= Travaux Pratiques) では学習者のレベルに応じて、様々なメディアを利用し、各自のレベルやペースに従って練習問題等の課題に取り組みます。</p> <p>教材や授業の進め方等については担当教員から最初の授業時に説明があります。</p>		<p>担当教員より指示されます。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>担当教員より指示されます。</p>		<p>担当教員より指示されます。</p>	

08年度以降 06～07年度	フランス語 IV (TP) (既修クラスのみ履修) フランス語 II b (TP) (既修クラスのみ履修)	担当者	担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>同上。</p>		<p>同上。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>同上。</p>		<p>同上。</p>	

08年度以降 07年度以前	フランス語 III (会話) (未修クラスのみ履修) フランス語 IIa (会話) (未修クラスのみ履修)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業はフランス語の運用能力をつけることを目的としています。フランス語のネイティブスピーカーが担当し、特に会話と決まった言い回しの修得を中心とした授業になります。未修クラスのみ履修します。</p> <p>教科書は、「総合」と連動して同じ教科書 <i>Champion 1, 2</i> を使用します。授業の進め方については各担当教員から説明があります。</p>		<p>進度は「フランス語 III (総合)」と同じです。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>Champion 1, 2</i>		担当の先生より指示されます。	

08年度以降 07年度以前	フランス語 IV (会話) (未修クラスのみ履修) フランス語 IIb (会話) (未修クラスのみ履修)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
同上。		<p>進度は「フランス語 IV (総合)」と同じです。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
同上。		同上。	

08年度以降 06～07年度 03～05年度	フランス語 III (構文) フランス語 IIa (文章表現) フランス語 IIa (LL)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業は1年次に習得した初級文法の知識を基礎にして、フランス語で文章を書くために必要な構文を学習し、様々なフランス語の構文理解と定着を目的とします。</p> <p>必要に応じて1年生で学習した文法項目について復習しながらフランス語の文の構造を学習します。基本的な構文学習のために、短い単文を書く練習からより複雑で少し長めの複文までの練習を行います。同時に文の構造を覚える観点からも書いた文の発音練習や構文を覚えるための口頭練習等、音声練習も行います。</p> <p>具体的な授業の進め方等については各担当教員から最初に説明があります。</p> <p>(注意) 2005年度以前入学生の「フランス語 II a, b (LL)」の再履修は、2年生に 2008年度から導入されたこの科目を履修してください。</p>		<p>担当の先生より指示されます。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>担当の先生より指示されます。</p>		<p>担当の先生より指示されます。</p>	

08年度以降 06～07年度 03～05年度	フランス語 IV (構文) フランス語 IIb (文章表現) フランス語 IIb (LL)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>同上。</p>		<p>同上。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>同上。</p>		<p>同上。</p>	

08年度以降 07年度以前	フランス芸術文化入門Ⅰ フランス文学概論 a	担当者	谷口 亜沙子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>フランスの芸術・文化に関する基礎知識を習得させ、「フランス芸術文化」部門の専門科目への導入を目的とした授業である。そのため、フランスの芸術・文化について、広範囲、多岐に、概括的なテーマを取り上げ、講義する。</p> <p>「フランス芸術文化入門Ⅰ」（春学期）では、特に文学にテーマを絞り、フランス近・現代文学に関する概説的な講義を回り持ちで行う。1年生を主な対象者とするので、翻訳の抜粋や映像資料などを活用し、初心者に分かりやすくフランス文学に親しむ機会を提供したい。</p> <p>フランス語学科以外の学生でこの授業を履修する学生は、以下のことを了承した上で履修してください。「この科目はフランス語学科の学科基礎科目になっていますので、授業はフランス語学科の学生を念頭に置いて行われます。」</p>		<p>第1回(4/8)：ガイダンス(谷口亜沙子)</p> <p>第2回(4/15)：物語の誕生(田村毅)</p> <p>第3回(4/22)：19世紀の文学1(伊藤幸次)</p> <p>第4回(5/6)：19世紀の文学2(伊藤幸次)</p> <p>第5回(5/13)：19世紀の文学3(伊藤幸次)</p> <p>第6回(5/20)：恋愛小説1(根本祐徳)</p> <p>第7回(5/27)：恋愛小説2(根本祐徳)</p> <p>第8回(6/3)：大衆文学1(筒井伸保)</p> <p>第9回(6/10)：大衆文学2(筒井伸保)</p> <p>第10回(6/17)：大衆文学3(筒井伸保)</p> <p>第11回(6/24)：20世紀の文学1(谷口亜沙子)</p> <p>第12回(7/1)：20世紀の文学2(谷口亜沙子)</p> <p>第13回(7/8)：20世紀の文学3(谷口亜沙子)</p> <p>第14回(7/15)：まとめ(谷口亜沙子)</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
テキストはプリント。参考文献は各教員から授業内に指示される。		学期末試験に平常点(出席)を加味する。	

08年度以降 07年度以前	フランス芸術文化入門Ⅱ フランス文学概論 b	担当者	谷口 亜沙子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>講義目的は上記参照。</p> <p>「フランス芸術文化入門Ⅱ」（秋学期）では、文学以外の芸術文化一般を取り上げ、フランスの文化・芸術の各分野毎の概説・入門的な講義を行う。1年生を主な対象者とするので、できるだけ映像資料や音声資料などを活用し、初心者に分かりやすくフランス芸術文化の全体像を提示する。</p> <p>フランス語学科以外の学生でこの授業を履修する学生は、以下のことを了承した上で履修してください。「この科目はフランス語学科の学科基礎科目になっていますので、授業はフランス語学科の学生を念頭に置いて行われます。」</p>		<p>第1回(9/30)：フランスの祝祭1(小石悟)</p> <p>第2回(10/7)：フランスの祝祭2(小石悟)</p> <p>第3回(10/14)：音楽とキリスト教1(松橋麻利)</p> <p>第4回(10/21)：音楽とキリスト教2(松橋麻利)</p> <p>第5回(10/28)：美術館と美術1(阿部明日香)</p> <p>第6回(11/4)：美術館と美術2(阿部明日香)</p> <p>第7回(11/11)：美術館と美術3(阿部明日香)</p> <p>第8回(11/18)：思想入門1(若森栄樹)</p> <p>第9回(11/25)：思想入門2(若森栄樹)</p> <p>第10回(12/2)：思想入門3(若森栄樹)</p> <p>第11回(12/9)：フランス語と世界1(田中善英)</p> <p>第12回(12/16)：フランス語と世界2(田中善英)</p> <p>第13回(12/23)：フランス語と世界3(田中善英)</p> <p>第14回(1/13)：まとめ(谷口亜沙子)</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
テキストはプリント。参考文献は各教員から授業内に指示される。		学期末試験に平常点(出席)を加味する。	

08年度以降 07年度以前	フランス現代社会入門Ⅰ フランス文化・社会概論 a	担当者	鈴木 隆
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義は、フランスについての基礎的な知識を様々な角度から習得することを目的とします。複数の教員が、異なる主題について、以下の概要の講義をそれぞれ4回行う。</p> <p>《フランスの地域》フランスをかたちづくる地域について知ることを目的とする。地域の制度を説明した上で、それぞれに異なる地域の概要や特徴について学ぶ。</p> <p>《フランスの歴史》フランス社会を理解するために必要な歴史知識を学ぶ。古代から現代までのフランス史の流れを概観し、基本的な歴史事項を確認すると同時に、フランス社会の歴史的な特質についても学ぶ。</p> <p>《フランスの教育と生活》フランスの教育制度について日本の教育制度と比較しながら学び、フランスの生活については「フランスの祝祭日」を中心に一年間の流れを外観する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義概要の説明 (鈴木 隆)</li> <li>2. フランスの地域 1 (鈴木 隆)</li> <li>3. フランスの地域 2 (鈴木 隆)</li> <li>4. フランスの地域 3 (鈴木 隆)</li> <li>5. フランスの地域 4 (鈴木 隆)</li> <li>6. フランスの歴史 1 (藤田 朋久)</li> <li>7. フランスの歴史 2 (藤田 朋久)</li> <li>8. フランスの歴史 3 (藤田 朋久)</li> <li>9. フランスの歴史 4 (藤田 朋久)</li> <li>10. フランスの教育と生活 1 (中村 公子)</li> <li>11. フランスの教育と生活 2 (中村 公子)</li> <li>12. フランスの教育と生活 3 (中村 公子)</li> <li>13. フランスの教育と生活 4 (中村 公子)</li> <li>14. 講義のまとめ (鈴木 隆)</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキストは無い。参考文献は各担当者が必要に応じて紹介する。</p>		<p>試験の結果 (75%) と出席点 (25%) によって評価する。</p>	

08年度以降 07年度以前	フランス現代社会入門Ⅱ フランス文化・社会概論 b	担当者	鈴木 隆
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義は、フランスについての基礎的な知識を様々な角度から習得することを目的とします。複数の教員が、異なる主題について、以下の概要の講義をそれぞれ4回行う。</p> <p>《フランスの政治経済》フランスの政治・経済の基本的な特徴について簡単に確認したうえで、移民問題や余暇など、特定のテーマをいくつか取り上げる。</p> <p>《パリ》「十九世紀の首都」(ヴァルター・ベンヤミン) パリを、第二帝政期の都市改造、万国博覧会などに注目しつつ概観する。初回に「パリについて知りたいこと」と題したアンケートを行うので、もって考えておくこと。</p> <p>《フランスとヨーロッパ》ヨーロッパ連合はその一員であるフランスの国民生活に、政治経済面において、多大な影響を与えている。講義では、ヨーロッパ連合の設立理由、組織と機能、活動および現在における問題について述べる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義概要の説明 (鈴木 隆)</li> <li>2. フランスの政治経済 1 (廣田 愛理)</li> <li>3. フランスの政治経済 2 (廣田 愛理)</li> <li>4. フランスの政治経済 3 (廣田 愛理)</li> <li>5. フランスの政治経済 4 (廣田 愛理)</li> <li>6. パリ 1 (横地 卓哉)</li> <li>7. パリ 2 (横地 卓哉)</li> <li>8. パリ 3 (横地 卓哉)</li> <li>9. パリ 4 (横地 卓哉)</li> <li>10. フランスとヨーロッパ 1 (フィリップ ヴァネ)</li> <li>11. フランスとヨーロッパ 2 (フィリップ ヴァネ)</li> <li>12. フランスとヨーロッパ 3 (フィリップ ヴァネ)</li> <li>13. フランスとヨーロッパ 4 (フィリップ ヴァネ)</li> <li>14. まとめ (鈴木 隆)</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキストは無い。参考文献は各担当者が必要に応じて紹介する。</p>		<p>試験の結果 (75%) と出席点 (25%) によって評価する。</p>	

08年度以降 07年度以前	総合フランス語 I 総合フランス語 a	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Le but de ce cours est d'approfondir la connaissance de la langue française aussi bien sur le plan grammatical que lexical.</p> <p>Il prend la suite des cours de Sogo des premières années mais il n'a lieu qu'une fois par semaine avec un enseignant francophone. Vous devez donc travailler personnellement à la maison et préparer à l'avance.</p> <p>Le groupe 3-1 utilise <i>Reflets 2</i> à partir du dossier 5 ; les groupes 2, 3, 4 et 5 : <i>Champion 2</i> à partir de l'unité 5.</p> <p>On insistera surtout sur la compréhension à l'écrit et à l'oral et sur l'expression écrite.</p> <p><u>Attention au numéro de votre groupe</u> : il est différent de celui de l'année dernière.</p>		<p><i>Champion 2</i>      <i>Reflets 2</i></p> <p>1      Unité 5      Dossier 5</p> <p>2</p> <p>3</p> <p>4      Unité 6      Dossier 6</p> <p>5</p> <p>6</p> <p>7      Bilan 2      Dossier 7</p> <p>8      Unité 7</p> <p>9</p> <p>10                      Dossier 8</p> <p>11      Unité 8</p> <p>12</p> <p>13                      Révision</p> <p>14</p> <p>Certaines classes peuvent n'arriver qu'à l'Unité 7 (<i>Champion</i>).</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>Champion 2</i> + cahier d'exercices et CD. <i>Reflets 2</i> .		La méthode d'évaluation des connaissances sera expliquée par chaque enseignant.	

08年度以降 07年度以前	総合フランス語 II 総合フランス語 b	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Voir les explications du premier semestre.</p>		<p><i>Champion 2</i>      <i>Reflets 2</i></p> <p>1      Unité 9      Dossier 9</p> <p>2</p> <p>3</p> <p>4      Bilan 3      Dossier 10</p> <p>5      Unité 10</p> <p>6</p> <p>7                      Dossier 11</p> <p>8      Unité 11</p> <p>9</p> <p>10                      Dossier 12</p> <p>11      Unité 12</p> <p>12</p> <p>13                      Révision</p> <p>14      Bilan 4</p> <p>Certaines classes peuvent n'arriver qu'à l'Unité 10 ou 11 (<i>Champion</i>).</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>Champion 2</i> + cahier d'exercices et CD. <i>Reflets 2</i> .		La méthode d'évaluation des connaissances sera expliquée par chaque enseignant.	

08年度以降 07年度以前	フランス語文章表現法 I フランス語文章表現法 a	担当者	PH. ヴァネ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>On n'a jamais autant écrit depuis l'arrivée des téléphones portables et de l'internet. L'écriture est à la fois un moyen de communication et un moyen d'approfondir ses propres idées et sentiments. Dans ce but, elle fait appel à des règles de logique que nous essaierons de découvrir.</p> <p>1) Exercices sur les articulations et les expressions de la cause, de la conséquence, du but, de l'opposition.</p> <p>2) Travail sur le plan.</p> <p>3) Écrire une introduction, une conclusion, un paragraphe.</p> <p>Une fois par semestre, chaque étudiant écrit librement une composition. Le devoir est rendu 3 fois. Au cours des deux premières fois, j'indique les endroits à modifier. Après la troisième rédaction, je propose une correction possible.</p>		<p>1. le 1<sup>er</sup> semestre consiste en l'étude des articulations logiques.</p> <p>5 Remise du devoir (1<sup>ère</sup> fois)</p> <p>8 Remise du devoir (2<sup>e</sup> fois)</p> <p>13 Remise du devoir (3<sup>e</sup> fois)</p> <p>14</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Photocopies. Avoir si possible un dictionnaire français-français, par exemple le <i>Larousse</i> de poche 2010.		Le grand devoir semestriel est noté. 人数超過の場合には初回の授業で選考を行うことがある	

08年度以降 07年度以前	フランス語文章表現法 II フランス語文章表現法 b	担当者	PH. ヴァネ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Voir ci-dessus la présentation du cours.</p> <p>Suite du premier semestre, en particulier étude sur les questions de plan.</p>		<p>1. le 2<sup>e</sup> semestre consiste en l'étude de la structure logique des textes</p> <p>5 Remise du devoir (1<sup>ère</sup> fois)</p> <p>8 Remise du devoir (2<sup>e</sup> fois)</p> <p>13 Remise du devoir (3<sup>e</sup> fois)</p> <p>14</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Photocopies. Avoir si possible un dictionnaire français-français, par exemple le <i>Larousse</i> de poche 2010.		Le grand devoir semestriel est noté. 人数超過の場合には初回の授業で選考を行うことがある	

08年度以降 07年度以前	フランス語文章表現法 I フランス語文章表現法 a	担当者	Ch. バジエス
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>Ce cours d'expression écrite a pour objectif la composition française sur des sujets variés : rédiger une lettre, remplir un formulaire d'inscription, ainsi que rédiger de (petits) textes très utiles pour les e-mails (courriels) ou des lettres sur des thèmes, de préférence, choisis par les étudiants : littérature, arts, société, cinéma, cuisine et vins, voyages, mode, famille, politique, etc. (35 étudiants maximum)</p> <p>この文章表現クラスは、様々なテーマにおけるフランス語による文書作成を目的としています。 手紙の書き方、申請書への記入の仕方をはじめとし、電子メールや郵便物を書く際に非常役立つ文章などを学びます。また、文学・美術・社会問題・映画・料理・ワイン・旅行・ファッション・家族問題・政治など、生徒の好みに応じたテーマによる文章作成も行います。 (35名まで)</p>		<p>次の内容を春学期で扱います。(変更あり)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction au cours / programme</li> <li>2. Introduction du sujet de composition 1</li> <li>3. Réflexion / explication / rédaction</li> <li>4. Corrigé et commentaires</li> <li>5. Introduction du sujet de composition 2</li> <li>6. Réflexion / explication / rédaction</li> <li>7. Corrigé et commentaires</li> <li>8. Introduction du sujet de composition 3</li> <li>9. Réflexion / explication / rédaction</li> <li>10. Corrigé et commentaires</li> <li>11. Introduction du sujet de composition 4</li> <li>12. Réflexion / explication / rédaction</li> <li>13. Corrigé et commentaires</li> <li>14. Composition finale</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
プリント		出席及び授業への参加態度	

08年度以降 07年度以前	フランス語文章表現法 II フランス語文章表現法 b	担当者	Ch. バジエス
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>Ce cours d'expression écrite a pour objectif la composition française sur des sujets variés : rédiger une lettre, remplir un formulaire d'inscription, ainsi que rédiger de (petits) textes très utiles pour les e-mails (courriels) ou des lettres sur des thèmes, de préférence, choisis par les étudiants : littérature, arts, société, cinéma, cuisine et vins, voyages, mode, famille, politique, etc. (35 étudiants maximum)</p> <p>この文章表現クラスは、様々なテーマにおけるフランス語による文書作成を目的としています。 手紙の書き方、申請書への記入の仕方をはじめとし、電子メールや郵便物を書く際に非常役立つ文章などを学びます。また、文学・美術・社会問題・映画・料理・ワイン・旅行・ファッション・家族問題・政治など、生徒の好みに応じたテーマによる文章作成も行います。 (35名まで)</p>		<p>次の内容を秋学期で扱います。(変更あり)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction au cours / programme</li> <li>2. Introduction du sujet de composition 5</li> <li>3. Réflexion / explication / rédaction</li> <li>4. Corrigé et commentaires</li> <li>5. Introduction du sujet de composition 6</li> <li>6. Réflexion / explication / rédaction</li> <li>7. Corrigé et commentaires</li> <li>8. Introduction du sujet de composition 7</li> <li>9. Réflexion / explication / rédaction</li> <li>10. Corrigé et commentaires</li> <li>11. Introduction du sujet de composition 8</li> <li>12. Réflexion / explication / rédaction</li> <li>13. Corrigé et commentaires</li> <li>14. Composition finale</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
プリント		出席及び授業への参加態度	

08年度以降 07年度以前	フランス語文章表現法 I フランス語文章表現法 a	担当者	Ch. ペリセロ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Bonjour, Dans ce cours, nous travaillerons d'abord l'écriture d'une lettre amicale puis officielle. Ces pratiques vous seront utiles pour améliorer votre expression écrite (vocabulaire, grammaire, organisation des idées) mais aussi pour passer les épreuves écrites des niveaux A1 et A2 du DELF.</p>		<p>Cours 1 à 6 : La lettre amicale. Cours 7 à 14 : La lettre officielle (demande d'informations, réclamation, etc...)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Vous ne devez pas acheter de manuel. Je vous donnerai des photocopies et des « méthodologies » pour composer une lettre amicale et officielle.</p>		<p>L'évaluation se fera à partir des présences, du travail en classe, des devoirs (chaque semaine) et d'un examen final.</p>	

08年度以降 07年度以前	フランス語文章表現法 II フランス語文章表現法 b	担当者	Ch. ペリセロ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Bonjour, Dans ce cours, nous travaillerons la composition d'un court essai. Nous verrons comment organiser des idées en faisant <u>un plan</u>. Savoir faire un plan est utile pour les exercices écrits que vous pouvez faire dans des universités françaises ou pour passer des examens comme les niveaux B1 et B2 du DELF pour aller étudier en France.</p>		<p>Cours 1 à 2 : Lecture du sujet. Cours 3 à 4 : Recherche des idées et choix du plan. Cours 5 à 6 : Organisation des idées. Cours 6 à 7 : Ecriture de l'introduction et de la conclusion. Cours 8 à 14 : Rédaction de courts essais.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Vous ne devez pas acheter de manuel. Je vous donnerai des photocopies et une « méthodologie » pour composer un court essai.</p>		<p>L'évaluation se fera à partir des présences, du travail en classe, des devoirs (un travail écrit par mois) et d'un examen final.</p>	

08年度以降 07年度以前	フランス語文章表現法Ⅰ 和文仏訳 a	担当者	小石 悟
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>日本語のテキストをもとにするが、逐語訳するのではなく、自分の知っている構文を用いて、省略、倒置、言い換えなどを行いながら、自然なフランス語を書くようななることを目指す。</p> <p>授業の概要</p> <p>作文が上達するためには、書いたものを直して間違いに気づくしかない。この授業では、各人が書いてきた文をもとに、どうすればもっと良い文なるかを全員で考える。その過程で不足している文法事項、語彙などを徐々に身につけるようにする。</p>		<p>第1回： ガイダンス</p> <p>第2回： 関係代名詞を含む文 1</p> <p>第3回： 関係代名詞を含む文 2</p> <p>第4回： 複合過去・半過去・大過去を含む文 1</p> <p>第5回： 複合過去・半過去・大過去を含む文 2</p> <p>第6回： 条件法を含む文 1</p> <p>第7回： 接続法を含む文 2</p> <p>第8回： 理由を表す文 1</p> <p>第9回： 理由を表す文 2</p> <p>第10回： 結果を表す文 1</p> <p>第11回： 結果を表す文 2</p> <p>第12回： 譲歩を表す文 1</p> <p>第13回： 譲歩を表す文 2</p> <p>第14回： 目的を表す文 1</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
プリント		定期試験に平常点（出席）が加味される。	

08年度以降 07年度以前	フランス語文章表現法Ⅱ 和文仏訳 b	担当者	小石 悟
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
春学期に同じ		<p>第1回： ガイダンス</p> <p>第2回： 「フランス人のまっかなほんど」 1</p> <p>第3回： 「フランス人のまっかなほんど」 2</p> <p>第4回： 「フランス人のまっかなほんど」 3</p> <p>第5回： 「フランス人のまっかなほんど」 4</p> <p>第6回： 「日本人のまっかなほんど」 1</p> <p>第7回： 「日本人のまっかなほんど」 2</p> <p>第8回： 「日本人のまっかなほんど」 3</p> <p>第9回： 「日本人のまっかなほんど」 4</p> <p>第10回： 週刊誌記事からの抜粋 1</p> <p>第11回： 週刊誌記事からの抜粋 2</p> <p>第12回： 週刊誌記事からの抜粋 3</p> <p>第13回： 週刊誌記事からの抜粋 4</p> <p>第14回： 週刊誌記事からの抜粋 5</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
プリント		定期試験に平常点（出席）が加味される。	

08年度以降 07年度以前	フランス語文章表現法Ⅰ 和文仏訳 a	担当者	筒井 伸保
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>1、2年で学習した文法・語彙の知識を活用して、フランス語の文章を作る能力を高める。簡単な単文(主語+動詞の文)から、複文(様々な従属節—時間・理由・目的などを示す副詞節、関係代名詞節などの形容詞節—を伴う文)までの練習を行う。授業は下記の教科書の練習問題を扱う。履修する学生は自分の試訳を準備し、その試訳を黒板に書いてもらう。毎回ほぼ全員が当たるので予習が必須である。人数制限をする場合があるので、履修を望む学生は必ず1回目の授業に出席すること。</p> <p>昨年度と同一内容なので、昨年度履修した学生は今年度履修しても学習上意味がないので注意すること。</p> <p>和仏辞典についての注意:和仏辞典(電子版を含む)の付録に付いている和仏語彙集では足りない。白水社の『現代和仏小辞典』か、旺文社の『プチ・ロワイヤル和仏辞典』を必ず手に入れること(現在品切の白水社『コンコルド和仏辞典』を持っている人はそれでよい)。</p>		<p>1回目:授業の説明。人数過多の場合は受講者制限を行う。 2回目以降教科書に沿って授業を進める。3回の授業で1課を終える進度が標準。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
教科書:中村栄子『新フランス語作文実習Ⅰ(改訂版)』駿河台出版社		平常点(出席・授業への参加度)と学期末試験(ノート・辞書持ち込み不可)	

08年度以降 07年度以前	フランス語文章表現法Ⅱ 和文仏訳 b	担当者	筒井 伸保
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
上記参照。		教科書に沿って授業を進める。3回の授業で1課を終える進度が標準。	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
上記参照。		上記参照。	

08年度以降 07年度以前	フランス語文章表現法 I フランス語文章表現法 a	担当者	ミズバヤシ・ミシエル
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>Objectif :</b></p> <p>Commencer à écrire en français de petits textes portant sur des sujets divers.</p>		<p><b>Contenu :</b></p> <p>Ce cours s'adresse tout particulièrement aux étudiants qui souhaitent revoir les points grammaticaux de base. Tout au long de l'année, je proposerai aux étudiants des exercices diversifiés qui, en fin de parcours, leur permettront de rédiger avec un certain plaisir de petits textes en français. Le principe consistera à partir du plus simple pour aller vers des choses un peu plus compliquées. Ainsi nous partirons de la rédaction de phrases courtes tournant autour d'un point grammatical précis pour arriver à la production de petits textes traitant de sujets variés.</p> <p>Pour commencer notre séance d'écriture hebdomadaire nous prendrons l'habitude d'écrire ce qui nous passe par la tête en 2 ou 3 phrases et en toute spontanéité.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Photocopies Apporter un dictionnaire FRANÇAIS		Contrôle continu. Un test à la fin du premier semestre. Participation régulière aux cours souhaitée.	

08年度以降 07年度以前	フランス語文章表現法 II フランス語文章表現法 b	担当者	ミズバヤシ・ミシエル
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>Objectif :</b></p> <p>Commencer à écrire en français de petits textes portant sur des sujets divers.</p>		<p><b>Contenu :</b></p> <p>Ce cours s'adresse tout particulièrement aux étudiants qui souhaitent revoir les points grammaticaux de base. Tout au long de l'année, je proposerai aux étudiants des exercices diversifiés qui, en fin de parcours, leur permettront de rédiger avec un certain plaisir de petits textes en français. Le principe consistera à partir du plus simple pour aller vers des choses un peu plus compliquées. Ainsi nous partirons de la rédaction de phrases courtes tournant autour d'un point grammatical précis pour arriver à la production de petits textes traitant de sujets variés.</p> <p>Pour commencer notre séance d'écriture hebdomadaire nous prendrons l'habitude d'écrire ce qui nous passe par la tête en 2 ou 3 phrases et en toute spontanéité.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Photocopies Apporter un dictionnaire FRANÇAIS		Contrôle continu. Un test à la fin du deuxième semestre. Participation régulière aux cours souhaitée.	

08年度以降 07年度以前	フランス語文章表現法 I フランス語文章表現法 a	担当者	B. P. レウルス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>『今どんなことが話題になっているか知りたい！だけどフランス語で新聞を読んだりテレビ番組を見たりするには vocabulary が足りない。語彙力を高めるだけでなく、話せるようになりたい、ちょっと書いてみたい、聞く練習もしたい・・・そんな授業があれば・・・』</p> <p>授業は、フランス語の広告、ポスター、テレビのC・M、website、雑誌の記事などを材料に進めていく。この授業では documents authentiques を使って、読解力・書く力・コミュニケーション能力を伸ばしていく。</p> <p>Dans ce cours nous étudierons une série de documents authentiques (presse, médias, publicités, articles de magazines, sites internet, etc.). La compréhension est progressive : observation générale du document, exercices de compréhension, activités d'expression et enfin entraînement grammatical.</p> <p>参考文献 : 「もっと知りたいフランス」 駿河台出版社 ISBN 4-411-00384-8</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. フランス生活暦(1) 年中行事・祭り・イベント(クレープの日・バレンタイン・イースター・パリ際)</li> <li>2. フランスにおける日本文化: マンガ・カラオケ・ストク</li> <li>3. 食べる楽しみ: 美食の国とマルシェ文化</li> <li>4. 東京にある小さなフランス: 文化・企業・イベント</li> <li>5. バカンスの過ごし方 (1)</li> <li>6. フランスのベビーブームの秘密が知りたい!</li> <li>7. 南仏: 魅力あふれる文化&amp;ライフスタイル</li> <li>8. フランス映画のルネサンスとニューシネマ</li> <li>9. フランス教育制度: 大衆化&amp;エリート主義</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト 「シヴィ・ラング」 « Civilangue » 駿河台出版社 ISBN 4-411-01105-3</p>		授業へ積極的な参加・試験は学期末に行います。	

08年度以降 07年度以前	フランス語文章表現法 II フランス語文章表現法 b	担当者	B. P. レウルス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>『今どんなことが話題になっているか知りたい！だけどフランス語で新聞を読んだりテレビ番組を見たりするには vocabulary が足りない。語彙力を高めるだけでなく、話せるようになりたい、ちょっと書いてみたい、聞く練習もしたい・・・そんな授業があれば・・・』</p> <p>授業は、フランス語の広告、ポスター、テレビのC・M、website、雑誌の記事などを材料に進めていく。この授業では documents authentiques を使って、読解力・書く力・コミュニケーション能力を伸ばしていく。</p> <p>Dans ce cours nous étudierons une série de documents authentiques (presse, médias, publicités, articles de magazines, sites internet, etc.). La compréhension est progressive : observation générale du document, exercices de compréhension, activités d'expression et enfin entraînement grammatical.</p> <p>参考文献 : 「もっと知りたいフランス」 駿河台出版社 ISBN 4-411-00384-8</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. フランス生活暦(2): 年中行事・祭り・イベント(ハロウィーンとケルト文化・ボジョレーヌーヴォー・ノエル)</li> <li>2. フランスにおける日本文化: 和食(スシ・ワカメ・シイタケ) アニメ・ブランド</li> <li>3. 食べるたのしみ: 美食の国とスローフード</li> <li>4. 東京にある小さなフランス: カフェ・グルメ・イベント</li> <li>5. バカンスの過ごし方(2)</li> <li>6. 恋愛観と結婚観: 結婚とは過去のもの?(離婚・婚外の増加・片親家族)</li> <li>7. プルタニュー地方とケルト文化。プルタニュー地方とそば文化(クレープ&amp;ガレット)</li> <li>8. 世界最大の映画祭: カンヌ国際映画祭</li> <li>9. フランス教育制度: 大衆化&amp;エリート主義(2)</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト 「シヴィ・ラング」 « Civilangue » 駿河台出版社 ISBN 4-411-01105-3</p>		授業へ積極的な参加・試験は学期末に行ないます。	

08年度以降 07年度以前	フランス語会話 I フランス語会話 a	担当者	ミュノズ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>L'objectif de ce cours est d'améliorer la compréhension et l'expression orale, de reviser des points de grammaire et d'enrichir son vocabulaire sur des sujets thématiques.</p> <p>A partir de documents audio ou vidéo que nous regarderons ensemble en classe ou de documents écrits, les étudiants devront discuter des différents sujets abordés dans les documents.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Présentation à travers un jeu de questions-réponses.</li> <li>2. Discussion</li> <li>3. L'habitat</li> <li>4. Discussion</li> <li>5. La musique</li> <li>6. Discussion</li> <li>7. Le travail</li> <li>8. Discussion</li> <li>9. L'argent</li> <li>10. Discussion</li> <li>11. La télé</li> <li>12. Discussion</li> <li>13. Les vacances</li> <li>14. Discussion</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Photocopies fournies par le professeur		La participation au cours et la remise régulière des devoirs constitueront un contrôle continu.	

08年度以降 07年度以前	フランス語会話 II フランス語会話 b	担当者	ミュノズ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>L'objectif de ce cours est d'améliorer la compréhension et l'expression orale, de reviser des points de grammaire et d'enrichir son vocabulaire sur des sujets thématiques.</p> <p>A partir de documents audio ou vidéo que nous regarderons ensemble en classe ou de documents écrits, les étudiants devront discuter des différents sujets abordés dans les documents.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Révisions</li> <li>2. discussion</li> <li>3. Les langues</li> <li>4. Discussion</li> <li>5. Le cinema</li> <li>6. Discussion</li> <li>7. Internet</li> <li>8. Discussion</li> <li>9. Les superstitions</li> <li>10. Discussion</li> <li>11. Les vêtements, la mode</li> <li>12. Discussion</li> <li>13. Les bonnes resolutions</li> <li>14. Discussion</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Photocopies fournies par le professeur		La participation au cours et la remise régulière des devoirs constitueront un contrôle continu.	

08年度以降 07年度以前	フランス語会話 I フランス語会話 a	担当者	Michel SAGAZ ミシェル・サガズ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業の主な目的は、学生の表現力と理解力を高めることである。主に、オーラルを重視するが、ライティングの学習も行う。もう一つの重要な目的は、文化的側面、現在のフランス社会の側面について学ぶことである。</p> <p>主要な教材として、「A la page. Actualités françaises 2010」(朝日出版社)を用いる。必要に応じて、他の教材(映画、ドキュメンタリー、新聞、雑誌の記事、歌等)も使用する。</p> <p>学生の学習のリズム、提案のあった授業活動などに合わせて授業を行う。学生の積極的な参加を求める。</p>		<p>以下に記した各章の作品は、学生の興味に従い、修正されることがある。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション、概括</li> <li>2. 作品 1. 理解と表現の練習問題</li> <li>3. 作品 2. 理解と表現の練習問題</li> <li>4. 作品 3. 理解と表現の練習問題</li> <li>5. 作品 4. 理解と表現の練習問題</li> <li>6. 作品 5. 理解と表現の練習問題</li> <li>7. 作品 6. 理解と表現の練習問題</li> <li>8. 作品 7. 理解と表現の練習問題</li> <li>9. 作品 8. 理解と表現の練習問題</li> <li>10. 作品 9. 理解と表現の練習問題</li> <li>11. 作品 10. 理解と表現の練習問題</li> <li>12. フランス文化に関する遊戯活動</li> <li>13. 授業中の課題</li> <li>14. フランス文化に関する遊戯活動</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>「A la page. Actualités françaises 2010」, Michel SAGAZ, Haruhisa KATO, 朝日出版社.</p>		<p>50% : 課題、授業中の小テスト、期末試験</p> <p>50% : 出席と積極的参加</p>	

08年度以降 07年度以前	フランス語会話 II フランス語会話 b	担当者	Michel SAGAZ ミシェル・サガズ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>秋学期においても、春学期から行っている学習を引き続き行う。</p> <p>授業で扱うテーマは異なるが、授業の構成は変わらない。</p> <p>この授業の主な目的は、学生の表現力と理解力を高め続けることである。主に、オーラルを重視するが、ライティングの学習も行う。もう一つの重要な目的は、文化的側面、現在のフランス社会の側面について学ぶことである。</p> <p>主要な教材として、「A la page. Actualités françaises 2010」(朝日出版社)を用いる。必要に応じて、他の教材(映画、ドキュメンタリー、新聞、雑誌の記事、歌等)も使用する。</p> <p>学生の学習のリズム、提案のあった授業活動などに合わせて授業を行う。学生の積極的な参加を求める。</p>		<p>以下に記した各章の作品は、学生の興味に従い、修正されることがある。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション、概括、一般的な会話</li> <li>2. 作品 11. 理解と表現の練習問題</li> <li>3. 作品 12. 理解と表現の練習問題</li> <li>4. 作品 13. 理解と表現の練習問題</li> <li>5. 作品 14. 理解と表現の練習問題</li> <li>6. 作品 15. 理解と表現の練習問題</li> <li>7. 作品 16. 理解と表現の練習問題</li> <li>8. 作品 17. 理解と表現の練習問題</li> <li>9. 作品 18. 理解と表現の練習問題</li> <li>10. 作品 19. 理解と表現の練習問題</li> <li>11. 作品 20. 理解と表現の練習問題</li> <li>12. フランス文化に関する遊戯活動</li> <li>13. 授業中の課題</li> <li>14. フランス文化に関する遊戯活動</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>「A la page. Actualités françaises 2010」, Michel SAGAZ, Haruhisa KATO, 朝日出版社.</p>		<p>50% : 課題、授業中の小テスト、期末試験</p> <p>50% : 出席と積極的参加</p>	

08年度以降 07年度以前	フランス語会話 I フランス語会話 a	担当者	E. クロズ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>Objectif :</b> Développer votre capacité à écouter et à vous exprimer dans un français moderne, sur des thèmes contemporains. Nous utiliserons des supports variés : de courts articles de journal, des vidéos d'actualité, des publicités dans la presse etc..</p> <p><b>Déroulement du cours :</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- visionnage ou lecture du document,</li> <li>- acquisition du nouveau vocabulaire, révision d'un point de grammaire, réponse aux questions de compréhension,</li> <li>- réactions, discussion sur le thème abordé, mise en commun des connaissances de chacun et confrontation des points de vue.</li> <li>- La semaine suivante, exercice d'écoute ou document complémentaire, mise en commun des recherches effectuées sur la situation au Japon.</li> </ul>		<p><b>Thèmes abordés :</b></p> <p>1-2 Le français, une langue qui bouge</p> <p>3-4 Le système scolaire et ses problèmes : absentéisme, démotivation..</p> <p>5-6 Le travail le dimanche</p> <p>7-8 Les Français et leurs habitudes alimentaires</p> <p>9-10 Le français qu'on parle ailleurs : Québec, Afrique</p> <p>11-12 Mariage, divorce et familles recomposées</p> <p>13-14 Les Français et les jeux de hasard</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Photocopies remises en début de séance ou la semaine précédente		Contrôle continu, participation en classe	

08年度以降 07年度以前	フランス語会話 II フランス語会話 b	担当者	E. クロズ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>Objectif :</b> Développer votre capacité à écouter et à vous exprimer dans un français moderne, sur des thèmes contemporains. Nous utiliserons des supports variés : de courts articles de journal, des vidéos d'actualité, des publicités dans la presse etc..</p> <p><b>Déroulement du cours :</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- visionnage ou lecture du document,</li> <li>- acquisition du nouveau vocabulaire, révision d'un point de grammaire, réponse aux questions de compréhension,</li> <li>- réactions, discussion sur le thème abordé, mise en commun des connaissances de chacun et confrontation des points de vue.</li> <li>- La semaine suivante, exercice d'écoute ou document complémentaire, mise en commun des recherches effectuées sur la situation au Japon.</li> </ul>		<p><b>Thèmes abordés :</b></p> <p>1-2 Se loger en France : maison/appartement, location/vente ?</p> <p>3-4 : Travailler dans une entreprise française</p> <p>5-6 : Bandes dessinées : le 9ème art</p> <p>7-8 Publicité : pourquoi les Français aiment la pub</p> <p>9-10 Le téléphone portable et Internet : nécessaires, indispensables ?</p> <p>11-12 Noël en France et dans le monde</p> <p>13-14 Vacances, recherche d'emploi : des projets ?</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Photocopies remises en début de séance ou la semaine précédente		Contrôle continu, participation en classe	

08年度以降 07年度以前	フランス語会話 I フランス語会話 a	担当者	F.ルーセル
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>Le but de ce cours est d'améliorer vos capacités en expression orale, à la fois pour les situations de monologue (exposé) et pour les situations d'interaction (conversation, débat...). Contenu de chaque cours :</p> <p>1) Quoi de neuf ?</p> <p>2) Exposé présenté par un-e étudiant-e</p> <p>3) Conversation ou débat autour d'un document ou d'un thème annoncé à l'avance</p> <p>Chaque étudiant-e devra présenter un exposé durant le semestre.</p> <p>Les thèmes indiqués ci-contre sont une liste indicative des thèmes de chaque cours. Ces grands thèmes sont identiques pour les deux semestres, mais les sujets d'exposés et de discussion (ainsi que les documents) seront différents.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Présentation du cours, technique de l'exposé</li> <li>2. L'actualité en France</li> <li>3. L'actualité au Japon</li> <li>4. La chanson, la musique</li> <li>5. Le cinéma, la télévision</li> <li>6. La littérature, la lecture</li> <li>7. Les Beaux-Arts, les musées</li> <li>8. L'art de vivre en France</li> <li>9. L'art de vivre au Japon</li> <li>10. Questions de société actuelles</li> <li>11. Questions politiques actuelles</li> <li>12. Les hommes et les femmes, la parité, le couple</li> <li>13. L'éducation. Être étudiant-e aujourd'hui</li> <li>14. Petites questions de philosophie</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
		Le contrôle est continu : la note finale sera élaborée à partir d'une « note de participation » hebdomadaire, et de la note d'exposé.	

08年度以降 07年度以前	フランス語会話 II フランス語会話 b	担当者	F.ルーセル
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>Le but de ce cours est d'améliorer vos capacités en expression orale, à la fois pour les situations de monologue (exposé) et pour les situations d'interaction (conversation, débat...). Contenu de chaque cours :</p> <p>1) Quoi de neuf ?</p> <p>2) Exposé présenté par un-e étudiant-e</p> <p>3) Conversation ou débat autour d'un document ou d'un thème annoncé à l'avance</p> <p>Chaque étudiant-e devra présenter un exposé durant le semestre.</p> <p>Les thèmes indiqués ci-contre sont une liste indicative des thèmes de chaque cours. Ces grands thèmes sont identiques pour les deux semestres, mais les sujets d'exposés et de discussion (ainsi que les documents) seront différents.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Présentation du cours, technique de l'exposé</li> <li>2. L'actualité en France</li> <li>3. L'actualité au Japon</li> <li>4. La chanson, la musique</li> <li>5. Le cinéma, la télévision</li> <li>6. La littérature, la lecture</li> <li>7. Les Beaux-Arts, les musées</li> <li>8. L'art de vivre en France</li> <li>9. L'art de vivre au Japon</li> <li>10. Questions de société actuelles</li> <li>11. Questions politiques actuelles</li> <li>12. Les hommes et les femmes, la parité, le couple</li> <li>13. L'éducation. Être étudiant-e aujourd'hui</li> <li>14. Petites questions de philosophie</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
		Le contrôle est continu : la note finale sera élaborée à partir d'une « note de participation » hebdomadaire, et de la note d'exposé.	

08年度以降 07年度以前	ビジネスフランス語 I 商業フランス語 a	担当者	Ch. パジェス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ビジネスのあらゆるシチュエーションにおいて、口頭及び文書でコミュニケーションできる力を身につけることを目標とします。</p> <p>この授業では、ビジネスにおける様々なシチュエーション(ビジネスレターやメモの作成、電話での会話、アポイントメントの取り方など)を設定し、会話や文章作成の練習を行いながら、商業フランス語を学習します。</p>		<p>次の内容を春学期で扱います。(変更あり)</p> <p>Découvrez l'entreprise Organisation du travail Fonction dans l'entreprise Professions et métiers Rechercher un emploi Les pratiques de recrutement Les contrats de travail</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント		出席及び授業への参加態度	

08年度以降 07年度以前	ビジネスフランス語 II 商業フランス語 b	担当者	Ch. パジェス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ビジネスのあらゆるシチュエーションにおいて、口頭及び文書でコミュニケーションできる力を身につけることを目標とします。</p> <p>この授業では、ビジネスにおける様々なシチュエーション(ビジネスレターやメモの作成、電話での会話、アポイントメントの取り方など)を設定し、会話や文章作成の練習を行いながら、商業フランス語を学習します。</p>		<p>次の内容を秋学期で扱います。(変更あり)</p> <p>Les relations dans le travail Prendre contact par téléphone Traitement du courrier Lettres et télécopies Erreurs et excuses Organiser son emploi du temps Organiser un déplacement</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント		出席及び授業への参加態度	

08年度以降 07年度以前	上級フランス語 I 時事フランス語 a	担当者	井上 美穂
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>授業の目標は、以下の3点です。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. フランス語のニュースを見て、その意味を理解する。</li> <li>2. フランス語のホームページから必要な情報を探す。</li> <li>3. フランス語の新聞記事を読んで、意味を理解する。</li> </ol> <p>毎回の授業で、この3つの目標に沿った練習を行います。まず、フランスのニュース番組を見て、その大筋をつかむ練習と、細かいききとりを行います。次に、そのニュースと同じテーマのホームページを見て、教員が準備した問題の答を見つけます。最後に、やはり同じテーマの記事を読み、教員が用意した質問に答えます。以上の3つの練習は、すべてパソコンを使って行います。</p> <p>授業内容は、TCFの対策としても有効だと思われます。</p>		<p>基本的にその週におきたニュースをとりあげ、それを3つの練習の共通テーマとします。2010年のニュースを予測することはできませんので、以下に2009年度春学期の授業で扱ったテーマを参考として列挙します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) フランス流市民的不服従</li> <li>(2) ソマリア沖の海賊</li> <li>(3) タックスヘイブン モナコ</li> <li>(4) 新型インフルエンザ</li> <li>(5) 5月1日 メーデー</li> <li>(6) カンヌ映画祭</li> <li>(7) 欧州連合</li> <li>(8) テニス全仏オープン</li> <li>(9) エアバス社</li> <li>(10) ハイパーマート カルフール</li> <li>(11) ガボン大統領死去</li> <li>(12) フランス海外県 グアドループ</li> <li>(13) ツールドフランス</li> <li>(14) DVD ききとり Bienvenue chez les Ch'tis</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
教科書はありません。毎回の授業に辞書を持参して下さい。		単位を取得するには、75%以上の出席率が必要です。AA, A, B, C, Fの評価は、学期末のテストの得点で決めます。	

08年度以降 07年度以前	上級フランス語 II 時事フランス語 b	担当者	井上 美穂
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>授業の目標は、以下の3点です。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. フランス語のニュースを見て、その意味を理解する。</li> <li>2. フランス語のホームページから必要な情報を探す。</li> <li>3. フランス語の新聞記事を読んで、意味を理解する。</li> </ol> <p>毎回の授業で、この3つの目標に沿った練習を行います。まず、フランスのニュース番組を見て、その大筋をつかむ練習と、細かいききとりを行います。次に、そのニュースと同じテーマのホームページを見て、教員が準備した問題の答を見つけます。最後に、やはり同じテーマの記事を読み、教員が用意した質問に答えます。以上の3つの練習は、すべてパソコンを使って行います。</p> <p>授業内容は、TCFの対策としても有効だと思われます。</p>		<p>基本的にその週におきたニュースをとりあげ、それを3つの練習の共通テーマとします。2010年のニュースを予測することはできませんので、以下に2009年度秋学期の授業で扱ったテーマを参考として列挙します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 観光王国フランス</li> <li>(2) 人道援助活動</li> <li>(3) 原子力エネルギー</li> <li>(4) エッフェル塔 120年</li> <li>(5) 新型インフルエンザのワクチン接種</li> <li>(6) 日曜営業 部部的解禁へ</li> <li>(7) ワクチンに含まれる補助剤</li> <li>(8) サッカー</li> <li>(9) トリュフ市始まる</li> <li>(10) スイスでイスラム教のミナレット建設禁止へ</li> <li>(11) クリスマス市</li> <li>(12) 高速鉄道 TGV</li> <li>(13) ハイチ大地震</li> <li>(14) DVD ききとり Asterix et Obelix</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
教科書はありません。毎回の授業に辞書を持参して下さい。		単位を取得するには、75%以上の出席率が必要です。AA, A, B, C, Fの評価は、学期末のテストの得点で決めます。	

08年度以降 07年度以前	フランス語圏事情 I フランス事情	担当者	藤田 朋久
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>現代歴史学に革命的な影響を与えたフランスの「アナール学派」を取り上げます。前半でアナール学派の成立と展開を概観したうえで、後半では1970年代に行われた「民衆文化・民衆宗教論」をめぐる批判的検討を取り上げる予定です。歴史の見方、考え方、感じ方が変容しつつある現在の状況についても考えます。</p>		<p>1. 授業ガイダンス 2～7. アナール学派とは何か？ 8～13. 「民衆文化・民衆宗教」をめぐる 14. まとめ (授業計画の詳細は最初のガイダンスで説明します)</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
プリント配布。参考文献は教室で指示する。		平常点、期末テスト。	

08年度以降 07年度以前	フランス語圏事情Ⅱ フランス事情	担当者	井上 たか子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>フランスの家族・日本の家族</p> <p>日本の家族について、いまどんなことが問題だと思えますか。フランスではどうなのか、日仏の比較を通して、考えてみましょう。</p> <p>(フランス語圏となっていますが、フランス以外の国については扱いません。)</p>		<p>初回の授業で説明します。</p> <p>(授業では、コミュニケーションを重視しますので、定員35名に達した場合抽選します)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは特に用いない。毎回プリントを配布。</p>		<p>授業への参加度とレポート(A4で3枚、約4000字)で評価。授業はプロセスですので、欠席は減点要因となります。</p>	

08年度以降 07年度以前	フランス語学論 I フランス語学概論 a	担当者	田中 善英
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要：形の変化の面（形態論）、構文の面（統語論）、発音の面（音声学・音韻論）、意味と構文との係わりの面（意味論）から、フランス語の仕組みを説明する。毎回の授業では、その授業でテーマとなる項目について現代フランス語における原則、制約を確認しながら、仕組みを説明していく。</p> <p>受講者に求めること：受講者のフランス語力は問わないが、内容上、最低でも1年次の文法の授業内容を理解できていなければ、この授業についていくことは難しい。不安なところがある人は、予め復習しておくか、授業時間外に質問に来ること。また、フランス語に興味を持ち、授業中には、随時、各自の意見を求めるので、常に考える姿勢を持って欲しい。初回の授業で2回目以降の教材を配布するので、受講予定者は必ず第1回目の授業に出席すること。出席回数が規定回数に達しなければ、定期試験が満点でも評価対象としない。</p> <p>その他：詳細は <a href="http://www.birdcompany.ch/">http://www.birdcompany.ch/</a> 参照。</p>		<p>第1回：ガイダンス、授業の進め方、評価方法の説明 第2回以降：以下のようなテーマを扱う（順不同）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・なぜ、言語は生まれ、死んでいくのか。</li> <li>・なぜ、aller の活用形は語幹さえ替わるのか。</li> <li>・なぜ、beau には bel という男性第二形があるのか。</li> <li>・なぜ、des maisons blanches と言うのに、de petites maisons になるのか。</li> <li>・なぜ、初出の名詞にも定冠詞が付くことがあるのか。</li> <li>・不定冠詞を用いた総称文は定冠詞を用いた総称文とどう異なるのか。</li> <li>・否定文と冠詞の関係。</li> <li>・なぜ、非人称構文が存在するのか。</li> <li>・なぜ、受動態という形式が存在するのか。</li> <li>・なぜ、Que Pierre a-t-il fait? とは言えないのか。</li> <li>・なぜ、疑問文以外でも主語倒置は起こるのか。</li> <li>・使役構文と放任構文の仕組み。</li> <li>・そもそも中性代名詞とは何か。</li> </ul> <p>扱うテーマは変更になる可能性がある。また、受講者が希望するテーマを扱うこともある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを使用。参考文献は適宜指示する。		出席（毎回とる）、リアクションペーパー、論述形式の試験により評価する。卒業再試験は行わない。	

08年度以降 07年度以前	フランス語学論 II フランス語学概論 b	担当者	田中 善英
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に同じ		春学期に同じ	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期に同じ		春学期に同じ	

08年度以降	フランス語文章理論 I	担当者	小石 悟
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>フランス語を書いたり、話しりしていると、今までの文法だけでは不足していると思うことがよくあります。この授業では「フランス語を発信する」ことを念頭に置き、初級文法で取り上げられていない文法項目をとりあげます。「読む」場合は、極端に言えば、主語と動詞と目的語が分かればある程度意味は取れますが、「書く」「話す」など、自分でフランス語の文を作り出す場合はもっと細かい文法知識が必要になります。</p> <p>授業の概要</p> <p>1・2年次で学習した文法をふまえて、フランス語を話す・書くときに間違いやすい事項をさらに言語学的な見地から学習する。特に、コミュニケーションに欠かせない前置詞と、日本人にとって困難な冠詞、論理的な文を書くために不可欠なさまざまな表現をとりあげる。</p>		<p>第1回： ガイダンス</p> <p>第2回： 動詞の性質と時を表す前置詞の関係 1</p> <p>第3回： 場所を表す前置詞 1</p> <p>第4回： 場所を表す前置詞 2</p> <p>第5回： 手段を表す前置詞 1</p> <p>第6回： 手段を表す前置詞 2</p> <p>第7回： 動詞＋前置詞</p> <p>第8回： être ＋ 冠詞</p> <p>第9回： 一般的なことを表す冠詞 1</p> <p>第10回： 一般的なことを表す冠詞 2</p> <p>第11回： 部分冠詞 1</p> <p>第12回： 部分冠詞 2</p> <p>第13回： 部分冠詞 3</p> <p>第14回： 冠詞に関する練習</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
プリント		定期試験に平常点（出席）が加味される。	

08年度以降	フランス語文章理論 II	担当者	小石 悟
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
春学期に同じ		<p>第1回： ガイダンス</p> <p>第2回： emploi passif du verbe pronominal 1</p> <p>第3回： emploi passif du verbe pronominal 2</p> <p>第4回： « que » complétif</p> <p>第5回： 理由を表す接続詞</p> <p>第6回： 理由を表す前置詞 1</p> <p>第7回： 理由を表す動詞</p> <p>第8回： 結果を表す接続詞 1</p> <p>第9回： 結果を表す接続詞 2</p> <p>第10回： 結果を表す副詞</p> <p>第11回： 譲歩を表す接続詞</p> <p>第12回： 譲歩を表す表現</p> <p>第13回： 目的を表す接続詞・前置詞</p> <p>第14回： articulateurs</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
プリント		定期試験に平常点（出席）が加味される。	

08年度以降	フランス言語教育論 I	担当者	中村 公子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>&lt;講義目的&gt; この授業ではフランス語教育を中心に言語教育について扱う。外国語を「学ぶ側」と「教える側」の双方からアプローチすることにより、自分自身にとってのより効果的な言語学習法について考えることを目的とする。</p> <p>&lt;講義概要&gt; 今年は「Simulation」をテーマとする。 春学期は秋学期の「Simulation 実践」のために必要な知識の学習や準備をする。Simulation についての基礎知識の習得とその練習形式についての理解を通して、自分自身の語学学習に役立てるために実践練習（模擬 simulation）も行う。主として、個人作業やグループ作業によって進める。</p> <p>&lt;注意！&gt; もし万一、30名以上の履修希望者があった場合には、初回の授業で抽選を行う。やむを得ず初回を欠席する学生は、あらかじめ友人に抽選の場合に名前を書いてもらえるよう依頼しておくこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction</li> <li>2. Simulation について 1</li> <li>3. Simulation について 2</li> <li>4. Simulation について 3</li> <li>5. Simulation について 4</li> <li>6. Simulation について 5</li> <li>7. Simulation について 6</li> <li>8. Simulation とその他の練習問題 1</li> <li>9. Simulation とその他の練習問題 2</li> <li>10. Simulation とその他の練習問題 3</li> <li>11. Simulation 実践のための準備 1</li> <li>12. Simulation 実践のための準備 2</li> <li>13. Simulation 実践のための準備 3</li> <li>14. Simulation 実践のための準備 4</li> </ol> <p>(順番は授業の進行状況により変更する。)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント。必要に応じて授業で指示する。		出席、平常点（課題、授業参加態度、グループ発表等）、定期試験（持ち込み不可）。	

08年度以降	フランス言語教育論 II	担当者	中村 公子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>&lt;講義目的&gt; この授業ではフランス語教育を中心に言語教育について扱う。外国語を「学ぶ側」と「教える側」の双方からアプローチすることにより、自分自身にとってのより効果的な言語学習法について考えることを目的とする。</p> <p>&lt;講義概要&gt; 今年は「Simulation」をテーマとする。 秋学期は「Simulation」の実践演習を行う。授業は、個人作業やグループ作業によって「段階的に」進めるので、毎回の出席は不可欠となる。 (欠席や遅刻はグループのメンバーに多大な迷惑をかけることになるので、履修希望者はその点もしっかりと心に留め置くこと。) 秋学期の「Simulation 実践」は、春学期の授業内容に基づいて行うので春・秋学期ともに履修することが望ましい。</p> <p>&lt;注意！&gt; もし万一、30名以上の履修希望者があった場合には、初回の授業で抽選を行う。やむを得ず初回を欠席する学生は、あらかじめ友人に抽選の場合に名前を書いてもらえるよう依頼しておくこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction</li> <li>2. Simulation 実践 1</li> <li>3. Simulation 実践 2</li> <li>4. Simulation 実践 3</li> <li>5. Simulation 実践 4</li> <li>6. Simulation 実践 5</li> <li>7. Simulation 実践 6</li> <li>8. Simulation 実践 7</li> <li>9. Simulation 実践 8</li> <li>10. Simulation 実践 9</li> <li>11. Simulation 実践 10</li> <li>12. Simulation 実践 11</li> <li>13. Simulation 実践 12</li> <li>14. まとめ</li> </ol> <p>(順番は授業の進行状況により変更する。)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント。必要に応じて授業で指示する。		出席、平常点（課題、授業参加態度、グループ発表等）、Simulation のプロセス毎のグループ発表、定期試験（持ち込み不可）。	

08年度以降 07年度以前	フランス語コミュニケーション各論Ⅰ フランス語学各論a	担当者	古川 直世
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>フランス語という外国語が「習得する」対象であるだけでなく、同時に「考える」対象であるということを講義を通して学生へ伝えることをめざす。トピックを春学期と秋学期にひとつずつ設定し講義を行なう。講義の重点はフランス語に見られるさまざまな制約の存在理由について考えることにある。</p>		<p>1 全般的なオリエンテーション 2-4 代名詞（1）：名詞と代名詞 5-7 代名詞（2）：人称代名詞と中性代名詞 8-10 代名詞（3）：代名詞と照応 11-13 代名詞（4）：先行詞の位置 14 まとめ</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
テキストはハンドアウトを配付する。		評価は試験成績と出席状況による。	

08年度以降 07年度以前	フランス語コミュニケーション各論Ⅱ フランス語学各論b	担当者	古川 直世
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>フランス語という外国語が「習得する」対象であるだけでなく、同時に「考える」対象であるということを講義を通して学生へ伝えることをめざす。トピックを春学期と秋学期にひとつずつ設定し講義を行なう。講義の重点はフランス語に見られるさまざまな制約の存在理由について考えることにある。</p>		<p>1-3 構文（1）：非人称構文 4-6 構文（2）：使役構文 7-9 構文（3）：受動態構文 10-13 構文（4）：その他の構文 14 まとめ</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
テキストはハンドアウトを配付する。		評価は試験成績と出席状況による。	

08年度以降 07年度以前	フランス語コミュニケーション講読 I フランス語学講読 a	担当者	中村 公子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>&lt;講義目的&gt; この授業では「外国語としてのフランス語教育」に関する内容を扱い、フランス語教育および日本語や英語なども含めた言語教育の一般的な基礎知識習得を目的とする。</p> <p>&lt;講義概要&gt; 今年度は春・秋学期ともに「Compréhension orale」をテーマとする。春学期は主に Documents authentiques を題材にした Compréhension orale について取り上げる。 フランス語や日本語で書かれた文献の講読とその内容理解、基礎知識の習得、フランス語教育の分野における Compréhension orale を activités に応用した練習問題作成などを授業での学習活動として行う。そのため、授業内での個別作業やグループ作業も行うので、毎週、各自が課題や予習をしていることが前提となる。</p> <p>&lt;注意！&gt; もし万一、30名以上の履修希望者があった場合には、初回の授業で抽選を行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction pour le FLE</li> <li>2. Introduction pour le C.E.C.R.</li> <li>3. Compréhension orale (=C.O.) 1</li> <li>4. Compréhension orale 2</li> <li>5. Compréhension orale 3</li> <li>6. Compréhension orale 4</li> <li>7. Documents authentiques (=D.A.) 1</li> <li>8. Documents authentiques 2</li> <li>9. Documents authentiques 3</li> <li>10. Documents authentiques 4</li> <li>11. C.O. et D.A. 1</li> <li>12. C.O. et D.A. 2</li> <li>13. C.O. et D.A. 3</li> <li>14. C.O. et D.A. 4</li> </ol> <p>(順番は授業の進行状況により変更する。)</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
プリント。参考文献は必要に応じて指示する。		出席、授業参加態度、課題（予習等を含む）、定期試験（持ち込み不可）。	

08年度以降 07年度以前	フランス語コミュニケーション講読 II フランス語学講読 b	担当者	中村 公子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>&lt;講義目的&gt; この授業では「外国語としてのフランス語教育」に関する内容を扱い、フランス語教育および日本語や英語なども含めた言語教育の一般的な基礎知識習得を目的とする。</p> <p>&lt;講義概要&gt; 今年度は春・秋学期ともに「Compréhension orale」をテーマとする。秋学期は Compréhension orale のための activités を考えていく。 フランス語や日本語で書かれた文献の講読とその内容理解、基礎知識の習得、フランス語教育の分野における Compréhension orale を activités に応用した練習問題作成などを授業での学習活動として行う。そのため、授業内での個別作業やグループ作業も行うので、毎週、各自が課題や予習をしていることが前提となる。</p> <p>&lt;注意！&gt; もし万一、30名以上の履修希望者があった場合には、初回の授業で抽選を行う。やむを得ず初回を欠席する学生は、あらかじめ友人に抽選の場合に名前を書いてもらえるよう依頼しておくこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Compréhension orale</li> <li>2. Activités 1</li> <li>3. Activités 2</li> <li>4. Activités 3</li> <li>5. Activités 4</li> <li>6. Activités 5</li> <li>7. C.O. et activités 1</li> <li>8. C.O. et activités 2</li> <li>9. C.O. et activités 3</li> <li>10. C.O. et activités 4</li> <li>11. Activités avec D.A. pour la C.O. 1</li> <li>12. Activités avec D.A. pour la C.O. 2</li> <li>13. Activités avec D.A. pour la C.O. 3</li> <li>14. Activités avec D.A. pour la C.O. 4</li> </ol> <p>(順番は授業の進行状況により変更する。)</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
プリント。参考文献は必要に応じて指示する。		出席、授業参加態度、課題（予習等を含む）、定期試験（持ち込み不可）。	

08年度以降 07年度以前	フランス語コミュニケーション講読 I フランス語学講読 a	担当者	小石 悟
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<b>授業の到達目標及びテーマ</b> フランス語の上級テキストを読むために必要な文法を学習します。単語さえ分かればある程度のテキストは読みこなせる文法力をつけます。最終的には documents authentiques (フランス語の授業のために作られた教材ではなく、フランス人が日常的に使っている様々な資料)を読みこなせるようになればいいと思います。TCF、仏検の準備にもなります。		テキストを読みながら、分からない文法の説明と、特に多数の人が理解していないと思われる場合は練習問題を交えながら、理解したかどうかを確認しながら進みます。テキストは最初は比較的簡単なものから、徐々に難しいものに進んでいきます。インターネットなどを活用して、内容的に面白いテキストを材料にしたいと思います。 テキストを読むので当然予習は必要となります。その場で電子辞書で意味を引くような学生は、他の学生に時間を無駄にさせることになりますので、遠慮してください。	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
プリント		定期試験に平常点（出席）が加味される。	

08年度以降 07年度以前	フランス語コミュニケーション講読 II フランス語学講読 b	担当者	小石 悟
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
春学期に同じ		春学期に同じ	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
プリント		定期試験に平常点（出席）が加味される。	

08年度以降 07年度以前	フランス語コミュニケーション講読 I フランス語学講読 a	担当者	田中 善英
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的：</b>辞書があればどんな文章でも読めるようなフランス語力を養成する。</p> <p><b>講義概要：</b>フランス語の文章を理解するために不可欠な様々な表現・構文を、様々な文体の1・2行程度の文章を丁寧に読んでいく（1つの作品を1年間かけて読んでいくというような形ではない）。春学期は仏検2級程度、秋学期は仏検準1級程度の文章を扱う。</p> <p><b>その他：</b>全員予習は必須。毎回ランダムに全員を指名して答えてもらう。予習していなかったり、指名されてから訳し始めた場合などは減点。就職活動等で欠席する場合には、訳文を指定時刻までにメール等で提出すれば減点しない（未提出なら減点）。試験は全て応用問題、つまり授業中に扱った文章の丸暗記では全く点がとれない。初回の授業で2回目以降の教材を配布するので、受講予定者は必ず第1回目の授業に出席すること（2回目から全員指名する。初回に出席できない場合には必ず1週目の間に連絡してプリントを取りに来ること）。出席回数が規定回数に達していなければ、定期試験が満点でも評価対象としない。</p> <p><b>単語テスト：</b>毎週冒頭5分程度で実施。</p>		<p>第1回：ガイダンス、授業の進め方、予習方法の説明 第2回以降：以下のような構文を扱う：否定構文（各種否定表現、部分否定、二重否定）、強調構文、推量構文、目的構文、結果構文、対立・譲歩構文、比較構文、時の構文、使役構文、放任構文など。これ以外にも受講生の要望があれば、それを扱う。</p> <p>なお、授業方針は昨年度同様であるが、文章自体は全て昨年度とは別のものを扱う。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
プリントを使用。参考文献は適宜指示する。		出席（毎回とる）、発表内容、授業への積極的参加姿勢、定期試験、単語テストにより評価する。卒業再試験は行わない。詳細は <a href="http://www.birdcompany.ch/">http://www.birdcompany.ch/</a> 参照。	

08年度以降 07年度以前	フランス語コミュニケーション講読 II フランス語学講読 b	担当者	田中 善英
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
春学期に同じ		春学期に同じ	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
春学期に同じ		春学期に同じ	

08年度以降 07年度以前	フランスの美術 I フランスの美術 a	担当者	阿部 明日香
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>オルセー美術館をモデルに、19世紀後半の美術を概観します。時代背景や当時の美術制度のあり方について知識を深め、歴史的コンテキストのなかで、それぞれの画家と作品を理解することを目的とします。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 イントロダクション</li> <li>2 オルセー美術館と19世紀のパリ</li> <li>3 アングルとドラクロワ</li> <li>4 19世紀の美術制度-1</li> <li>5 19世紀の美術制度-2</li> <li>6 クールベと写実主義</li> <li>7 ドーミエとカリカチュア</li> <li>8 ミレーと農民絵画</li> <li>9 バルビゾン派</li> <li>10 マネと落選展</li> <li>11 印象派-1</li> <li>12 印象派-2</li> <li>13 印象派-3</li> <li>14 まとめ</li> </ol> <p>*受講者の人数によっては発表してもらうことも考えています。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
参考文献は必要に応じて授業中に指示します。		平常点（出席）とレポートによる。	

08年度以降 07年度以前	フランスの美術 II フランスの美術 b	担当者	阿部 明日香
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>印象派誕生以降のフランス美術の展開を概観します。その多様性について学び、それぞれの画家、運動、ジャンルが提起する問題について理解を深めることを目的とします。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 イントロダクション</li> <li>2 印象派、その後の展開-1</li> <li>3 印象派、その後の展開-2</li> <li>4 印象派、その後の展開-3</li> <li>5 象徴主義の絵画</li> <li>6 ゴーガンとポンタヴェン派</li> <li>7 ボナールとナビ派</li> <li>8 スーラとシニャック</li> <li>9 ジャポニスム</li> <li>10 アール・ヌーヴォー</li> <li>11 写真-1</li> <li>12 写真-2</li> <li>13 ロートレックとパリの歓楽街</li> <li>14 まとめ</li> </ol> <p>*受講者の人数によっては発表してもらうことも考えています。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
参考文献は必要に応じて授業中に指示します。		平常点（出席）とレポートによる。	

08年度以降 07年度以前	フランスの音楽Ⅰ フランスの音楽 a	担当者	松橋 麻利
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>今年度は、人間の心を情熱的に表現した 19 世紀のロマンティズムから始めて、それが時代とともにどのように変化していったかを見る。そしてそれが現代の人間表現にどのようにつながるかを考えることを目的とする。</p> <p>春学期は、まずフランスのベルリオーズが始めた音楽がその後どのような流れを作り出していくかを辿る。そしてその影響を受けながらも 19 世紀後半からのフランス音楽が新たな独自の表現を生み出す様子を器楽を中心に見ていく。</p> <p>音・楽譜・映像を活用しながら進めていく。受講者は、自分でも積極的に音楽を聴くように心がけること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の概要</li> <li>2. ベルリオーズ</li> <li>3. ヴェーバー</li> <li>4. リスト</li> <li>5. 国民楽派</li> <li>6. ヴァーグナー (1)</li> <li>7. ヴァーグナー (2)</li> <li>8. サン＝サーンス</li> <li>9. フォーレ (1)</li> <li>10. フォーレ (2)</li> <li>11. ドビュッシー (1)</li> <li>12. ドビュッシー (2)</li> <li>13. ドビュッシー (3)</li> <li>14. まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>プリント。 参考文献は授業時に紹介。</p>		<p>出席 (10%) と、2 回の試験の平均 (90%) による (各試験実施の時点で 1/3 以上欠席の学生には受験を認めない)。</p>	

08年度以降 07年度以前	フランスの音楽Ⅱ フランスの音楽 b	担当者	松橋 麻利
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>今年度は、人間の心を情熱的に表現した 19 世紀のロマンティズムから始めて、それが時代とともにどのように変化していったかを見る。そしてそれが現代の人間表現にどのようにつながるかを考えることを目的とする。</p> <p>秋学期は、ロマンティックな表現が頂点に達したあとの動向、音楽聴取に変革をもたらす徴候、そしてその後の流れを見ていく。</p> <p>音・楽譜・映像を活用しながら進めていく。受講者は、自分でも積極的に音楽を聴くように心がけること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の概要</li> <li>2. ラヴェル (1)</li> <li>3. ラヴェル (2)</li> <li>4. サティ (1)</li> <li>5. サティ (2)</li> <li>6. シェーンベルク</li> <li>7. ストラヴィンスキー (1)</li> <li>8. ストラヴィンスキー (2)</li> <li>9. フランス六人組 (1)</li> <li>10. フランス六人組 (2)</li> <li>11. フランス六人組 (3)</li> <li>12. ケージ</li> <li>13. 音楽への意識</li> <li>14. まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>プリント。 参考文献は授業時に紹介。</p>		<p>出席 (10%) と、2 回の試験の平均 (90%) による (各試験実施の時点で 1/3 以上欠席の学生には受験を認めない)。</p>	

08年度以降 07年度以前	フランス文学史Ⅰ フランス文学史a	担当者	田村 毅
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>「フランスの文学と歴史」(その1)</p> <p>フランスの中世から現代まで、作家たちがどのような文学作品を創造してきたのか、そして読者たちがどのような作品を受容してきたのかを概観することによって、文化形成の歴史の一端を探求します。「文学」ということばそのものも、フランスと日本とは、もつ意味の広さが異なります。日本の文化・歴史をつねに念頭におきつつ、人間の文化創造の営みを相対的に理解することを目指します。</p> <p>フランス文学の歴史を、各時代の政治・宗教、あるいは絵画・彫刻・建築・音楽等の芸術思潮と関連づけながら、代表的な文学作品を紹介し、学生諸君は、自らの選択で作家・作品を選び、読みかた論じること、フランス文学に親しみ、作品に照らして自らの思索の方途を見だし、書くことによって論理的思考を涵養してください。</p> <p>出席者数にもよりますが、レポートを主として、時間に余裕があれば、発表してもらいます。</p> <p>自発的に選択するための手がかりとして、講義と並行して、学生諸君自身で『フランス文学史』を通読してください。</p>		<p>(下記は授業の目安で、学生発表の時間などが考慮されていません。)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 授業方法、評価方法の解説。参考資料の紹介</li> <li>2 「文学」ということばのもつ広がり (フランスと日本)</li> <li>3 「文学史」とは? 文化と歴史 (フランスと日本)</li> <li>4 フランス中世と文学 (その1)</li> <li>5 フランス中世と文学 (その2)</li> <li>6 フランス中世と文学 (その3)</li> <li>7 フランス16世紀・ルネッサンス (その1)</li> <li>8 フランス16世紀・ルネッサンス (その2)</li> <li>9 フランス16世紀・ルネッサンス (その3)</li> <li>10 レポート解説・紹介および試験</li> <li>11 フランス17世紀・古典主義 (その1)</li> <li>12 フランス17世紀・古典主義 (その2)</li> <li>13 フランス17世紀・古典主義 (その3)</li> <li>14 レポート解説・紹介および試験</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>参考書『フランス文学史』(田村毅他、東京大学出版会、1995)</p> <p>教室で随時プリントを配布します。</p>		<p>授業への参加度 (出席と発表)、レポート、場合によっては文学史的知識を問う簡単な試験による総合評価。</p>	

08年度以降 07年度以前	フランス文学史Ⅱ フランス文学史b	担当者	田村 毅
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>「フランスの文学と歴史」(その2)</p> <p>授業計画に示したように、フランス文学史を時代順に概観するのと並行して、詩・演劇・小説・思想などのジャンルについても、その変遷がわかるように、随時、説明を加えます。</p> <p>授業では、可能な限り、参考書をもとに学生が選んだテーマに即して、個別具体的な作品を論じながら、時代背景と作品生成との関連を解説します。</p> <p>演劇については録画を、詩と小説については朗読の録音を紹介し、文化史的背景についてはスライド上映などで、説明を補う予定です。</p> <p>できるだけ多くの文学作品を知り、そのなかから学生諸君が自らの関心に即した作品を選び、親しむことを目標にします。</p> <p>講義は参考書を用いながら、随時テキストを抜粋したプリントで行います。</p> <p>出席者数にもよりますが、レポートを主として、時間に余裕があれば、発表してもらいます。</p> <p>自発的に選択するための手がかりとして、講義と並行して、学生諸君自身で『フランス文学史』を通読してください。</p>		<p>(下記は授業の目安で、学生発表の時間などが考慮されていません。)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 前期のまとめと後期の展望</li> <li>2 フランス18世紀・啓蒙の世紀 (その1)</li> <li>3 フランス18世紀・啓蒙の世紀 (その2)</li> <li>4 フランス18世紀・啓蒙の世紀 (その3)</li> <li>5 レポート解説・紹介および試験</li> <li>6 フランス19世紀・ロマン主義 (その1)</li> <li>7 フランス19世紀・ロマン主義 (その2)</li> <li>8 フランス19世紀・象徴主義 (その1)</li> <li>9 フランス19世紀・象徴主義 (その2)</li> <li>10 レポート解説・紹介および試験</li> <li>11 フランス20世紀・両次大戦間の文学</li> <li>12 フランス20世紀・実存主義</li> <li>13 フランス20世紀・文芸思潮</li> <li>14 レポート解説・紹介および試験</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>参考書『フランス文学史』(田村毅他、東京大学出版会、1995)</p> <p>教室で随時プリントを配布します。</p>		<p>授業への参加度 (出席と発表)、レポート、場合によっては文学史的知識を問う簡単な試験による総合評価。</p>	

08年度以降 07年度以前	フランスの文学 I フランス文学各論 a	担当者	田村 毅
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>「旅と神話 — 19世紀フランス文学における「オリエン」の表象」(その1)</p> <p>19世紀フランス文学、とりわけロマン主義文学においては、さまざまな神話的テーマが展開され、作品を創造する動機や骨組みをなしています。大地母神から聖母マリアにいたる「母神」あるいは「救済の女神」の神話、「呪われた種族カイン」あるいは「さまよえるユダヤ人」の神話などが、ユゴーやバルザック、そしてゾラにいたる文学作品を特徴づけています。</p> <p>具体的作品としては、ネルヴァル『東方紀行』(1852)の一部を読みます。エジプト(カイロ)、シリア、そしてトルコ(コンスタンチノーブル)を旅した作家の足跡を追いながら、旅の記述が神話的空間へとずれこみつつ展開してゆく記述のおもしろさを読み解きます。</p> <p>19世紀フランス文学におけるマリア信仰、諸教混淆の女神神話、等を、併せて紹介していきます。</p>		<p>(下記は授業の目安で、学生発表の時間などが考慮されていません。)</p> <p>1: 19世紀フランスの文学と社会(序論)</p> <p>2: 文学と美術に共通するいくつかの神話的テーマ</p> <p>3: 「オリエン」の表象(1)</p> <p>4: 「オリエン」の表象(2)</p> <p>5: カイロとピラミッド(『東方紀行』(1))</p> <p>6: カイロとピラミッド(『東方紀行』(2))</p> <p>7: カイロとピラミッド(『東方紀行』(3))</p> <p>8: イシス神話について(1)</p> <p>9: イシス神話について(2)</p> <p>10: イシス神話について(3)</p> <p>11: ネルヴァルにおける女性神話(1)</p> <p>12: ネルヴァルにおける女性神話(2)</p> <p>13: ネルヴァルにおける女性神話(3)</p> <p>14: まとめと展望(バルザックやゾラの小説における神話的テーマについて)</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
参考書『ジェラルド・ド・ネルヴァル 幻想から神話へ』(田村毅、東京大学出版会、2005)		授業への参加度(出席と発表)、課題を前もって示す試験。	

08年度以降 07年度以前	フランスの文学 II フランス文学各論 b	担当者	田村 毅
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>「旅と神話 — 19世紀フランス文学における「オリエン」の表象」(その2)</p> <p>神話的テーマの表象は、文学と同時期あるいはむしろ先行する、絵画・彫刻・建築、等に顕著に見られます。18世紀後半から19世紀初頭にかけて流行した、古代ギリシア・ローマの神話的表象を尊重する芸術思潮は、一般に「新古典主義」とよばれています。ダヴィッドの大画面の絵「ナポレオンの戴冠式」(1808)を見ると、ナポレオンの「皇帝即位」も、こうした新古典主義思潮の社会的表現の一部にすぎなかったのではないかとさえ考えられます。授業では、絵画・建築などを参考にしつつ、文学作品に表現された神話的テーマを探求してゆきます。</p> <p>具体的作品としては、ネルヴァルの『東方紀行』の一部を読みます。</p> <p>19世紀フランス文学におけるマリア信仰、諸教混淆の女神神話、等を、併せて紹介していきます。</p> <p>主題の延長上に、「人類の叙事詩(あるいは歴史)」と「人類に普遍の神話(あるいは神話の普遍性)」というテーマがあり、典型的にはユゴーの長編叙事詩集『諸世紀の伝説』(1859-1883)に表現されるので、いくつかの詩篇を紹介します。</p>		<p>(下記は授業の目安で、学生発表の時間などが考慮されていません。)</p> <p>1: 19世紀フランスの文学と社会(再論)</p> <p>2: 文学と美術に共通するいくつかの神話的テーマ</p> <p>3: 「オリエン」の表象(1)</p> <p>4: 「オリエン」の表象(2)</p> <p>5: コンスタンチノーブル(『東方紀行』(1))</p> <p>6: コンスタンチノーブル(『東方紀行』(2))</p> <p>7: コンスタンチノーブル(『東方紀行』(3))</p> <p>8: シバの女王について(1)</p> <p>9: シバの女王について(2)</p> <p>10: シバの女王について(3)</p> <p>11: ネルヴァルにおける女性神話</p> <p>12: ユゴー『諸世紀の伝説』読解</p> <p>13: ユゴー『諸世紀の伝説』読解</p> <p>14: まとめと展望(ユゴーの神話的テーマについて)</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
参考書『ジェラルド・ド・ネルヴァル 幻想から神話へ』(田村毅、東京大学出版会、2005)		授業への参加度(出席と発表)、課題を前もって示す試験。	

08年度以降 07年度以前	フランス芸術文化各論Ⅰ フランス文学各論 a	担当者	谷口 亜沙子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本年度の各論では、フランスの自伝作品、エッセイ、日記などを取り上げます。</p> <p>小説作品とは違い、事実にもとづいて書かれた文章を読みながら、そこにどのような時代背景があったのか、どのような事件への暗示が読み取れるのか等、基本的なフランスの歴史や各世紀の雰囲気も同時に学んでゆきます。</p> <p>一人の作家について4～5回を使い、最初に簡単な紹介をします。その後、翻訳も参照しながら実際にフランス語のテキストを読み、表現の工夫、フランス語で読まなければわからない面白さ、作家の声の独自性など、テキストの効果や特徴について考えます。</p> <p>*受講を希望する人は、必ず第一回の授業に出席してください。</p>		<p>1. なぜ自伝作品をとりあげるのか。</p> <p>2-14. 以下の作家たちの中から、受講者のアンケートを参考に、半期で3~4人を論じます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・モンテーニュ*</li> <li>・パスカル</li> <li>・ボードレー</li> <li>・ジッド</li> <li>・ブルトン</li> <li>・セリーヌ</li> <li>・サルトル*</li> <li>・ジュネ*</li> <li>・フランツ・ファノン</li> <li>・バルト*</li> <li>・ナタリー・サロート</li> <li>・ル・クレジオ</li> <li>・ルソー*</li> <li>・スタンダール*</li> <li>・プルースト</li> <li>・コレット*</li> <li>・バタイユ</li> <li>・カミュ</li> <li>・ボーヴォワール*</li> <li>・レリス*</li> <li>・レイモン・クノー</li> <li>・ジョルジュ・ペレック*</li> <li>・クロード・シモン</li> <li>・マリー・ンディアイ</li> </ul> <p>(*は2008年度、2009年度に扱った作家)</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト・図版資料はプリントで配布します。</p> <p>参考文献：『フランス文学史』（東京大学出版会） 『新版・フランス文学史』（白水社）</p>		<p>出席状況とレポート。授業で扱った作家の中から一人を選んで、具体的に論じてもらいます。</p>	

08年度以降 07年度以前	フランス芸術文化各論Ⅱ フランス文学各論 b	担当者	谷口 亜沙子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>基本的には春学期と同様の進め方をしますので、春学期とのセット履修が望ましいです。</p> <p>通年で受講することによって、作家同士のつながりやひそかな影響関係など、フランスにおける自伝の系譜をより生き生きと感じられることでしょう。</p>		<p>春学期を参照のこと。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト・図版資料はプリントで配布します。</p>		<p>出席状況とレポート。授業で扱った作家の中から一人を選んで、具体的に論じてもらいます。</p>	

08年度以降 07年度以前	フランス芸術文化講読 I フランス文学講読 a	担当者	ミズバヤシ・ミシェル
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>Objectif :</b> Découvrir le plaisir de la lecture à une ou plusieurs voix. Lire seul en français n'est pas facile, mais si on parle avec d'autres personnes du texte qu'on est en train de lire, on se sent stimulé et on peut ainsi connaître la joie d'être allé jusqu'à la fin du livre.</p> <p><b>Contenu :</b> <i>Le Tablier Bleu</i> nous raconte, avec une très grande poésie, la vie de Louise, une vie bien ordinaire et bien solitaire. Au cours de cette lecture nous aurons l'occasion de réfléchir au sort des personnes âgées très souvent abandonnées par notre société fascinée par la jeunesse éternelle</p>		<p>D'abord, nous lirons ensemble <i>Le Tablier Bleu</i> de Martine Laffon. Ce texte nous met en présence de Louise, une vieille femme, à la fin de sa vie, abandonnée de tous, enfermée dans une maison de retraite. A quoi bon parler à ceux qui l'entourent puisqu'elle n'est plus qu'un simple numéro ! Heureusement, au-delà de la fenêtre, un très beau ciel bleu l'invite à retrouver sa vie d'autrefois, ses passions, ses rêves et peut-être... la liberté.</p> <p>Nous attacherons beaucoup d'importance à <b>la lecture à haute voix</b>, une fois que les pages lues ensemble auront été comprises. Dans un deuxième temps, les participants de ce cours choisiront, parmi quelques livres faciles à lire, celui qu'ils liront tout seuls pendant « les grandes vacances ».</p> <p><b>Attention :</b> nous continuons la lecture <i>du Tablier Bleu</i> pendant le deuxième semestre.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Photocopies Un dictionnaire français		La lecture à haute voix Un rapport à la fin du semestre Présence régulière au cours Participation active au cours Contrôle continu	

08年度以降 07年度以前	フランス芸術文化講読 II フランス文学講読 b	担当者	ミズバヤシ・ミシェル
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>Objectif :</b> Découvrir le plaisir de la lecture à une ou plusieurs voix. Lire seul en français n'est pas facile, mais si on parle avec d'autres personnes du texte qu'on est en train de lire, on se sent stimulé et on peut ainsi connaître la joie d'être allé jusqu'à la fin du livre.</p> <p><b>Contenu :</b> <i>Le Tablier Bleu</i> nous raconte, avec une très grande poésie, la vie de Louise, une vie bien ordinaire et bien solitaire. Au cours de cette lecture nous aurons l'occasion de réfléchir au sort des personnes âgées très souvent abandonnées par notre société fascinée par la jeunesse éternelle.</p>		<p>Nous poursuivrons la lecture du livre <i>Le Tablier Bleu</i> commencée en avril avec la ferme intention d'aller jusqu'au bout de cette histoire très émouvante. Se reporter à ce qui a été écrit dans la case du premier semestre, ci-dessus.</p> <p>Nous attacherons beaucoup d'importance à <b>la lecture à haute voix</b>, une fois que les pages lues ensemble auront été comprises.</p> <p>Puis, nous consacrerons une partie du cours aux échanges portant sur le livre que chaque étudiant aura lu ou commencé à lire, <b>tout seul</b>, pendant "les grandes vacances". Pour cette deuxième partie du cours, nous travaillerons en petits groupes afin de parvenir à une meilleure communication.</p> <p>Très <b>IMPORTANT</b> : les étudiants qui s'inscrivent à mon cours en avril sont priés de suivre le cours pendant le deuxième semestre. D'autre part, je ne souhaite pas avoir de nouveaux étudiants en septembre, car ils arriveront en plein milieu de la lecture du livre commencée en avril, ce qui ne présente aucun intérêt. Cependant, les nouveaux étudiants qui souhaiteraient suivre ce cours seulement à partir du mois de septembre sont invités à venir me voir début juillet.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Photocopies Un dictionnaire français		La lecture à haute voix Un rapport à la fin du semestre Présence régulière au cours Participation active au cours Contrôle continu	

08年度以降 07年度以前	フランス芸術文化講読Ⅰ フランス文学講読 a	担当者	根本 祐徳
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>講義目標 フランスの名詩に触れ、フランスの文化を味わいましょう。</p> <p>講義概要 Baudelaire, Rimbaud, Verlaine, Apollinaire, Éluard, Prévert などの詩を読みます。フランスの詩を読む場合は詩法を知っていなければ読めません。簡単な詩法の説明から始めてフランスの有名な詩群を味わって行きたいと思えます。</p> <p>授業の進め方などについては最初の授業で話します。履修希望者は必ず出席してください。希望者が多い場合は授業の性格上制限することがあります。</p>		<p>文学講読という科目の性質上、授業計画を立てるのは難しいことです。履修する学生は必ず予習して出席するのが原則ですが、学生の予習・復習の度合いによって授業の進捗を考慮して進めます。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
『近代フランス名詩選』 駿河台出版社 および プリント		学期末の定期試験と授業への参加度による。	

08年度以降 07年度以前	フランス芸術文化講読Ⅱ フランス文学講読 b	担当者	根本 祐徳
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
春学期に続く		春学期に続く	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
『近代フランス名詩選』 駿河台出版社 および プリント		学期末の定期試験と授業への参加度による。	

08年度以降 07年度以前	フランス芸術文化講読 I フランス文学講読 a	担当者	伊藤 幸次
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><i>Le Soldat rose</i> est un conte musical composé par Louis Chedid, écrit par Pierre-Dominique Burgaud, créé en 2006 et illustré par Cyril Houplain, créateur de l'univers visuel de -M-. Il raconte l'histoire d'un enfant, Joseph, lassé du monde des adultes, et qui décide de se réfugier dans un grand magasin pour vivre avec les jouets. L'histoire est contée par une « voix de grand magasin ». Dédié à Billie Chédid, la petite fille de Louis Chedid, est destiné « aux enfants ... et à ceux qui le sont restés ».</p> <p>子供や子供の心を保っている人向けのミュージカルです。春学期は初演のグラン・レックス版を使います。</p> <p>原則として毎週授業の初めからアンケートを取って平常点をつけますので、就活などで出席できない人、大幅に遅刻する人、内職したい人は登録しないでください。</p>		<p>以下のサブタイトルは授業のすべてをカバーするものではありません。また順序・内容とも予告なく変更することがあります。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 <i>La Valse des étiquettes</i></li> <li>2 <i>Le monde des grands est trop petit</i></li> <li>3 <i>Le Soldat rose</i></li> <li>4 <i>Tout le monde se presse</i></li> <li>5 <i>Chien et Chat</i></li> <li>6 <i>Comme les pièces d'un puzzle</i></li> <li>7 <i>Gardien de nuit</i></li> <li>8 <i>Made in Asia</i></li> <li>9 <i>À demi-mot</i></li> <li>10 <i>Pour faire la colle à cœur brisé</i></li> <li>11 <i>La Panthère noire en peluche</i></li> <li>12 <i>Lunettes bleues, lunettes roses</i></li> <li>13 <i>Un papa, une maman</i></li> <li>14 <i>Love, Love, Love</i></li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>プリント配布 U-Tube に歌のシーンが出ていますので予習してください。</p>		<p>訳と朗読もしくは歌。プレゼンを作って提出していただきます。必ず氏名を記入すること。それと平常点</p>	

08年度以降 07年度以前	フランス芸術文化講読 II フランス文学講読 b	担当者	伊藤 幸次
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Qui n'a jamais rêvé, petit ou grand, de rester enfermé dans un magasin de jouets ? Ce fantôme, Louis Chedid l'a mis en musique puis monté sur scène, avec talent et poésie. Quatorze artistes réunis pour nous faire voir la vie en rose...</p> <p>秋学期は新しい <i>Soldat rose</i> Nouveauté を使います La voix de grand magasin は字幕にありますますがテキストにはありませんので、書き取りしていただきます。歌は春学期と同じです。</p> <p>原則として毎週授業の初めからアンケートを取って平常点をつけますので、就活などで出席できない人、大幅に遅刻する人、内職したい人は登録しないでください。</p>		<p>以下のサブタイトルは授業のすべてをカバーするものではありません。また順序・内容とも予告なく変更することがあります。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 Voix et voix</li> <li>2 Où est Joseph?</li> <li>3 L'enfant et les jouets</li> <li>4 Les meilleurs des accueils</li> <li>5 Visite guidée</li> <li>6 Le grand bazar</li> <li>7 Têtes couronnées</li> <li>8 Fini à rigoler!</li> <li>9 Le mot du jour</li> <li>10 Résumé des épisodes précédentes</li> <li>11 La fiancée du soldat</li> <li>12 La bonne idée</li> <li>13 <i>Love, Love, Love</i></li> <li>14 <i>Love, Love, Love(final)</i></li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>プリント配布 U-Tube に歌のシーンが出ていますので予習してください。</p>		<p>訳と朗読もしくは歌。プレゼンを作って提出していただきます。必ず氏名を記入すること。それと平常点</p>	

08年度以降 07年度以前	フランス芸術文化講読Ⅰ フランス文学講読 a	担当者	田村 毅
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>「フランス詩を暗唱しよう」</p> <p>言語の運用能力を高めるには、まずは文章を暗記することが基本です。ことばのリズム、発音、抑揚をまるごと暗記しましょう。暗唱するには、その努力に見合う美しいフランス語を選びましょう。フランス語の粋(すい)は詩にあります。</p> <p>フランス詩は、声に出して読むために、暗唱するためにできています。美しい詩はおぼえやすくできています。詩はことばの音楽です。暗唱することによって、フランス詩の韻律を体感しましょう。「詩的快楽は(発声する)筋肉の歓び」(André Spire)です。</p> <p>短くてやさしい抒情詩から、おぼえにくい長文の叙事詩へと、段階を追って進みます。フランス詩法や韻律を解説し、フランス詩をもとにフォーレやドビュッシーが作曲したフランス歌曲を紹介します。作曲家たち、あるいは歌手たちがどのように詩を解釈し、韻律を曲にしたて、そして歌っているかを分析します。(歌の才能に恵まれた人は自ら歌ってみてください、強制はしません。)</p> <p>半年間でできるだけ多くの詩を暗記しましょう。</p>		<p>(下記は授業の目安で、学生発表の時間などが考慮されていません。)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 授業方法、評価方法の解説。参考資料の紹介</li> <li>2 フランス詩について (暗唱 Verlaine 1)</li> <li>3 フランス詩法について1 (暗唱 Verlaine 2)</li> <li>4 フランス詩法について2 (暗唱 Apollinaire 1)</li> <li>5 詩の解説と暗唱 Baudelaire 1</li> <li>6 詩の解説と暗唱 Baudelaire 2</li> <li>7 詩の解説と暗唱 Baudelaire 3</li> <li>8 詩の解説と暗唱 Ronsard, Dubellay, Florian, etc</li> <li>9 詩の解説と暗唱 Ronsard, Dubellay, Florian, etc</li> <li>10 フランス詩と歌曲 (Verlaine et Fauré 1)</li> <li>11 フランス詩と歌曲 (Verlaine et Fauré 2)</li> <li>12 フランス詩と歌曲 (Baudelaire et Debussy 1)</li> <li>13 フランス詩と歌曲 (Baudelaire et Debussy 2)</li> <li>14 詩の暗記と暗唱について (まとめ)</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
教室で随時プリントを配布します。		授業への参加度(出席と発表)、試験(できるだけ多くの詩句を暗記する)。	

08年度以降 07年度以前	フランス芸術文化講読Ⅱ フランス文学講読 b	担当者	田村 毅
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>「フランス詩を読もう」</p> <p>フランス詩を暗唱することによって、韻律を体感し、詩的快楽を堪能してもらいます。</p> <p>詩を暗唱するのと並行して、対象を徐々に短い抒情詩から長い叙事詩へと移行し、詩の物語性(あるいは神話的構造)に着目し、「詩を読む」てほどこきをします。</p> <p>詩句における語の意味の拡がり、語義の多層性、詩句の曖昧さと想像力、散文と韻文の違い、等々について、考えながら、Hugo, Nerval, Baudelaire, Apollinaire 等の代表的な詩を読み、そして聞きます。</p> <p>詩句はさまざまに翻訳することができます。作曲家が詩句を解釈して音楽をつけたように、フランス詩を日本語に翻訳する場合にも、幾通りもの翻訳が可能であり、訳す楽しみがあります。翻訳するためには、正確な解釈が必要です、しかし、その解釈は一つではなく、翻訳に一つの正解はありません。できるだけ正確に、しかも自分のことばによる翻訳を楽しみましょう。(歌うためにも詩句の正確な解釈が必要です。)</p> <p>フランス詩を楽しむ機会はなかなかないでしょうから、授業への積極的な参加(出席と発表)を期待します。</p>		<p>(下記は授業の目安で、学生発表の時間などが考慮されていません。)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 フランス文学における抒情詩と叙事詩</li> <li>2 詩を読む Victor Hugo 1</li> <li>3 詩を読む Victor Hugo 2</li> <li>4 詩を読む Victor Hugo 3</li> <li>5 詩を読む Victor Hugo 4</li> <li>6 叙事詩と歌曲 Hugo et Fauré 1</li> <li>7 叙事詩と歌曲 Hugo et Fauré 2</li> <li>8 詩を楽しむ Gérard de Nerval 1</li> <li>9 詩を楽しむ Gérard de Nerval 2</li> <li>10 詩を楽しむ Gérard de Nerval 3</li> <li>11 詩を楽しむ Apollinaire 1</li> <li>12 詩を楽しむ Apollinaire 2</li> <li>13 詩を楽しむ Apollinaire 3</li> <li>14 詩と解釈、翻訳の問題(まとめ)</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
教室で随時プリントを配布します。		授業への参加度(出席と発表)、課題を前もって示す試験(詩句の解釈と翻訳)。	

08年度以降 07年度以前	フランス芸術文化講読Ⅰ フランス文学講読 a	担当者	筒井 伸保
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>19世紀後半の大衆小説家 Jules Verneの中編小説 <i>Un drame au Mexique</i> を読む(翻訳はない)。授業は毎回、数人の学生に訳を担当してもらう。講義はまず、初級・中級の文法・語彙知識を活用して、正確に仏文を理解することを目指すので、学生は<b>全員予習が必須</b>である。受講者制限をする可能性があるため、履修を希望する学生は必ず1回目の授業に出席すること。</p> <p>仏和辞書についての注意:学習者用の辞書(Dico、プチ・ロワイヤル、クラウン、ジュネスなど)、電子辞書では語彙が足りない。新スタンダード仏和辞典(大修館書店)やロワイヤル仏和中辞典(旺文社)などの中辞典が必要である。自分で持っていない場合は、図書館で予習すること。</p>		<p>1回目:授業の概要の説明。作者紹介。人数過多の場合は簡単なテストで制限を行なう。</p> <p>2回目以降:講読。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Jules Verne, <i>Les révoltés de la Bounty</i> , Gallimard, Folio Junior, 2005.		定期試験および平常点(出席および予習の程度)。ただし、一度も授業中に訳を担当しない者は、出席・試験の成績の如何に関わらず、不可とする。	

08年度以降 07年度以前	フランス芸術文化講読Ⅱ フランス文学講読 b	担当者	筒井 伸保
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期の続き。春学期からの継続受講が望ましく、秋学期からの受講者に対する配慮は、特に行わない。</p> <p><i>Un drame au Mexique</i> を読み終わった場合、Jules Verneの他の作品をプリントで読む。</p>		上記参照。	
テキスト、参考文献		評価方法	
上記参照。		上記参照。	

08年度以降 07年度以前	フランス芸術文化講読Ⅰ フランス文学講読 a	担当者	谷口 亜沙子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>「三日後に僕は神の兵隊に銃殺される」という言葉を残し、20歳で夭折した天才児レーモン・ラディゲ（1903-1923）が16～18歳の頃に書いた小説『肉体の悪魔』を読みます。</p> <p>なにやら恐ろしげなタイトルだと思われるかもしれませんが、大丈夫です。フランス心理分析小説の伝統に連なるこの精緻な小説を読みながら、ラディゲの削ぎ落とされたフランス語の美しさをぜひ味わってください。</p> <p>授業は輪読形式で進めます。近年、大変読みやすい新訳も出版されましたので、それを参考にしてもかまいません。ただし、授業および試験では、フランス語の構文をきちんと取れているか、指示語や代名詞の指すものを理解しているか、文章の論理をきちんと追えているか等、翻訳を覚えてきただけでは対処できないことが問われます。</p> <p>*第一回の授業までに、大学付属の書店またはインターネット等でテキスト（原書）を入手しておいてください。</p>		<p>1. フランス語を読むときのポイント、単語の覚え方のコツ、辞書の引き方の説明。第一回の授業から読みはじめますので、必ず辞書を持って出席してください。</p> <p>2～6. 講読。</p> <p>7. 映画『肉体の悪魔』とその解説。</p> <p>8～14. 講読。背景となった時代の説明などは、適宜、図版資料などを参考にしながらおこないます。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Raymond Radiquet, <i>Le Diable au corps</i> , Folio. ラディゲ『肉体の悪魔』中条昇平訳、光文社古典新訳文庫。		授業中の発表と持ち込みなしの学期末試験。	

08年度以降 07年度以前	フランス芸術文化講読Ⅱ フランス文学講読 b	担当者	谷口 亜沙子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>秋学期は、ジャン・コクトー（1889-1963）の『恐るべき子供たち』を読みます。</p> <p>1919年、文壇の寵児だったジャン・コクトーは、16歳の無名の少年ラディゲに紹介されます。たちまちにしてラディゲに魅せられたコクトーは、ラディゲとの交友を深めてゆく中で豊穡な執筆活動をおこないます。しかし、1923年に突然ラディゲを喪うと、その悲しみから阿片に耽溺するようになり、『恐るべき子供たち』は、その解毒治療のさなか執筆されました。</p> <p>息詰まるような子供部屋で繰り広げられる悲劇と幻影を追いながら、柔軟で省略の多いコクトーのフランス語を読み解いてゆきます。</p> <p>*第一回の授業までに、大学付属の書店またはインターネット等でテキスト（原書）を入手しておいてください。</p>		<p>1. 第一回の授業から読みはじめますので、必ず辞書を持って出席してください。</p> <p>2～12. 講読。</p> <p>13. 映画『恐るべき子供たち』とその解説。</p> <p>14. 講読。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Jean Cocteau, <i>Les Enfants terribles</i> , Livre de poche. コクトー『恐るべき子供たち』中条昇平訳、光文社古典新訳文庫。		授業中の発表と持ち込みなしの学期末試験。	

08年度以降 07年度以前	フランス芸術文化講読Ⅰ フランス文学講読 a	担当者	阿部 明日香
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
美術について論じたフランス語のテキストを通じて、美術に関する語彙を学び、読解力を養うことを目的とします。同時に美術に関わる諸問題について理解を深めます。必ず予習して、自分なりの訳をつくってから授業にのぞんでください。		1. ガイダンス+プリント配布 2-14. 訳読	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
プリントを配布します。		平常点（出席）と定期試験による。授業中に小テストを行う可能性もあります。	

08年度以降 07年度以前	フランス芸術文化講読Ⅱ フランス文学講読 b	担当者	阿部 明日香
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
同上		同上	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
プリントを配布します。		平常点（出席）と定期試験による。授業中に小テストを行う可能性もあります。	

08年度以降 07年度以前	フランス地域論 I フランスの地誌 a	担当者	鈴木 隆
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>フランスの地域の枠組みおよび主体としての公共団体は我が国のそれと比較した場合に、類似する側面とある意味で反対の側面をもっている。本講義は、フランスの地方の制度の実態と特徴を学び、地域のあり方について考えることを目的とする。</p> <p>フランスの地域の枠組みとしての現代の地方制度を理解した上で、それがもつ意味を、その成立の経緯を通して学ぶ。まず、旧プロヴァンスを基本的に否定する地方制度として誕生した現代のデパルトマンの成立の経緯とそれに託された意味を考える。</p> <p>次に、広域の地方としてのレジオンの成立の経緯とその意味を考察する。レジオンに相当する制度は我が国には存在しないが、我が国で議論されている道州制にそれと共通する要素が見出される。</p> <p>フランスのコミュヌは我が国の市町村に対応する基礎的自治体であるが、両者はある意味で全く逆の方向へ向かって変化してきた。そのことを念頭においてコムユヌの実態を学び、身近な地域の枠組みのあり方について考える。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義概要の説明</li> <li>2. 地域の枠組み</li> <li>3. プロヴァンスからデパルトマンへ 1</li> <li>4. プロヴァンスからデパルトマンへ 2</li> <li>5. レジオンの誕生 1</li> <li>6. レジオンの誕生 2</li> <li>7. 中間のまとめ</li> <li>8. 基礎自治体としてのコムユヌ</li> <li>9. コミュヌの合併 1</li> <li>10. コミュヌの合併 2</li> <li>11. コミュヌの連合 1</li> <li>12. コミュヌの連合 2</li> <li>13. コミュヌの連合 3</li> <li>14. 総括</li> </ol> <p>以上の授業計画には多少の変更もありうる。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
テキストは用いない。参考文献は授業中に適宜紹介する。		試験 (35%)、レポート (35%) および出席 (30%) によって評価する。	

08年度以降 07年度以前	フランス地域論 II フランスの地誌 b	担当者	鈴木 隆
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>フランスの地域を幾つかの主題を通して学ぶことによって、フランスの地域の実態を知ると同時に、地域をめぐる一般的な問題について考えることを目的とする。</p> <p>講義の主題と概要はおおよそ次の5つに分かれる。</p> <p>現代におけるフランスのコミュヌの存続志向の大きさを念頭において、都市の歴史を振り返り、その地誌的継承性および中世のコミュヌ運動について考える。</p> <p>都市の景観と住まい方という視点から、フランスの都市の特徴を学ぶ。</p> <p>地域と商業中心地の変化という世界的な現象がフランスにおいてどのような形で現われ、それに対してどのような取り組みがなされているかを学ぶ。</p> <p>フランスの大都市郊外部などに見られる、経済、生活、社会、住環境などの水準が低下した地域の再生に向けた「都市政策」の取り組みを通して、現代フランスの地域社会について学ぶ。</p> <p>観光大国といわれるフランスの観光の実態および地域の資源としての歴史的遺産の一面を学ぶ。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義概要の説明</li> <li>2. フランスの都市の歴史 1</li> <li>3. フランスの都市の歴史 2</li> <li>4. フランスの都市空間と住まい 1</li> <li>5. フランスの都市空間と住まい 2</li> <li>6. フランスの農村空間</li> <li>7. 中間のまとめ</li> <li>8. 地域と商業中心地 1</li> <li>9. 地域と商業中心地 2</li> <li>10. フランスにおける「都市政策」 1</li> <li>11. フランスにおける「都市政策」 2</li> <li>12. フランスの観光と遺産 1</li> <li>13. フランスの観光と遺産 2</li> <li>14. 総括</li> </ol> <p>以上の授業計画には多少の変更もありうる。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
テキストは用いない。参考文献は授業中に適宜紹介する。		試験 (35%)、レポート (35%) および出席 (30%) によって評価する。	

08年度以降 07年度以前	フランスの歴史 I フランスの歴史 a	担当者	藤田 朋久
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
フランス史の概説講義です。古代から現代までの各時代を概観します。		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業ガイダンス</li> <li>2. 古代</li> <li>3. 中世 1</li> <li>4. 中世 2</li> <li>5. 中世 3</li> <li>6. 近世 1</li> <li>7. 近世 2</li> <li>8. 近世 3</li> <li>9. 近世 4</li> <li>10. 19-20 世紀 1</li> <li>11. 19-20 世紀 2</li> <li>12. 19-20 世紀 3</li> <li>13. 19-20 世紀 4</li> <li>14. まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
プリント配布。参考文献はそのつど教室で指示する。		平常点、期末テスト。	

08年度以降 07年度以前	フランスの歴史 II フランスの歴史 b	担当者	藤田 朋久
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
中世から現代までの各時代について具体的なテーマを取り上げて論じます。史料を読んだり、スライドや DVD などを見る時間も設ける予定です。取り上げるテーマや詳細な授業計画は最初のガイダンスで説明します。		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業ガイダンス</li> <li>2~4. 中世 1</li> <li>5~7. 中世 2</li> <li>8~10. 近世</li> <li>11~13. 19-20 世紀</li> <li>14. まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
プリント配布。参考文献は教室で指示する。		平常点、期末テスト。	

08年度以降 07年度以前	フランスの政治経済Ⅱ フランスの政治b	担当者	廣田 愛理
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>フランスは、ヨーロッパ統合の開始当初から今日まで、統合において常に重要な役割を担ってきました。また、ヨーロッパ統合の進展とともに、フランスの対ヨーロッパ政策は国内の政策との関わりを一層強めているのが現状です。本講義では、戦後から今日に至るまで、ヨーロッパ統合という問題にフランスがどのように対応してきたかを、同時代資料（主にフランス語）を交えつつ概観します。</p> <p>履修者数によっては発表をしてもらい、今日のフランス・EU 関係についてみなさんと一緒に考えてみたいと思います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の概要</li> <li>2. 第四共和制期</li> <li>3~4. ドゴール時代</li> <li>5~6. ポンピドゥー時代</li> <li>7~8. ジスカールデスタン時代</li> <li>9~10. ミッテラン時代</li> <li>11~12. シラク時代</li> <li>13~14. 現在</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
参考文献は授業の際に指示します。		テストと平常点（課題提出、発表）	

08年度以降 07年度以前	フランスの政治経済Ⅰ フランスの経済 a	担当者	千代浦 昌道
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的</b></p> <p>重商主義以後のフランスの政治経済の動向と工業化の進展についての歴史を学び、その知識を世界と日本の政治・経済・社会諸問題についての正しい見方・考え方に役立てる。</p> <p><b>講義概要</b></p> <p>フランス経済の現状の概観を説明した上で、現在のフランス政治経済の歴史的背景を遡る。とくに18世紀以後第二次大戦前までのフランスの政治経済発展史について講義する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義に関する一般的注意</li> <li>2. 簡単な政治・経済用語の基礎知識</li> <li>3. 現代フランス政治経済概観</li> <li>4. 経済発展と工業化についての基礎知識</li> <li>5. 重商主義時代のフランス経済</li> <li>6. フランス大革命と産業革命</li> <li>7. フランス産業革命概観</li> <li>8. フランスの農業と産業革命</li> <li>9. フランスの工業化と人口問題</li> <li>10. フランスの天然資源問題と工業化</li> <li>11. フランスの保護主義と植民地経営</li> <li>12. フランスの金融制度の発展と工業化</li> <li>13. フランス工業化の社会的諸条件</li> <li>14. フランス企業経営者の社会的地位</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>パワーポイントを使用して講義する。参考文献：服部春彦、谷川稔編著『フランス近代史』（ミネルヴァ書房、1993）</p>		<p>定期試験による。出欠は成績評価の参考資料とする。</p>	

08年度以降 07年度以前	フランスの政治経済Ⅱ フランスの経済 b	担当者	千代浦 昌道
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的</b></p> <p>第二次大戦後のフランス政治経済の歴史と現状を学び、その知識を世界と日本の政治・経済・社会諸問題についての正しい見方・考え方に役立てる。</p> <p><b>講義概要</b></p> <p>第二次世界大戦後のフランス政治経済の成長と変遷を、経済計画・国有化政策・民営化などの流れに沿って説明する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 戦後フランスの経済：基礎経済統計</li> <li>2. 戦後フランスの政治経済概観①</li> <li>3. 戦後フランスの政治経済概観②</li> <li>4. フランスの経済計画と国有化政策</li> <li>5. EEC発足とフランス経済の開放化</li> <li>6. ドゴール＝ポンピドゥー時代の経済政策</li> <li>7. ジスカールデスタンとバル＝ブラン</li> <li>8. ミッテラン時代の経済と経済政策①</li> <li>9. ミッテラン時代の経済と経済政策②</li> <li>10. ミッテラン時代の経済と経済政策③</li> <li>11. シラク時代の経済と経済政策①</li> <li>12. シラク時代の経済と経済政策②</li> <li>13. フランス経済の現状とサルコジ大統領の経済政策</li> <li>14. フランス政治経済の最新情報</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>統計資料などを随時に配布する。 パワーポイントを使用して講義する。 参考文献：渡邊啓貴著『フランス現代史』（中公新書、1998）</p>		<p>定期試験による。出欠は成績評価の参考資料とする。</p>	

08年度以降 07年度以前	フランス現代思想Ⅰ フランスの思想 a	担当者	若森 栄樹
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この講座では現代フランスの思想、とくにジャック・デリダ（1930-2003）を中心に多くの思想家のテキストの抜粋を読み、現代フランス思想の大枠を理解する事を目的とします。デリダをはじめとして現代フランスの思想書は数多く翻訳されていますが、原文で読まなければ本当には理解できないところがあります。そこでこの講座では受講者とともに一字一句正確に読むことに重点を置き、現代フランス思想の持つ途方もない射程を明らかにしていきたいと考えています。</p> <p>受講者には授業に積極的に参加し、「自分の頭で考える」という習慣を身につけ、これまでの常識にとらわれないものの見方を学んでもらいたいと願っています。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション</li> <li>2. イントロダクション</li> <li>3. サルトルと実存主義（1）</li> <li>4. その2</li> <li>5. アルベール・カミと不条理の思想</li> <li>6. その2</li> <li>7. モーリス・ブランショと文学</li> <li>8. その2</li> <li>9. その3</li> <li>10. エマニュエル・レヴィナスとユダヤ思想</li> <li>11. その2</li> <li>12. その3</li> <li>13. その4</li> <li>14. まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Jacques Derrida, <i>La voix et le phénomène</i> , PUF, 1967 など プリント配布。参考文献は授業で指示します。		期末レポートおよび平常点	

08年度以降 07年度以前	フランス現代思想Ⅱ フランスの思想 b	担当者	若森 栄樹
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この講座では現代フランスの思想、とくにジャック・デリダ（1930-2003）を中心に多くの思想家のテキストの抜粋を読み、現代フランス思想の大枠を理解する事を目的とします。デリダをはじめとして現代フランスの思想書は数多く翻訳されていますが、原文で読まなければ本当には理解できないところがあります。そこでこの講座では受講者とともに一字一句正確に読むことに重点を置き、現代フランス思想の持つ途方もない射程を明らかにしていきたいと考えています。</p> <p>受講者には授業に積極的に参加し、「自分の頭で考える」という習慣を身につけ、これまでの常識にとらわれないものの見方を学んでもらいたいと願っています。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ジャック・デリダとデコンストラクション</li> <li>2. その2</li> <li>3. その3</li> <li>4. その4</li> <li>5. 「声と現象」を読む（1）</li> <li>6. その2</li> <li>7. その3</li> <li>8. 『弔鐘』を読む</li> <li>9. その2</li> <li>10. その3</li> <li>11. その4</li> <li>12. その5</li> <li>13. 総括（1）</li> <li>14. 総括（2）</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Jacques Derrida, <i>La voix et le phénomène</i> , PUF, 1967 など プリント配布。参考文献は授業で指示します。		期末レポートと平常点	

08年度以降	現代フランス論 I	担当者	乗川 聡
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この講座は、現代フランス社会の独自性を、主に経済・経営の視点から明らかにすることを目的とします。</p> <p>春学期では、第二次大戦後に確立した「混合経済体制」を軸とするフランス独自の経済システムと、そのシステムにときには同調し、ときには反発したフランスの経営者・労働者の特質を明らかにします。</p>		<p>第1回：ガイダンス  第2回：市場経済システムと資本主義の多様性  第3-4回：産業革命以降のフランス経済・経営史（通史）  第5-6回：混合経済体制  第7-8回：EU統合への対応  第9回：金融制度  第10回：労働市場と雇用  第11-13回：企業経営の思想と行動  第14回：総括</p> <p>*受講者の興味・関心、理解度に応じて内容を変更する可能性があります。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキストはなし。レジュメを配布する。  参考文献は随時授業中に指示する。</p>		<p>出席(40%)およびレポート(60%)</p>	

08年度以降	現代フランス論 II	担当者	乗川 聡
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この講座は、現代フランス社会の独自性を、主に経済・経営の視点から明らかにすることを目的とします。</p> <p>秋学期では、春学期に学習した内容を踏まえ、いくつかのテーマについてさらに深く掘り下げて検討することによって、戦後フランス経済・経営の特質をより詳細に明らかにすると同時に、1990年代以降のグローバリゼーションがそこにもたらした影響を明らかにします。</p> <p>取り上げるテーマは変更の可能性があります。全体としては、フランスの産業社会が伝統的に維持してきた特質（高級品、小規模経営、規制的市場、etc.）が戦後の自由貿易体制とグローバリゼーションの潮流の中でどのような変化を経験したのかを明らかにすることが目的となります。</p>		<p>第1回：ガイダンス  第2回：春学期の復習  第3-5回：フランスにおけるアメリカナイゼーションと反アメリカニズム  第6-8回：奢侈品産業  第9-10回：食品産業  第11-12回：流通業  第13回：総括</p> <p>*受講者の興味・関心、理解度に応じて内容を変更する可能性があります。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキストはなし。レジュメを配布する。  参考文献は随時授業中に指示する。</p>		<p>出席(40%)およびレポート(60%)</p>	

08年度以降 07年度以前	フランス現代社会各論 I フランス文化・社会各論 a	担当者	PH. ヴァネ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>Questions sur la diversité française : une approche historique</b></p> <p>Ce cours a pour but d'étudier, à travers le cas de la France, l'intégration dans une même société d'individus, de groupes, de cultures d'origines différentes. Le respect de la différence est-il possible ? Est-il souhaitable ? Le premier semestre posera les données du problème en particulier d'un point de vue historique. Le second semestre sera consacré au XX<sup>e</sup> siècle et à quelques situations actuelles.</p> <p>Le contenu du cours pourra varier pour tenter de répondre aux souhaits des étudiants mais il est nécessaire d'avoir :</p> <p>-une bonne connaissance du français et de sa grammaire ;</p> <p>-un grand intérêt pour les questions sociales.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction générale</li> <li>2. Notions de solidarité, de diversité, d'uniformité</li> <li>3. Le peuple français et les principes de la République</li> <li>4. La frontière existe-t-elle encore ? La France en Europe</li> <li>5. La Métropole et la France d'outre-mer (1)</li> <li>6. La Métropole et la France d'outre-mer (2)</li> <li>7. Formation du 1<sup>er</sup> empire colonial</li> <li>8. Le 1<sup>er</sup> empire colonial et la traite des Noirs</li> <li>9. Formation du 2<sup>e</sup> empire colonial</li> <li>10. Transformation des colonies : peuples et territoires</li> <li>11. Le cas de l'Algérie (1)</li> <li>12. Le cas de l'Algérie (2)</li> <li>13. La décolonisation</li> <li>14. Conclusion</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Polycopiés, internet, extraits de films.</p> <p>Emmanuel Vaillant, <i>L'immigration</i>, Les essentiels Milan, 2006.</p>		<p>Variable selon le nombre des étudiants : petits tests, grand test, exposés ou rapport.</p>	

08年度以降 07年度以前	フランス現代社会各論 II フランス文化・社会各論 b	担当者	PH. ヴァネ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>Questions sur la diversité française : une approche historique</b></p> <p>Voir ci-dessus la présentation de ce cours.</p> <p>Le second semestre sera consacré au XX<sup>e</sup> siècle et à quelques situations actuelles.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction</li> <li>2. La première vague d'immigration à la fin du XIX<sup>e</sup></li> <li>3. Conséquences de la 1<sup>ère</sup> Guerre mondiale : la 2<sup>e</sup> vague</li> <li>4. La crise de 1929 et l'immigration</li> <li>5. Honte et fierté de la France face à la Shoah (1)</li> <li>6. Honte et fierté de la France face à la Shoah (2)</li> <li>7. Les « Trente Glorieuses » et ses conséquences sur l'immigration.</li> <li>8. L'arrivée des « rapatriés d'Algérie et des Harkis.</li> <li>9. Arrêt officiel de l'immigration.</li> <li>10. La situation actuelle en chiffres.</li> <li>11. Intégration ou discrimination (1)</li> <li>12. Intégration ou discrimination (2)</li> <li>13. y a-t-il un modèle français d'intégration ?</li> <li>14. Conclusion</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Polycopiés, internet, extraits de films.</p> <p>Gérard Noiriel, <i>Atlas de l'immigration en France</i>, Autrement, 2006.</p>		<p>Variable selon le nombre des étudiants : petits tests, grand test, exposés ou rapport.</p>	

08年度以降 07年度以前	フランス現代社会各論Ⅰ フランス文化・社会各論 a	担当者	井上 たか子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<b>講義目的</b> フランス女性の現況を知ると同時に、そこから浮かび出てくる問題点についてより詳しく学習し、日本の状況を考える手がかりとする。 <b>講義概要</b> 1984年にフランスの国営テレビTF1で4回にわたって放送されたビデオ「ボーヴォワールと語る－『第二の性』その後」を参考に、『第二の性』の書かれた時代から35年後、さらに25年を経た現在のフランス女性の状況について検討・比較する。なお、春学期は特に「少子化問題」に焦点をあてる。 何が変わり何が変わらなかったのか、それは何故なのかを学生が自ら考え、レポート発表やディスカッションを通してその考えを表現できるように指導する。		初回の授業で説明します。 （授業ではコミュニケーションを重視しますので、定員35名に達した場合抽選します）	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
テキストは特に用いない。毎回プリントを配布。参考文献は授業の中で提示する。		レポート発表とディスカッションへの参加度で評価する。	

08年度以降 07年度以前	フランス現代社会各論Ⅱ フランス文化・社会各論 b	担当者	井上 たか子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<b>講義目的</b> フランス女性の現況を知ると同時に、そこから浮かび出てくる問題点についてより詳しく学習し、日本の状況を考える手がかりとする。 <b>講義概要</b> 1984年にフランスの国営テレビTF1で4回にわたって放送されたビデオ「ボーヴォワールと語る－『第二の性』その後」を参考に、『第二の性』の書かれた時代から35年後、さらに25年を経た現在のフランス女性の状況について検討・比較する。なお、秋学期は特に「女性の社会進出」に焦点をあてる。 何が変わり何が変わらなかったのか、それは何故なのかを学生が自ら考え、レポート発表やディスカッションを通してその考えを表現できるように指導する。		初回の授業で説明します。 （授業ではコミュニケーションを重視しますので、定員35名に達した場合抽選します）	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
テキストは特に用いない。毎回プリントを配布。参考文献は授業の中で提示する。		レポート発表とディスカッションへの参加度で評価する。	

08年度以降 07年度以前	フランス現代社会講読 I フランス文化・社会講読 a	担当者	PH. ヴァネ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Il y a 50 ans Albert Camus mourait (1913-1960). De nombreuses manifestations auront lieu en France et dans le monde autour de l'œuvre de Camus. Ce cours essaiera de présenter les grandes étapes de sa vie et ses écrits les plus importants. Nous lirons en plus des extraits d'articles et des passages de certaines œuvres.</p> <p>Les textes à lire seront donnés à l'avance avec une série de questions à préparer.</p> <p>Pendant le cours : lecture, réponse aux questions, travail sur quelques points de grammaire, informations sur le point abordé dans le texte.</p> <p style="text-align: center;"><u>Pas de traduction.</u></p>		<p>1. Biographie et textes concernant l'avant-guerre.</p> <p>6. Petit test de vocabulaire</p> <p>7. Biographie et textes concernant la guerre.</p> <p>14. Conclusions</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Photocopies, internet, DVD. Il est recommandé d'avoir un dictionnaire français-français, par exemple le <i>Larousse</i> de poche 2010.		Petit test de vocabulaire et examen semestriel : vocabulaire, grammaire, compréhension des textes.	

08年度以降 07年度以前	フランス現代社会講読 II フランス文化・社会講読 b	担当者	PH. ヴァネ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Voir le premier semestre. Le rythme de lecture et de façon générale la progression du cours dépend du travail des étudiants.</p> <p style="text-align: center;"><u>Pas de traduction.</u></p>		<p>1. Biographie et textes concernant l'après-guerre</p> <p>8. La question algérienne.</p> <p>14. Conclusions.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Photocopies, internet, DVD. Il est recommandé d'avoir un dictionnaire français-français, par exemple le <i>Larousse</i> de poche 2010.		examen semestriel ou rapport : lecture à haute voix, vocabulaire, grammaire, compréhension des textes.	

08年度以降 07年度以前	フランス現代社会講読Ⅰ フランス文化・社会講読 a	担当者	藤田 朋久
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
現代フランスを代表する中世史家のひとりジャック・ルゴフの下記の書物から「ロラン」の章を読みます。中世の叙事詩「ロランの歌」の主人公のイメージがどのようにして生まれ、またそれがどのように変容しながら近代に受け継がれていったかを考えます。		1. 授業ガイダンス 2～13. テキスト講読 14. まとめ	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Jacques Le Goff, <i>Héros et merveilles du Moyen Age</i> , Paris, 2009.		平常点、期末テスト。	

08年度以降 07年度以前	フランス現代社会講読Ⅱ フランス文化・社会講読 b	担当者	藤田 朋久
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
「ロランの歌」を子供向けに書き下ろした物語などを読みます。またロランを題材にした映画なども見ながら現代におけるロラン像を考えます。		1. 授業ガイダンス 2～13. テキスト講読 14. まとめ	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
プリント配布。		平常点、期末テスト。	

08年度以降 07年度以前	フランス現代社会講読 I フランス文化・社会講読 a	担当者	E. クロズ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>Objectif:</b> Lire ensemble un roman contemporain, adapté l'an dernier au cinéma, et voir aussi comment les romans sont adaptés à l'écran puisque nous regarderons le film ensemble avant de partir à la découverte du livre.</p> <p><b>Contenu :</b> "L'élégance du hérisson" raconte la vie d'un immeuble bourgeois à Paris à notre époque et la rencontre de trois personnages : Renée la concierge, Paloma, une jeune fille de 12 ans qui habite l'immeuble, et un nouvel arrivant, Monsieur Ozu. Renée, le personnage principal, a un secret, que Paloma et Monsieur Ozu découvriront rapidement...</p> <p>C'est aussi la rencontre de deux cultures, française et japonaise, qui est dépeinte ici, dans un joli conte moderne écrit dans un français facile qui vous fera vivre, pendant un an, dans un immeuble parisien, comme si vous y étiez !</p>		<p>Il n'est pas nécessaire de lire tous les chapitres du livre, nous en sélectionnerons donc quelques-uns que nous lirons en classe.</p> <p>Chaque semaine nous lirons un chapitre que vous aurez préparé à la maison, et une fois le texte bien compris, nous lirons certains passages descriptifs ou jouerons les dialogues (la concierge et Monsieur Ozu, Paloma et ses parents, etc).</p> <p>Pendant les vacances certains chapitres qui n'auront pas été lus en classe, seront à lire en devoir.</p> <p>Des copies seront distribuées les premières semaines. Ensuite vous travaillerez avec votre propre livre.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
L'élégance du hérisson, Muriel Barbery, éditions Folio Dictionnaire		Lectures à haute voix Présence et participation au cours Contrôle continu	

08年度以降 07年度以前	フランス現代社会講読 II フランス文化・社会講読 b	担当者	E. クロズ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>Objectif:</b> Lire ensemble un roman contemporain, adapté l'an dernier au cinéma, et voir aussi comment les romans sont adaptés à l'écran puisque nous regarderons le film ensemble avant de partir à la découverte du livre.</p> <p><b>Contenu :</b> "L'élégance du hérisson" raconte la vie d'un immeuble bourgeois à Paris à notre époque et la rencontre de trois personnages : Renée la concierge, Paloma, une jeune fille de 12 ans qui habite l'immeuble, et un nouvel arrivant, Monsieur Ozu. Renée, le personnage principal, a un secret, que Paloma et Monsieur Ozu découvriront rapidement...</p> <p>C'est aussi la rencontre de deux cultures, française et japonaise, qui est dépeinte ici, dans un joli conte moderne écrit dans un français facile qui vous fera vivre, pendant un an, dans un immeuble parisien, comme si vous y étiez !</p>		<p>Nous continuerons la lecture du livre "L'élégance du hérisson" au même rythme qu'au premier semestre, en travaillant aussi sur les passages qui auront été lus pendant les vacances.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
L'élégance du hérisson, Muriel Barbery, éditions Folio Dictionnaire		Lectures à haute voix Présence et participation au cours Contrôle continu	

08年度以降 07年度以前	フランス現代社会講読Ⅰ フランス文化・社会講読 a	担当者	乗川 聡
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業では、</p> <p>François BELLEC : <i>La France des gens de mer 1900/1950</i>, Éditions du Chêne, 2001</p> <p>Jean-Luc MAYAUD : <i>Gens de la terre. La France rurale 1880-1940</i>, Éditions du Chêne, 2002</p> <p>Denis WORONOFF : <i>La France industrielle. Gens des ateliers et des usines 1890-1950</i>, Éditions du Chêne, 2003</p> <p>の3冊から適宜トピックスを選び、20世紀前半フランスの各種産業（農業、漁業、工業など）における近代化の状況を理解すると共に、経済・産業関係のフランス語を習得します。</p> <p>当面は輪読形式で授業を進めますので、しっかりと予習（発音の確認、訳文の作成）した上で授業に臨んでください。</p>		<p>第1回：ガイダンス 第2-6回：テキスト購読 第7回：中間試験 第8-13回：テキスト購読 第14回：期末試験</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキストはいずれも大型本のため購入・持参は不要。プリントを配布します。</p>		<p>出席(10%)、平常点(40%)、中間試験(25%)、期末試験(25%)。</p>	

08年度以降 07年度以前	フランス現代社会講読Ⅱ フランス文化・社会講読 b	担当者	乗川 聡
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業では、</p> <p>François BELLEC : <i>La France des gens de mer 1900/1950</i>, Éditions du Chêne, 2001</p> <p>Jean-Luc MAYAUD : <i>Gens de la terre. La France rurale 1880-1940</i>, Éditions du Chêne, 2002</p> <p>Denis WORONOFF : <i>La France industrielle. Gens des ateliers et des usines 1890-1950</i>, Éditions du Chêne, 2003</p> <p>の3冊から適宜トピックスを選び、20世紀前半フランスの各種産業（農業、漁業、工業など）における近代化の状況を理解すると共に、経済・産業関係のフランス語を習得します。</p> <p>授業を輪読形式で進めるか、指名された担当者による要約・発表形式で進めるかは、開講時に受講者の希望と能力に応じて決定します。</p>		<p>第1回：ガイダンスおよびテキスト購読 第2-6回：テキスト購読 第7回：中間試験 第8-12回：テキスト購読 第13回：期末試験</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキストはいずれも大型本のため購入・持参は不要。プリントを配布します。</p>		<p>出席(10%)、平常点(40%)、中間試験(25%)、期末試験(25%)。</p>	

08年度以降 07年度以前	フランス現代社会講読Ⅰ フランス文化・社会講読 a	担当者	横地 卓哉
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>フランス語の読解力を高める。 フランス語で書かれた時事的な記事にしたしむ。</p> <p>テキストとしては最新の記事（新聞等）をもちいる。</p> <p>各自が事前に配布された文章を読み、必要なことがらを調べ、授業で確認をおこぼう、という作業を基本とする。</p> <p>特に5月中旬（5月17日の予定）、6月中旬（14日の予定）には課題の提出を求める。課題の内容・形式等については第1回目の授業で説明をおこなう。課題の提出をおこたったものは、評価を自動的にFまたはX（3年生）、FGまたはX（4年生）にする。</p> <p>時事的な文章に限らないが、当該外国語の能力以上に（母語でそなわっているはずの）教養・知識・判断力が問題となってくる。伝達媒体にはこだわらないから、なるべく多くの情報に接するようにこころがけてほしい。</p>		<p>第1回目の授業で授業の進め方、課題、定期試験等について詳しく説明するので、履修予定者は必ず出席すること。なんらかの事情で出席できない場合は、出席した者から説明を聞いておくこと。これに限らず、「知らなかった」ということは以後一切理由として認めないので重々承知しておくこと。</p> <p>使用するテキストについての希望もうかがい、なるべく多くの受講者が興味を持てるものにしたいたいと考えている。</p> <p>受講者の人数・レベルにより授業内容は大きく変わることになるが、意欲があり努力をする学生である限り現時点の学力にはこだわらない。遠慮せず履修して頂きたい。また、フランス語の力に自信があると辞任する学生は、まわりのひとたちのささえになっほしい。教えるということが学ぶ上での最上の方法であることは多くの方がご存じのことと思う。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキストは担当者が用意する。各自インターネットダウンロードしていただくこともあることとおもう。 参考文献は授業時に紹介する。（特に1回目）</p>		<p>課題・定期試験・その他</p>	

08年度以降 07年度以前	フランス現代社会講読Ⅱ フランス文化・社会講読 b	担当者	横地 卓哉
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>フランス語の読解力を高める。 フランス語で書かれた時事的な記事にしたしむ。</p> <p>テキストとしては最新の記事（新聞等）をもちいる。</p> <p>各自が事前に配布された文章を読み、必要なことがらを調べ、授業で確認をおこぼう、という作業を基本とする。</p> <p>特に10月中旬（10月18日の予定）、11月中旬（11月15日の予定）、12月中旬（12月13日）には課題の提出を求める。課題の内容・形式等については第1回目の授業で説明をおこなう。課題の提出をおこたったものは、評価を自動的にFまたはX（3年生）、FGまたはX（4年生）にする。</p> <p>時事的な文章に限らないが、当該外国語の能力以上に（母語でそなわっているはずの）教養・知識・判断力が問題となってくる。伝達媒体にはこだわらないから、なるべく多くの情報に接するようにこころがけてほしい。</p>		<p>春学期参照</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>春学期参照</p>		<p>春学期参照</p>	

08年度以降 07年度以前	フランス現代社会講読Ⅰ フランス文化・社会講読 a	担当者	鈴木 隆
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義は、フランスの世界遺産に関する文献の講読を通じて、現代に継承されたフランスの歴史性の一面を学ぶと同時に、専門的なフランス語の習得を目的とする。</p> <p>講義では、フランスにある世界遺産を順次取り上げて、その概要について学ぶ。年間の講義時間を考慮して、春学期に取り上げる遺産は4件に絞り込む予定である。</p> <p>授業で取り上げる世界遺産はすべて、前年度に取り上げたものとは異なる。</p> <p>講義は、受講生が予め割り当てられた文献の部分について発表し、それに対するコメント、補足説明などを行う形で進める。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義概要の説明</li> <li>2. オランジュの古代劇場と凱旋門 1</li> <li>3. オランジュの古代劇場と凱旋門 2</li> <li>4. オランジュの古代劇場と凱旋門</li> <li>5. アミアン大聖堂 1</li> <li>6. アミアン大聖堂 2</li> <li>7. アミアン大聖堂 3</li> <li>8. フォンテヌブローの宮殿と庭園 1</li> <li>9. フォンテヌブローの宮殿と庭園 2</li> <li>10. フォンテヌブローの宮殿と庭園 3</li> <li>11. ヴェルサイユの城館と庭園 1</li> <li>12. ヴェルサイユの城館と庭園 2</li> <li>13. ヴェルサイユの城館と庭園 3</li> <li>14. 講義のまとめ</li> </ol> <p>以上の授業計画には多少の変更もありうる。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
講読の資料を配布する。参考文献は、講義中に必要に応じて紹介する。		試験の結果（60%）と授業中の発表（40%）によって評価する。	

08年度以降 07年度以前	フランス現代社会講読Ⅱ フランス文化・社会講読 b	担当者	鈴木 隆
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義は、フランスの世界遺産に関する文献の講読を通じて、現代に継承されたフランスの歴史性の一面を学ぶと同時に、専門的なフランス語の習得を目的とする。</p> <p>講義では、フランスにある世界遺産を順次取り上げて、その概要について学びます。年間の講義時間を考慮して、秋学期に取り上げる遺産は4件に絞り込む予定である。</p> <p>授業で取り上げる遺産はすべて、前年度に取り上げたものとは異なる。</p> <p>講義は、受講生が予め割り当てられた文献の部分について発表し、それに対するコメント、補足説明などを行う形で進める。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義概要の説明</li> <li>2. アヴィニョンの歴史的市街地 1</li> <li>3. アヴィニョンの歴史的市街地 2</li> <li>4. アヴィニョンの歴史的市街地 3</li> <li>5. ランス大聖堂、サン・レミ修道院およびトー宮殿 1</li> <li>6. ランス大聖堂、サン・レミ修道院およびトー宮殿 2</li> <li>7. ランス大聖堂、サン・レミ修道院およびトー宮殿 3</li> <li>8. パリのセーヌ河岸 1</li> <li>9. パリのセーヌ河岸 2</li> <li>10. パリのセーヌ河岸 3</li> <li>11. ナンシーのスタニスラ広場・カリエール広場・アリアンス広場 1</li> <li>12. ナンシーのスタニスラ広場・カリエール広場・アリアンス広場 2</li> <li>13. ナンシーのスタニスラ広場・カリエール広場・アリアンス広場 3</li> <li>14. 講義のまとめ</li> </ol> <p>以上の授業計画には多少の変更もありうる。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
講読の資料を配布する。参考文献は、講義中に必要に応じて紹介する。		試験の結果（60%）と授業中の発表（40%）によって評価する。	

08年度以降 07年度以前	フランス現代社会講読Ⅱ フランス文化・社会講読b	担当者	廣田 愛理
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>パリのメトロ（地下鉄）は、いかにして建設されたのか。他国の地下鉄と比較してどのような特徴を持っているのか。今日、パリ市内を移動する上で欠かせない足となっているメトロの役割について、フランス語のテキストを通して皆さんとともに探っていきます。</p> <p>本講義の目的は、できるだけ多くの文章をフランス語で読み、文章の要旨を把握する力を鍛えることにあります。テキストのフランス語は難解ではありませんので、簡単に予習をしてきてください。</p> <p>【注意】授業では毎回、2~3行の日本語訳を課題として提出してもらいます。これが評価の70%を占めるので、出席回数が少ないと単位は取れません。辞書は忘れずに持ってきてください。</p> <p>また、授業中は担当者を決めずにランダムに翻訳を担当してもらいます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の概要</li> <li>2~3. メトロの特徴</li> <li>4~5. メトロの路線と駅</li> <li>6~8. メトロ建設の歴史：19世紀</li> <li>9~10. 「メトロの父」Fulgence Bienvenüe</li> <li>11~13. メトロ建設の歴史：20世紀</li> <li>14. まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
プリント配布		授業中の翻訳の担当（10%）、課題提出（70%）、小テスト（20%）で評価します。	

08年度以降 07年度以前	フランス現代社会講読Ⅰ フランス文化・社会講読 a	担当者	若森 栄樹
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この講座では昨年に引き続き、歌詞を理解する事に重点を置きつつフランスの歌（シャンソン）を聴いていきます。フランスの歌には日本の歌と発想や内容で違うところがありますが、ヨーロッパの歌の在り方を知る事で皆さんの音楽への接し方もかわってくるのではないかと思います。</p> <p>扱う歌としては古いもの、新しいものを取り混ぜて聞いていきます。</p> <p>歌詞をあらかじめ渡すので、曲、および作者について調べ、発表してもらいます。</p> <p>受講者は youtube などを利用して曲を繰り返し聞き、歌の理解を深めてもらいたいと思います。</p> <p>授業は ipod、DVD などを使用して行います。</p>		<p>次のような歌い手を取り上げる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) Diam's</li> <li>2) Lynda Lemay</li> <li>3) Bénabar</li> <li>4) Renaud</li> <li>5) Allain Leprest</li> <li>6) Olivia Ruiz</li> <li>7) Christophe Maé</li> <li>8) Renan Luce</li> <li>9) Raphaël</li> <li>10) Zazie</li> <li>11) Calogero</li> <li>12) Vanessa Paradis</li> <li>13) Vincent Delerm</li> <li>14) Julien Clerc</li> </ol> <p>(順不同。これ以外の chanteurs, chanteuses を取り上げる事もありうる)</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
授業の際指示する		期末レポートおよび平常点	

08年度以降 07年度以前	フランス現代社会講読Ⅱ フランス文化・社会講読 b	担当者	若森 栄樹
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この講座では昨年に引き続き、歌詞を理解する事に重点を置きつつフランスの歌（シャンソン）を聴いていきます。フランスの歌には日本の歌と発想や内容で違うところがありますが、ヨーロッパの歌の在り方を知る事で皆さんの音楽への接し方もかわってくるのではないかと思います。</p> <p>扱う歌としては古いもの、新しいものを取り混ぜて聞いていきます。</p> <p>歌詞をあらかじめ渡すので、曲、および作者について調べ、発表してもらいます。</p> <p>受講者は youtube などを利用して、曲を繰り返し聞き、理解を深めてもらいたいと思います。</p> <p>授業は ipod、DVD などを使用して行います。</p>		<p>次のような歌い手を取り上げる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) Jacques Brel</li> <li>2) Georges Brassens</li> <li>3) Juliette Greco</li> <li>4) Barbara</li> <li>5) Michel Polnareff</li> <li>6) Charles Aznavour</li> <li>7) Serge Gainsbourg</li> <li>8) Boris Vian</li> <li>9) Véronique Sanson</li> <li>10) Anne Sylvestre</li> <li>11) Jean Ferrat</li> <li>12) Hélène Martin</li> <li>13) Damia</li> <li>14) Lucienne Delyle</li> </ol> <p>(順不同。これ以外の chanteurs, chanteuses を取り上げる事もありうる)</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
授業の際指示する		期末レポートおよび平常点	

# 交 流 文 化 論

(09年度以降入学者)

09年度以降	交流文化論（ツーリズム文化論）	担当者	太田 勉
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>2008年の観光庁発足に象徴されるように、ツーリズムの振興は国家的戦略目標になっています。独自の豊かな文化を持つ国々や地域は多数の人々をひきつけてやみません。文化は国や地域の歴史、伝統、人々の行動様式や価値観の表れでもあります。オランダやラスベガスにみられる巨大ツーリズム産業の成立は、アメリカの開拓者精神を抜きには語れません。アジア各地に展開する香港系高級ホテルチェーンの成功も、華人文化に脈々と流れる事業家精神の基礎の上に築かれています。</p> <p>若い世代の海外旅行離れは日本のツーリズム衰退につながる危険性をはらんでいます。メディアの発達により、海外の事情をいながらにして知ることが出来る時代になりました。東アジアの若い世代は、さまざまなメディア情報に触発され、海外を目指します。日本の同世代は疑似体験に満足し、内にもこります。自らの旅行体験に根ざした、グローバルな視野を持った若い世代が育つことが、インバウンド、アウトバウンドに限らず、日本のツーリズム振興にとって重要だと考えます。こうした考えに基づき講義を進めたいと思います。外国の基本的な地名、人名等の正しい英語表記使用を含め、一般授業を通じて英語力の裾野を広げる機会を提供するのも本講義のねらいの一つです。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. インバウンドツーリストに見るツーリズム文化</li> <li>2. インターネットとツーリズム</li> <li>3. 外国政府観光局のツーリズムプロモーション</li> <li>4. アメリカのツーリズム文化</li> <li>5. 大自然の魅力を最大限に引き出し、環境にも配慮するアメリカの国立公園行政</li> <li>6. オランダやラスベガスに見る、巨大ツーリズム産業の成立</li> <li>7. クルージングを楽しむ人々</li> <li>8. 世界で宿泊産業をリードするホテルチェーン</li> <li>9. アジアのツーリズムを支える頭脳集団</li> <li>10. 旧暦の正月こそ本当の正月、東アジアの華人文化</li> <li>11. 植民地遺産を活かす香港のツーリズム</li> <li>12. アジアの大衆文化とツーリズム</li> <li>13. 琉球文化とアメリカ文化の混合が独自の魅力を作り出す沖縄</li> <li>14. 国家の総合力を試される MICE ツーリズムの行方</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
なし		小テスト2回（40%）と期末試験（60%）を実施します。出席日数が少ない場合減点対象とすることがあります。	

		担当者	
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	

09年度以降	交流文化論（市民参加のまちづくり論）	担当者	北野 収
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義では、「市民参加のまちづくり論」として、日本と海外、都市と農村など地域や分野を横断的に取り扱い、そこにある普遍的な理論や問題を考えます。</p> <p>まち（地域）づくりという言葉から何を連想しますか。道路やビルを造ること、景観を整備すること、商店街を活性化させること、等々。本講義では、「まちづくり＝人々の間のコミュニケーションの総和」として捉えます。なぜ「市民参加」が必要なのでしょう。それは互いに異なる者同達が、コミュニケーションする場と空間が必要だからです。取り上げる具体的な事例としては、ゴミリサイクルによる地産地消、都市近郊での環境教育、ニューヨークのドッグラン、インドネシアでのNGO活動など、多様ですが、人々のコミュニケーションという共通の視座を考えていきます。</p> <p>教科書として指定する書籍には、地域計画に関するやや専門的な内容も含まれますが、できるだけ分かりやすくかみ砕いて解説するように努めますので、この点に関する心配は無用です。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の概要</li> <li>2. 地域の発展を理解するための視座</li> <li>3. 内発的発展と外来型開発</li> <li>4. 組織・制度化 (institutionalization)</li> <li>5. 住民参加(participation)の意義と多義性</li> <li>6. 事例研究：参加型開発 ※教室内ワークショップ</li> <li>7. 内発的発展におけるキーパーソン</li> <li>8. 共益から公益の創出へ：NYと東京のドッグランを例として</li> <li>9. コミュニティマネー（ビデオ、坂本龍一『地域通貨の未来』）</li> <li>10. コミュニティ開発とコミュニケーションエラー：インドネシアでのNGO援助を事例として</li> <li>11. 過疎地の地域づくりと外部者のまなざし</li> <li>12. 多文化共生と地域づくり</li> <li>13. まちづくりと観光（ビデオ『湯布院癒しの里の百年戦争』）</li> <li>14. 大学とまちづくり</li> <li>15. まとめ：「まちづくりは人づくり」</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>（テキスト） 北野収『共生時代の地域づくり論』農林統計出版 ※各自で購入してください</p>		<p>期末試験（60%）、平常授業による課題レポートなども評価対象（40%）。</p>	

		担当者	
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	

09年度以降	交流文化論（旅行・宿泊産業論）	担当者	遠藤 充信
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的</b>          ツーリズム産業の重要な役割を果たしている旅行業と宿泊業について、その歴史、組織と機能、経営の実態、社会的意義と役割について学習する。</p> <p><b>講義概要</b>          旅行会社の業務を通して、旅行ビジネスの概略を学習する。旅行業の発展経緯と機能役割、マーケティングについて重点的に学習する。IT時代における旅行ビジネスの実態と今日的課題及び将来像についても把握する。          宿泊産業では旅館を含む全体の概略を学習するが、殊に、外資の進出が著しいホテルビジネスについて、その運営方法、マネジメント等を学び、併せて、ホスピタル産業としての側面よりホテル業のサービスの実態についても学習する。</p> <p>講義では、流動的な航空業界や旅行業界の動き等々観光関連報道記事も適宜取上げ、学習の参考にしたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の概要</li> <li>2. 旅行業の沿革①</li> <li>3. 旅行業の沿革②</li> <li>4. 旅行会社の意義と役割</li> <li>5. 旅行会社の分類と商品</li> <li>6. 旅行会社の業務</li> <li>7. 旅行業界の現状と課題・展望</li> <li>8. 宿泊業の沿革</li> <li>9. 宿泊業の概要</li> <li>10. ホテル業の種別</li> <li>11. ホテル業の運営経営形態</li> <li>12. ホテル業のサービス</li> <li>13. ホテル業界の現状と・展望</li> <li>14. 講義のまとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
テキスト：適宜プリントを配布する。 参考文献：適宜指示する。		試験結果と授業への参加度等を総合的に判断する。	

		担当者	
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	

09年度以降	交流文化論（航空産業論）	担当者	遠藤 充信
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>講義目的 国際観光事業において重要な役割を担う国際航空産業は、各国の経済力や政策に左右される国際政治の影響を受けやすい。国際航空業の仕組みや成り立ちを、国際航空協定と航空ナショナリズムの流れを学習することにより把握する。併せて、わが国の航空政策の現状と課題、及び将来の展望について理解する。</p> <p>講義概要 国際線運航の原則、航空の国際的組織、国際航空の潮流、わが国の航空政策等々を学習することにより、国際航空運送の仕組みを理解する。又、各国の航空規制緩和がもたらした航空業界の変革について、アメリカの航空政策の規制緩和を中心に学習する。殊に、ローコストキャリア（新規低運賃航空会社）の台頭が著しい欧米、アジアの現状を検証する。一方、羽田の国際化問題で揺れるわが国の航空運送の現状について、空港問題を中心に航空政策の課題についても触れ、今後の展望を学習する。</p> <p>講義では、流動的な航空業界や旅行業界の動き等々観光関連報道記事も適宜取上げ、学習の参考にしたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の概要</li> <li>2. 国際線運航の原則 <ol style="list-style-type: none"> <li>①領空主権主義と運輸権</li> </ol> </li> <li>3. 国際線運航の原則 <ol style="list-style-type: none"> <li>②シカゴ条約と空の自由</li> </ol> </li> <li>4. 航空の国際的組織 ICAO と IATA</li> <li>5. 米国の航空規制緩和</li> <li>6. 航空規制緩和と LCC（ロー・コスト・キャリア）</li> <li>7. 米国の新規航空企業 <ol style="list-style-type: none"> <li>①サウスウエスト航空の事例</li> </ol> </li> <li>8. 米国の新規航空企業 <ol style="list-style-type: none"> <li>②サウスウエスト航空の事例</li> </ol> </li> <li>9. 航空経営戦略の潮流（ハブ・アンド・スポークとアライアンス）</li> <li>10. 日本の航空政策と規制緩和 <ol style="list-style-type: none"> <li>11. 日本の航空業の現状（JAL・ANA・新規企業）</li> <li>12. 日本の空港の現状と課題①</li> <li>13. 日本の空港の現状と課題②</li> <li>14. 講義のまとめ</li> </ol> </li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト：適宜プリントを配布する。 参考文献：航空産業入門（ANA総合研究所）東洋経済新報社、航空事業論（井上泰日子）日本評論社</p>		試験結果と授業への参加度等を総合的に判断する。	

		担当者	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	

09年度以降	交流文化論（表象文化論）	担当者	高橋 雄一郎
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>[講義目的] 表象(representation)と文化の関係を考察する。</p> <p>[講義概要] テキストには、カルチュラル・スタディーズの主要な論客である Stuart Hall が、イギリスの Open University のために編纂した、<i>Representation: Cultural Representations and Signifying Practices</i> (London: Sage, 1997) から抜粋(pp. 13-74)を用いる。</p> <p>テキストは図書館の指定図書になっているので、各自でコピーするか、講義支援システムからダウンロードすることもできる。(但し、登録期間終了までは、各自のアカウントからは入れないので、高橋雄一郎の教員名から、授業科目を探すこと。)</p> <p>昨年度、英語学科の「英語圏の文学・文化特殊講義 a (高橋)」で単位を修得した学生は、内容が重複するので、履修が認められない。</p>		<p>第1回：セクション1 第2回：同上 第3回：同上 第4回：同上 第5回：同上 第6回：セクション2 第7回：同上 第8回：同上 第9回：セクション3 第10回：同上 第11回：セクション4 第12回：同上 第13回：同上 第14回：同上</p> <p>初回の授業には15分から19分上半分までを予習しておくこと。初回から実質的な授業をおこなうので、充分注意して出席すること。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
上記テキスト以外の参考文献は、授業時に適宜、紹介する。		授業への積極的な参加と、課題による。	

		担当者	
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	

09年度以降	交流文化論（開発文化論）	担当者	北野 収
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>グローバルとローカルなものへの対抗・交渉は現代社会を考える重要な視座の1つです。</p> <p>近年、alternative（もう1つの）という言葉が時々耳にします。グローバル化の進展に対抗するように、ローカルな文化や環境を重視したもう1つの動きが内発的な発展として世界各地で活発化してきています。</p> <p>この講義は、開発文化論として、グローバル化と国民国家に翻弄される伝統社会・文化と社会的弱者達の変容と反応について考えます。講義される事例は、担当教員の最新の調査研究の成果であるメキシコ南部の先住民族に関するものが中心となりますが、地域研究ではなく、アジアその他の地域の事例も適宜交え、より普遍的な視点から、発展途上地域の開発問題について考察します。</p> <p>開発と貧困、ジェンダー、教育、宗教、先住民族の権利、構造的暴力と民衆、NGOや協力する者の立場といった話題を、現場の事例をみながら考えてきます。</p> <p>（参考文献） W.ザックス『脱「開発」の時代』、N.ローツェン他『フェアトレードの冒険』、J.フリードマン『市民・政府・NGO』、P.フレイレ『被抑圧者の教育学』、B.トムゼン『女の町フチタン』、H.ノーバークホッジ『ラダック：懐かしい未来』</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の概要</li> <li>2. 開発と文化変容 (ビデオ『ラダック：懐かしい未来』)</li> <li>3. 社会的構築物としての貧困とポスト開発思想</li> <li>4. ある女性NGOワーカーの遍歴と教訓</li> <li>5. フェアトレードの父の思想と哲学</li> <li>6. 伝統文化と教育・学び</li> <li>7. グローバル化・伝統・ジェンダー</li> <li>8. 宗教と社会開発NGO</li> <li>9. 地域メディアとアイデンティティ戦略</li> <li>10. コミュニティと外部を結ぶ人材</li> <li>11. 開発ワーカーと異文化適応 ※教室内ワークショップ</li> <li>12. 構造調整と農民・先住民の自己防衛</li> <li>13. 巨大開発計画と地域住民・NGO</li> <li>14. 文化変容とグローバル公共空間</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>（テキスト）北野収『南部メキシコの内発的発展とNGO』勁草書房。※各自で購入してください</p> <p>（参考文献）上欄を参照。</p>		<p>期末試験（60%）、平常授業による課題レポートなども評価対象（40%）。</p>	

		担当者	
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	

09 年度以降	交流文化論（ツーリズム人類学）	担当者	須永 和博
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>ツーリズムがホスト社会に与える影響は、経済的側面のみならず、社会的・文化的・政治的側面など、多岐にわたる。それゆえツーリズムに学問的にアプローチする際の方法論も多様である。本講義は、そのなかでも文化人類学という学問を手がかりにしながら、ツーリズムを「文化」という側面から検討するための基礎的概念・考え方について学ぶ。</p> <p>本講義では、1. ツーリズムを作り出す仕掛け、2. ツーリズムがもたらす影響、3. ツーリズムが作り出す文化、という 3 つの側面から講義を行い、ツーリズムを社会・文化現象として分析する際の基本的な視座の習得を目指す。同時に、ツーリズム研究に関連する現代文化人類学における主要な問題意識・諸概念についての理解を深めることを目指す。</p> <p>受講に際しては、文化人類学の基礎知識は必ずしも必要ないが、授業内で紹介する文献資料の読解を各自行なうなど、予習・復習が不可欠となる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 趣旨説明</li> <li>2. グローバリゼーションの民族誌 1</li> <li>3. グローバリゼーションの民族誌 2</li> <li>4. 観光の誕生</li> <li>5. ビデオ上映</li> <li>6. 表象の政治学—情報資本主義と観光</li> <li>7. メディアと観光—「楽園」ハワイの文化史</li> <li>8. 植民地主義と観光—「神々の島」バリの誕生</li> <li>9. 文化装置としてのホテル</li> <li>10. 世界遺産の窮状—カンボジアの事例</li> <li>11. セックス・ツーリズム—タイの事例</li> <li>12. 少数民族と観光—タイの事例</li> <li>13. 文化の著作権と「サンタクロース民族」</li> <li>14. まとめ・予備日</li> </ol> <p>（なお、授業で取り上げる事例は、授業の進み具合や、受講生の関心等によって変更になる場合があります。）</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
特に指定しない。随時、文献リストを配布します。		授業毎のレスポンスペーパー+小レポート(50%)、期末テスト(50%)	

		担当者	
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

09年度以降	交流文化論（サステイナブル・ツーリズム論）	担当者	北野 収
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期の「市民参加のまちづくり論」との継続性を念頭におきつつ、「サステイナブル・ツーリズム論」の講義を行います。ただし、「市民参加のまちづくり論」未受講生も全く問題なく受講することができます。</p> <p>近年、環境や健康に配慮した持続可能（sustainable）なライフスタイルの一部として、グリーンツーリズムなど自然を楽しみ、学び、地域の人々と交流する新しいツーリズムの形態が注目されるようになってきました。この流れは、ドイツ、フランス、イギリスなど西欧に始まり、アメリカ、そして日本へと展開してきました。</p> <p>本講義は、「サステイナブル・ツーリズム論」として、欧米、日本のグリーンツーリズム、アグリツーリズム、エコミュージアムなどの歴史、事例、課題を知ることより、ポスト産業化社会における多様な価値実現の手法としてのツーリズムの意義を学びます。グローバルな視点から、ツーリズムを通して、地球環境や地域づくりの問題を考えていきます。</p> <p>なお、サステイナブル・ツーリズムには、途上国におけるエコツーリズム、エスノツーリズムなども含まれますが、本講義では、主として、先進国におけるサステイナブル・ツーリズムを取り上げます（他の講義との重複をさけるため）。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の概要</li> <li>2. マスツーリズムとサステイナブルツーリズム</li> <li>3. 開発と持続可能性概念</li> <li>4. 開発と持続可能性概念（続き）</li> <li>5. 地球環境問題</li> <li>6. 自然・環境思想（国立公園・ナショナルトラスト・世界遺産）</li> <li>7. エコツーリズム（歴史と概説）</li> <li>8. エコツーリズムと野生動物保護（マレーシアの事例）</li> <li>9. エコミュージアム（歴史と概説）</li> <li>10. LOHAS（ロハス）と観光</li> <li>11. 欧米のグリーンツーリズム</li> <li>12. 日本のグリーンツーリズム（歴史・背景・展開）</li> <li>13. グリーンツーリズムの二面性と矛盾</li> <li>14. アクセシブル観光（ユニバーサル交流）</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストはなし。 参考文献は適宜紹介。</p>		<p>期末試験（70%）、平常授業による課題レポートなども評価対象（30%）。</p>	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

09年度以降	交流文化論（国際会議・イベント事業論）	担当者	遠藤 充信
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 今や、ツーリズムの重要な担い手であり、地域の文化交流や産業経済に刺激を与え、地域の活性化に貢献する国際会議やイベントについて学習する。</p> <p>講義概要 なぜ人は集うのか、その核心部分を探ることから始まり、国際会議やイベントとは何か、歴史的経緯、現状と市場を考える。 又、代表的な事例を取り上げ、その運営、仕組みや旅行業、宿泊業を含む観光関連産業との関連性を学ぶことにより、国際会議やイベントが現代社会における重要な役割を担っていることを理解する。 併せて、イベント・コンベンション推進機関や制度、課題と将来の展望についても学習する。</p> <p>講義では、旅行業界、航空業界等々観光関連トピックスを取り上げ流動的な観光業界の動きにも触れたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義概要</li> <li>2. イベント・コンベンションの発生と発展</li> <li>3. イベント・コンベンションとは①</li> <li>4. イベント・コンベンションとは②</li> <li>5. 世界と日本のイベント・コンベンション動向</li> <li>6. イベント・コンベンションの仕組みと実務①</li> <li>7. イベント・コンベンションの仕組みと実務②</li> <li>8. イベント・コンベンション産業①</li> <li>9. イベント・コンベンション産業②</li> <li>10. イベント・コンベンションの施設と付帯設備</li> <li>11. コンベンション・ビューローの役割と機能</li> <li>12. イベント・コンベンションの推進機関</li> <li>13. イベント・コンベンションの課題と展望</li> <li>14. 講義のまとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：適宜プリントを配布する。 参考文献：イベント&amp;コンベンション概論（JTB能力開発）その他は適宜指示する。</p>		試験結果と授業への参加度等を総合的に判断する。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

09年度以降	交流文化論（ツーリズム政策論）	担当者	遠藤 充信
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>講義目的</b> 観光政策と行政、観光に関する政府の具体的な施策、行政組織や「観光立国推進基本法」を学習することにより「観光立国」を目指す観光政策への理解を深める。</p> <p><b>講義概要</b> 国際観光推進による外貨獲得と国際理解の増進は、わが国のみならず諸外国においても重要な国の政策である。観光現象は経済的、政治的、文化的に強い影響力を社会に及ぼし、近年は自然景観や環境との関係も注視されている。多様で影響力の強い観光現象に対して、国や地方自治体等の行政機関がどう関わるかはそれぞれの観光政策に基づいていることを理解する。 わが国の観光政策を明治時代から現代まで、それぞれの時代の状況に応じてどんな政策が講じられたかを学ぶことにより、なぜ今、観光立国を国策とすることの意味を認識する。併せて、観光行政組織や関連法規についても学習する。</p> <p>講義では、旅行業界、航空業界等々観光関連トピックスを取り上げ流動的な観光業界の動きにも触れたい。</p>		<p><b>講義の概要</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 観光政策とは</li> <li>2. 観光政策の課題①国際観光の推進・外貨獲得・国際理解</li> <li>3. 観光政策の課題②国民の余暇と観光の健全な発展</li> <li>4. 観光政策の課題③地域振興としての観光開発</li> <li>5. 観光政策の変遷①明治時代・大正時代の観光政策</li> <li>6. 観光政策の変遷②昭和時代の観光政策（戦前・戦後）</li> <li>7. 観光政策の変遷③昭和時代の観光政策（海外旅行自由化と促進策）</li> <li>8. 観光政策の変遷④昭和時代の観光政策（貿易外収支改善とテンミリオン計画）</li> <li>9. 観光政策の変遷⑤昭和時代の観光政策（総合保養地整備法と内需拡大）</li> <li>10. 現代の観光政策①観光立国推進とV J C</li> <li>11. 現代の観光政策②観光立国推進基本法</li> <li>12. 観光の行政組織・観光庁と政府観光局</li> <li>13. 観光の関連法規</li> <li>14. 講義のまとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：適宜プリントを配布する。 参考文献：観光学入門（岡本伸之）有斐閣、観光行政と政策（進藤敦丸）明現社、その他適宜指示する。</p>		試験結果と授業への参加度等を総合的に判断する。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

09年度以降	交流文化論（ツーリズム・マネジメント論）	担当者	遠藤 充信
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的          ツーリズム産業におけるマネジメントの基本であるマーケティングの基本概念や、観光市場調査の方法、観光行動の分析、観光需要予測、商品企画等をマーケティングの側面より学習する。</p> <p>講義概要          ツーリズム産業のマーケティングに関して、需要予測、市場分析、環境分析、価格戦略、販売促進戦略等のマーケティング手法を基に、各分野の具体的な事例を検証する。旅行業では旅行ブランドの実態、ブランドの定義、機能、確立条件、旅行商品とブランド等、ブランドに焦点を絞り考察する。又、宿泊業、航空業、観光地のマーケティング戦略について学習し、ツーリズム産業におけるマーケティングの重要性を理解する。</p> <p>講義では、旅行業界、航空業界等々観光関連トピックスを取り上げ流動的な観光業界の動きにも触れたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義概要</li> <li>2. マーケティングの定義</li> <li>3. 需要予測・ニーズとウォンツ</li> <li>4. 購買意思決定プロセス</li> <li>5. 市場分析・セグメンテーション</li> <li>6. マーケティングの環境分析とは（SWOT分析）</li> <li>7. 市場成長率・相対的市場</li> <li>8. 旅行商品の流通チャネル</li> <li>9. マーケティングと価格戦略</li> <li>10. ブランド構築</li> <li>11. 販売促進戦略</li> <li>12. マーケティングリサーチ</li> <li>13. マーケティングの社会的役割</li> <li>14. 講義のまとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：適宜プリントを配布する。          参考文献：観光マーケティング入門（森下昌美）同友館          その他、適宜指示する。</p>		試験結果と授業への参加度等を総合的に判断する。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

09年度以降	交流文化論（ツーリズム・メディア論）	担当者	高橋 利男
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義の目的は、「ツーリズムとメディアの係わり方」をテーマに、メディアを通して、ツーリズム産業を俯瞰（ふかん。高所から見渡すこと。）し、その動向全体を把握する中で、その課題と方向性について検討すること、さらにはその新たな潮流の可能性について考えることです。</p> <p>講義内容としては、旅行業及び航空・宿泊等の関連産業について、新聞・業界紙等のメディアを通して、企業の広報・広告、消費者（旅行者）ニーズ、地域活性化等の様々な視点から、事例研究します。</p> <p>海外旅行、国内旅行、訪日旅行及び新しいツーリズムの各分野にわたり幅広く事例を取り上げ、時にはその表面と裏面についても比較研究することにより、ツーリズム産業を展望するにあたり必要な様々な基礎知識を習得するとともに、課題考察力を養うことを主眼としています。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の概要</li> <li>2. ツーリズム・広報から見たメディア(1)</li> <li>3. ツーリズム・広報から見たメディア(2)</li> <li>4. ツーリズム・広報から見たメディア(3)</li> <li>5. ツーリズム・販売促進から見たメディア(1)</li> <li>6. ツーリズム・販売促進から見たメディア(2)</li> <li>7. ツーリズム・販売促進から見たメディア(3)</li> <li>8. メディアから見たツーリズム(1)</li> <li>9. メディアから見たツーリズム(2)</li> <li>10. メディアから見たツーリズム(3)</li> <li>11. 業法・約款から見たツーリズム(1)</li> <li>12. 業法・約款から見たツーリズム(2)</li> <li>13. 業法・約款から見たツーリズム(3)</li> <li>14. 講義のまとめ (日次の順序は前後します)</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
新聞・業界紙等の記事コピー等		評価方法：期末定期試験（80%）＋平常授業における課題レポート等（20%）＝100点満点	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

09年度以降	交流文化論（食の文化論）	担当者	北野 収
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>食べ物は私達にとって、もっとも身近で不可欠なものです。この授業では「食」という視点から、人間、家族、コミュニティに密接不可分・地域固有な存在であった「食」が、近代～現代という歴史的過程で、ナショナル化さらにはグローバル化されていく過程を考え、そこで見落とされがちな問題を考えていきます。</p> <p>現代の世界は、「飢餓と飽食」が同時に進行するという危機的な状況にあります。私たちの住む日本では、食料の大半を海外から輸入しながら、食べ物の多くを廃棄しています。耕す土地はあるのに耕す人がいないため、耕地が放棄されています。農業は危機的な状況にあります。食べ物は人に幸せをもたらす一方で、それをめぐって国と国が対立し、憎しみあることもあります。こうした現象の背景として、政治、経済、文化など様々な要素が複雑に絡み合っています。</p> <p>このような現状を踏まえ、「文化としての食」を手がかりとして、私たちの身の回りを点検し、地球社会のことを考えていきたいと思えます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の概要</li> <li>2. 文化を捉える視点：伝統・近代・グローバル化</li> <li>3. 食の地誌論（風土と食） ※ビデオ『人間は何を食べてきたか』（予定）</li> <li>4. 伝統の変容と越境（日本食、中華料理、エスニック料理などを例に）</li> <li>5. 遺伝資源は誰のものか（農民から国家、企業へ）</li> <li>6. 現代人の食：「マクドナルド化」概念を手がかりに</li> <li>7. 現代のフードシステム：外食と中食（なかしょく）</li> <li>8. 自給率問題とフードマイレージ</li> <li>9. 食とグローバリズム（ビデオ『キング・コーン』）</li> <li>10. 食とナショナリズム（捕鯨、コメ問題）</li> <li>11. 食育と学校</li> <li>12. フェアトレードの展開と現状</li> <li>13. 有機農業運動、スローフード運動</li> <li>14. 地球社会と「食」：食料廃棄物、食糧援助</li> <li>15. まとめ：食の「再ローカル化」(re-localization)をめざして</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書は特に指定しない。参考文献は適宜紹介。		期末試験（70%）、平常授業による課題レポートなども評価対象（30%）。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

09年度以降	交流文化論（パフォーマンス研究）	担当者	高橋 雄一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義目的] パフォーマンスをより広い視野で捉え、トランスナショナルな立場から分析して、異文化理解に役立てる。</p> <p>[講義概要] 芸能・舞台芸術に限らず、世界のさまざまな地域の宗教儀礼や、国家の式典、オリンピックや万博などのイベント、ツアーリズム、日常生活におけるパフォーマンスなどについて、学際的に学ぶ。</p>		<p>第1回：イントロダクション 第2回：パフォーマンスとは何か 第3回：パフォーマンス研究とは何か 第4回：パフォーマンス研究の学問的構成 第5回：宗教祭祀の比較研究 第6回：世俗儀礼の比較研究 第7回：パフォーマンスと民族誌 第8回：パフォーマンスと遊戯 第9回：国際的パフォーマンス 第10回：アイデンティティとパフォーマンス 第11回：グローバリゼーションとパフォーマンス 第12回：演劇的パフォーマンスの比較研究 第13回：パフォーマンスとパフォーマンスティヴィティ 第14回：パフォーマンスと現代思想 第15回：まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：鈴木健・高橋雄一郎編著『クリティカル・カルチュラル・スタディーズ—パフォーマンス研究のキーワード』大阪、世界思想社、2010（予定）。 Richard Schechner, <i>Performance Studies: An Introduction</i>, New York: Routledge, 2006.</p> <p>参考書：高橋雄一郎『身体化される知』東京、せりか書房、2005.</p>		授業中に数回実施する小テストと、学期末に提出するレポートの合計による。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

09年度以降	交流文化論（トランスナショナル社会学）	担当者	北野 収
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本授業の目的は、グローバル化時代の現代社会を考える手がかりとして、①国民国家・国境の存在を相対化することによって初めて見えてくる人々や文化の越境現象の<u>実際を知る</u>こと、②それを踏まえたより踏み込んだ意味での「<u>共生</u>」<u>概念の可能性を考える</u>こと、③国際的視点のみならず民際的視点も併せ持った複眼的な視点から、文化・社会・政治における諸現象を考えられるようになること、の3点です。</p> <p>21世紀のキーワードである「共生」を基底概念として、人間と価値の越境現象に着目し、グローバル化に伴う社会構造の変動に規定された様々な越境現象の実情と、当事者のアイデンティティ・民族・国家の相関関係について考察します。</p> <p>関連する理論・言説について講義するとともに、外国人花嫁、アイヌと在日の問題、消えた民「サンカ」などの日本国内の事例を中心に取り上げます。それらを踏まえて、「国際」視点から「民際」視点の転換の意義、地域における交流活動や「学び」の実践の可能性について展望します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の概要</li> <li>2. 社会学とはどのような学問か</li> <li>3. 国家と社会との関係、トランスナショナルリズムとは</li> <li>4. 国境・国民概念①：アイヌからみた日本とロシア</li> <li>5. 国境・国民概念②：知られざる漂白民サンカの末路</li> <li>6. グローバル化と越境現象①：移民とトランスナショナルリズム</li> <li>7. グローバル化と越境現象②：移民と地域における受容</li> <li>8. グローバル化と越境現象③：若者の『文化移民』と日本回帰</li> <li>9. 国際結婚①：国際結婚の語源と歴史</li> <li>10. 国際結婚②：日本人の国際結婚と越境する女性達</li> <li>11. アイデンティティ①：在日学生の手記（その1）</li> <li>12. アイデンティティ②：在日学生の手記（その2）</li> <li>13. 民際協力としての自治体国際協力</li> <li>14. 学生研究に有用な調査方法</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストはなし。参考文献は適宜紹介。主なものは以下のとおり。テッサ・モーリス鈴木『辺境から眺める』みすず書房、藤田結子『文化移民』新曜社、嘉本伊都子『国際結婚論!?!』（歴史編・現代編）法律文化社、西川芳昭『地域をつなぐ国際協力』創成社</p>		<p>期末試験（70%）、平常授業による課題レポートなども評価対象（30%）。</p>	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

09年度以降	交流文化論（オルタナティブ・ツーリズム論）	担当者	須永 和博
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>オルタナティブ・ツーリズムと呼ばれる「新しい」観光形態・観光実践の動向や諸議論について検討する。</p> <p>オルタナティブ・ツーリズムとは、ツーリズムの大衆化（マス・ツーリズム、近代観光）がもたらした、ホスト社会の生活文化や自然環境への弊害を克服するために登場したものである。本講義ではまず、オルタナティブ・ツーリズムが生まれてきた歴史的・社会的背景について概説する。そしてエコツーリズムやヘリテージ・ツーリズム、コミュニティ・ベース・ツーリズムなどの「新しい」観光形態・開発実践について、主に文化人類学・社会学などの視点から検討し、その可能性について考える。</p> <p>なお本講義では、出来る限り実際の観光の現場で生じている個別具体的な事例から、観光の問題と可能性について考えてみたい。その際に扱う地域は、主として東南アジア、ラテンアメリカ、オセアニアなどの非西洋地域が中心となる。</p> <p>なお、毎回小レポートを課すので、注意されたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 趣旨説明</li> <li>2. オルタナティブ・ツーリズムの背景</li> <li>3. ビデオ上映(ジャマイカの観光開発)</li> <li>4. 場所性の商品化—アマンリゾーツの戦略</li> <li>5. 環境主義の商品化—エコリゾート</li> <li>6. 世界遺産と観光 1—ラオス・ルアンパバン の事例</li> <li>7. 世界遺産と観光 2—中国・麗江 の事例</li> <li>8. ビデオ上映（バックパッカーの窮状）</li> <li>9. 先住民と観光—北米イヌイットの事例</li> <li>10. 先住民と開発—開発的遭遇</li> <li>11. 先住民と環境主義</li> <li>12. コミュニティ・ベース・ツーリズム 1—タイ北部の事例—</li> <li>13. コミュニティ・ベース・ツーリズム 2—ソロモン諸島の事例—</li> <li>14. まとめ・予備日</li> </ol> <p>（なお、授業で取り上げる事例は、授業の進み具合や、受講生の関心等によって変更になる場合があります。）</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
特に指定しない		授業毎の小レポート(50%)、期末レポート(50%)。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

09年度以降	交流文化論（メディア・ライティング論）	担当者	阿部 純一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「人に読ませる文章」を書くには、どのような訓練・思考・実践が必要なのかを論じる。マスコミ、メディア業界を志望する者のみならず、一般常識として必要とされる企画・起案書、報告書など、社会人として当然知識を備えているべき文書の書き方も講義する。実戦的な記事・文書執筆、その編集・校正・校閲などを、受講者に参加させる形で講義する。</p>		<p>実際の受講者数を見た上で授業のやり方・進め方を決める。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
未定		未定（履修する学生の人数によって決定する）	

2010年度

# 外国語学部共通科目シラバス

(2003年度以降入学者用)

03年度以降	総合講座（グローバル化時代の人間形成①）	担当者	コーディネーター 工藤 和宏
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講座は、人・モノ・カネ・情報等が国境を越えて移動することと、学習を通して人間が形成されることの両者の関係について、個人の成長や人生設計といったミクロな次元から、国家や国際組織にとっての人材の獲得や育成といったマクロな次元までを幅広く考察します。本学の建学理念である「学問を通じての人間形成」を、異なる文化や言語が交錯するグローバルな文脈に置くことにより、受講生の自己内省、特に、大学で学ぶことの意味の再構築に役立てればと考えています。</p> <p>本講座は、オムニバス形式です。各担当講師には自身の研究者・教育者・実務者・生活者としての経験から、独自にグローバル化や人間形成について語っていただきます。「グローバル化」とはそもそも何なのか？いつごろ始まったと言えるのか？「グローバル化時代を生きる」ためには何か特別な知的・身体的営為が必要なのか？「グローバル化」が多くの人に唱えられることによって（キャリア形成や人材育成などを含む）「人間形成」にどのような意味が生まれているのか？または、消えているのか？</p> <p>様々な分野の専門家の話に耳を傾けながら、「今ここにいる自分」を相対化するのに役立ててください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 工藤和宏（コーディネーター）導入</li> <li>2. 木村佐千子（独語学科）ナチス・ドイツと音楽家たち</li> <li>3. 林部圭一（独語学科）歌人ヴァルター・フォン・デア・フォーゲルヴァイデ</li> <li>4. 浅岡千利世（英語学科）グローバル化時代の外国語教育と学習者のアイデンティティ</li> <li>5. 北野収（交流文化学科）フェアトレードの誕生——ヴァンデルホフ神父の半生から</li> <li>6. 杉山晴信（英語学科）法規範としての"Plain English"と消費者保護の思想</li> <li>7. 田中善英（仏語学科）ことばを守るということ</li> <li>8. 佐野康子（英語学科）グローバル社会の中の東アフリカ</li> <li>9. 橋本博子（モナシュ大学人文学部）グローバル化と留学交流</li> <li>10. 阿部仁（一橋大学国際教育センター）「異文化」を理解する</li> <li>11. 堀越喜晴（明治大学政治経済学部）バリアオーバーコミュニケーション——コミュニケーションの本質を考える</li> <li>12. 工藤和宏（英語学科）獨協大学と留学生——学生交流促進の試みから学んだこと</li> <li>13. 原成吉（英語学科）詩と禅とエコロジーから見た環太平洋文化</li> <li>14. 太田浩（一橋大学国際教育センター）グローバル化と高等教育——国境を跨ぐ学生と大学の動向</li> </ol> <p>*担当講師の都合により、変更になる場合があります。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
各担当講師より紹介されます。（コーディネーター推薦図書：アマルティア・セン（2009）『グローバル化と人間の安全保障』日本経団連出版。）		学期末試験の結果に平常点を加味した総合評価。（平常点は主として毎回のコメントカードの質にて評価されます。）	

03年度以降	総合講座（グローバル化時代の人間形成②）	担当者	コーディネーター 工藤 和宏
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講座は、人・モノ・カネ・情報等が国境を越えて移動することと、学習を通して人間が形成されることの両者の関係について、個人の成長や人生設計といったミクロな次元から、国家や国際組織にとっての人材の獲得や育成といったマクロな次元までを幅広く考察します。本学の建学理念である「学問を通じての人間形成」を、異なる文化や言語が交錯するグローバルな文脈に置くことにより、受講生の自己内省、特に、大学で学ぶことの意味の再構築に役立てればと考えています。</p> <p>本講座は、オムニバス形式です。各担当講師には自身の研究者・教育者・実務者・生活者としての経験から、独自にグローバル化や人間形成について語っていただきます。「グローバル化」とはそもそも何なのか？いつごろ始まったと言えるのか？「グローバル化時代を生きる」ためには何か特別な知的・身体的営為が必要なのか？「グローバル化」が多くの人に唱えられることによって（キャリア形成や人材育成などを含む）「人間形成」にどのような意味が生まれているのか？または、消えているのか？</p> <p>様々な分野の専門家の話に耳を傾けながら、「今ここにいる自分」を相対化するのに役立ててください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 工藤和宏（コーディネーター）導入</li> <li>2. 横地卓哉（仏語学科）グローバル化——負の側面</li> <li>3. 古田善文（独語学科）グローバル化の波に翻弄される統一20年後のドイツ</li> <li>4. 若森栄樹（仏語学科）ヨーロッパから見たグローバル化</li> <li>5. 渡部重美（独語学科）ゲーテのイタリア旅行——詩人再生の旅</li> <li>6. 田村毅（仏語学科）海を渡る女神たち——地中海文化圏の拡大と神話の習合</li> <li>7. 鍋倉健悦（英語学科）自己成長と幸福</li> <li>8. 日野克美（交流文化学科）ジョークを通しての人間観と国際関係</li> <li>9. 山本淳（独語学科）ブルーノ・タウトと日本</li> <li>10. 菅野直樹（防衛省防衛研究所）歴史研究所の所産と意義</li> <li>11. 工藤和宏（英語学科）グローバル JAPAN、「日本人論」と日本の若者</li> <li>12. A. Zollinger（英語学科）Teriyaki Beef and Rainbow Rolls: The Globalization of Japanese Cuisine</li> <li>13. 柿沼義孝（独語学科）外国語学習と日本の伝統文化</li> <li>14. 工藤和宏〈総括〉〇〇時代の人間形成——50年後の「私（たち）」</li> </ol> <p>*担当講師の都合により、変更になる場合があります。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
各担当講師より紹介されます。（コーディネーター推薦図書：アマルティア・セン（2009）『グローバル化と人間の安全保障』日本経団連出版。）		学期末試験の結果に平常点を加味した総合評価。（平常点は主として毎回のコメントカードの質にて評価されます。）	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降	総合講座（EUの歴史と現状2）	担当者	廣田 愛理
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義では、戦前から今日までの欧州統合の歩みを辿ることにより、今日の国際社会において大きな影響力を持つEU（European Union）が生まれた背景や目的、その制度や政策について考察することを目的とします。</p> <p>地域統合の歴史的前例としてのEUについて学ぶことは、ヨーロッパに関する知識の獲得にとどまらず、東アジア経済統合という課題をめぐる今日の日本とアジアの関係について考えるためのヒントにもなるでしょう。</p>		<p>講義の主な内容は以下のとおりです：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の概要</li> <li>2. 第2次大戦以前のヨーロッパ構想</li> <li>3~4. 戦後復興～1980年代</li> <li>5~6. マーストリヒト条約以降のEU</li> <li>7~8. EUの制度</li> <li>9~11. EUの諸政策</li> <li>12. 英・独・仏とEU</li> <li>13. EU域外との関係</li> <li>14. まとめ：EUの現在の課題</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：なし</p> <p>参考文献：授業の際に指示します。</p>		<p>授業における小テスト（3回程度実施、30%）と期末レポートまたは試験（70%）</p>	

03年度以降	情報科学概論 a	担当者	呉 浩東
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>高度化情報社会に生きる個人として、情報とそのシステムに関する基本的な素養を修得することは、必要不可欠になっています。とくに、コンピュータを使用する多言語情報処理の重要性がますます増大しています。</p> <p>本講義では、(1) コンピュータと情報処理に関する基礎知識 (2) コンピュータのハードウェアとソフトウェアの仕組み (3) コンピュータによる多言語処理の技術と応用法などについて知識の形成と応用力の育成を目標とします。</p> <p>本講義はまず、人間とコンピュータとの関わり、情報とコンピュータシステムの関係、コンピュータのハードウェアとソフトウェアについて学びます。そのうえで、コンピュータとインターネット技術を利用した多言語情報処理の仕組みについて学びます。さらに、実習を通じて、多言語情報の活用法などの理解を深めます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 講義の概要と目標、情報科学とは</li> <li>2 データ表現、基数変換、論理演算</li> <li>3 コンピュータの構成要素</li> <li>4 ソフトウェアの役割、体系と種類</li> <li>5 オペレーティングシステム (OS) OSの基礎概念、OSの役割と原理</li> <li>6 プログラム言語 コンピュータ言語の分類と目的</li> <li>7 データ構造—リスト、スタック、キュー、2分木</li> <li>8 アルゴリズム—アルゴリズムの表現法、アルゴリズムの例</li> <li>9 コンピュータによる言語情報処理技術 (1)</li> <li>10 コンピュータによる言語情報処理技術 (2)</li> <li>11 機械翻訳システムの演習</li> <li>12 自然言語質問応答システム</li> <li>13 インターネット上の多言語処理技術</li> <li>14 授業のまとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
授業中指示するテキスト・参考文献を使用してください。		レポート、出席状況と筆記試験の結果を併せて評価します。	

		担当者	
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	

03年度以降	[入門] 情報科学各論 (情報処理演習) [総合]	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的:</b> この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。</p> <p>コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、この科目を履修した後は、[応用]科目を履修できる。</p> <p><b>履修条件:</b> 2008年度以前に「情報科学各論」のいずれかを履修した人、2009年度以降に「情報科学各論 (情報処理演習)」の各科目、および [応用] の各科目を履修したことのある人は履修できない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・PCの基本操作</li> <li>2. OSとOfficeの基礎</li> <li>3. Word (1)</li> <li>4. Word (2)</li> <li>5. Word (3)</li> <li>6. インターネットの活用法(1)</li> <li>7. インターネットの活用法(2)</li> <li>8. Excel (1)</li> <li>9. Excel (2)</li> <li>10. Excel (3)</li> <li>11. PowerPoint (1)</li> <li>12. PowerPoint (2)</li> <li>13. PowerPoint (3)</li> <li>14. まとめ</li> </ol> <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

03年度以降	[入門] 情報科学各論 (情報処理演習) [総合]	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的:</b> この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。</p> <p>コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、この科目を履修した後は、[応用]科目を履修できる。</p> <p><b>履修条件:</b> 2008年度以前に「情報科学各論」のいずれかを履修した人、2009年度以降に「情報科学各論 (情報処理演習)」の各科目、および [応用] の各科目を履修したことのある人は履修できない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・PCの基本操作</li> <li>2. OSとOfficeの基礎</li> <li>3. Word (1)</li> <li>4. Word (2)</li> <li>5. Word (3)</li> <li>6. インターネットの活用法(1)</li> <li>7. インターネットの活用法(2)</li> <li>8. Excel (1)</li> <li>9. Excel (2)</li> <li>10. Excel (3)</li> <li>11. PowerPoint (1)</li> <li>12. PowerPoint (2)</li> <li>13. PowerPoint (3)</li> <li>14. まとめ</li> </ol> <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

03年度以降	[入門] 情報科学各論 (情報処理演習) [英語]	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的:</b> この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習(総合)と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語も扱う。コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、この科目を履修した後は、[応用]科目を履修できる。</p> <p><b>履修条件:</b> 2008年度以前に「情報科学各論」のいずれかを履修した人、2009年度以降に「情報科学各論(情報処理演習)」のいずれか、または[応用]の各科目を履修したことのある人は履修できない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・PCの基本操作</li> <li>2. OSとOfficeの基礎</li> <li>3. Word(1)</li> <li>4. Word(2)</li> <li>5. Word(3)</li> <li>6. インターネットの活用法(1)</li> <li>7. インターネットの活用法(2)</li> <li>8. Excel(1)</li> <li>9. Excel(2)</li> <li>10. Excel(3)</li> <li>11. PowerPoint(1)</li> <li>12. PowerPoint(2)</li> <li>13. PowerPoint(3)</li> <li>14. まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

03年度以降	[入門] 情報科学各論 (情報処理演習) [英語]	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的:</b> この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習(総合)と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語も扱う。コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、この科目を履修した後は、[応用]科目を履修できる。</p> <p><b>履修条件:</b> 2008年度以前に「情報科学各論」のいずれかを履修した人、2009年度以降に「情報科学各論(情報処理演習)」のいずれか、または[応用]の各科目を履修したことのある人は履修できない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・PCの基本操作</li> <li>2. OSとOfficeの基礎</li> <li>3. Word(1)</li> <li>4. Word(2)</li> <li>5. Word(3)</li> <li>6. インターネットの活用法(1)</li> <li>7. インターネットの活用法(2)</li> <li>8. Excel(1)</li> <li>9. Excel(2)</li> <li>10. Excel(3)</li> <li>11. PowerPoint(1)</li> <li>12. PowerPoint(2)</li> <li>13. PowerPoint(3)</li> <li>14. まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

03年度以降	[入門] 情報科学各論(情報処理演習) [ヨーロッパ言語]	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的:</b> この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習(総合)と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなくドイツ語、フランス語、スペイン語などのヨーロッパ言語も扱う。コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、この科目を履修した後は、[応用]科目を履修できる。</p> <p><b>履修条件:</b> 2008年度以前に「情報科学各論」のいずれかを履修した人、2009年度以降に「情報科学各論(情報処理演習)」のいずれか、または[応用]の各科目を履修したことのある人は履修できない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・PCの基本操作</li> <li>2. OSとOfficeの基礎</li> <li>3. Word(1)</li> <li>4. Word(2)</li> <li>5. Word(3)</li> <li>6. インターネットの活用法(1)</li> <li>7. インターネットの活用法(2)</li> <li>8. Excel(1)</li> <li>9. Excel(2)</li> <li>10. Excel(3)</li> <li>11. PowerPoint(1)</li> <li>12. PowerPoint(2)</li> <li>13. PowerPoint(3)</li> <li>14. まとめ</li> </ol> <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

03年度以降	[入門] 情報科学各論(情報処理演習) [ヨーロッパ言語]	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的:</b> この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習(総合)と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなくドイツ語、フランス語、スペイン語などのヨーロッパ言語も扱う。コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、この科目を履修した後は、[応用]科目を履修できる。</p> <p><b>履修条件:</b> 2008年度以前に「情報科学各論」のいずれかを履修した人、2009年度以降に「情報科学各論(情報処理演習)」のいずれか、または[応用]の各科目を履修したことのある人は履修できない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・PCの基本操作</li> <li>2. OSとOfficeの基礎</li> <li>3. Word(1)</li> <li>4. Word(2)</li> <li>5. Word(3)</li> <li>6. インターネットの活用法(1)</li> <li>7. インターネットの活用法(2)</li> <li>8. Excel(1)</li> <li>9. Excel(2)</li> <li>10. Excel(3)</li> <li>11. PowerPoint(1)</li> <li>12. PowerPoint(2)</li> <li>13. PowerPoint(3)</li> <li>14. まとめ</li> </ol> <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

03年度以降	[応用]情報科学各論 (Excel・プレゼンテーション中級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>講義目的・概要：</b>この授業は、[入門]情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p> <p><b>履修条件：</b>2008年度以前に「情報科学各論（初級 表計算入門）（初級 プレゼンテーション）（中級 プレゼンテーション）（中級 万能ツールとしての Excel）（中級 表計算応用 1）」のいずれかを履修した人、2009年度以降に「情報科学各論（プレゼンテーション中級）」を履修したことがある人は履修できない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・基本操作の確認</li> <li>2. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(1)</li> <li>3. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(2)、フィルタによる抽出</li> <li>4. グラフ作成、装飾の確認</li> <li>5. 関数の利用(1)</li> <li>6. 関数の利用(2)</li> <li>7. 関数の利用(3)</li> <li>8. マクロの利用(2)</li> <li>9. マクロの利用(3)</li> <li>10. プレゼンテーション実習(1)-1</li> <li>11. プレゼンテーション実習(1)-2</li> <li>12. プレゼンテーション実習(2)-1</li> <li>13. プレゼンテーション実習(2)-2</li> <li>14. まとめ</li> </ol> <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

03年度以降	[応用]情報科学各論 (Excel・プレゼンテーション中級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>講義目的・概要：</b>この授業は、[入門]情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p> <p><b>履修条件：</b>2008年度以前に「情報科学各論（初級 表計算入門）（初級 プレゼンテーション）（中級 プレゼンテーション）（中級 万能ツールとしての Excel）（中級 表計算応用 1）」のいずれかを履修した人、2009年度以降に「情報科学各論（プレゼンテーション中級）」を履修したことがある人は履修できない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・基本操作の確認</li> <li>2. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(1)</li> <li>3. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(2)、フィルタによる抽出</li> <li>4. グラフ作成、装飾の確認</li> <li>5. 関数の利用(1)</li> <li>6. 関数の利用(2)</li> <li>7. 関数の利用(3)</li> <li>8. マクロの利用(2)</li> <li>9. マクロの利用(3)</li> <li>10. プレゼンテーション実習(1)-1</li> <li>11. プレゼンテーション実習(1)-2</li> <li>12. プレゼンテーション実習(2)-1</li> <li>13. プレゼンテーション実習(2)-2</li> <li>14. まとめ</li> </ol> <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

03年度以降	[応用] 情報科学各論 (プレゼンテーション中級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>講義目的・概要:</b> この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。</p> <p>実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p> <p><b>履修条件:</b> 2008年度以前に「情報科学各論 (初級 表計算入門) (初級 プレゼンテーション入門) (中級 プレゼンテーション)」のいずれかを履修した人、2009年度以降に「情報科学各論 (Excel・プレゼンテーション中級)」を履修したことがある人は履修できない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・基本操作の確認</li> <li>2. 書式設定、スライドの設定</li> <li>3. スライドショーと特殊効果(1)</li> <li>4. スライドショーと特殊効果(2)</li> <li>5. 図形の作成、SmartArt グラフィック(1)</li> <li>6. 図形の作成、SmartArt グラフィック(2)</li> <li>7. オブジェクトの挿入(1)</li> <li>8. オブジェクトの挿入(2)</li> <li>9. プレゼンテーション実習(1)-1</li> <li>10. プレゼンテーション実習(1)-2</li> <li>11. 配付資料の作成</li> <li>12. プレゼンテーション実習(2)-1</li> <li>13. プレゼンテーション実習(2)-2</li> <li>14. まとめ</li> </ol> <p>クラスによって多少進度が異なることがある。また、受講者数によっては実習の回数が増えることがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

03年度以降	[応用] 情報科学各論 (プレゼンテーション中級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>講義目的・概要:</b> この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。</p> <p>実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p> <p><b>履修条件:</b> 2008年度以前に「情報科学各論 (初級 表計算入門) (初級 プレゼンテーション入門) (中級 プレゼンテーション)」のいずれかを履修した人、2009年度以降に「情報科学各論 (Excel・プレゼンテーション中級)」を履修したことがある人は履修できない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・基本操作の確認</li> <li>2. 書式設定、スライドの設定</li> <li>3. スライドショーと特殊効果(1)</li> <li>4. スライドショーと特殊効果(2)</li> <li>5. 図形の作成、SmartArt グラフィック(1)</li> <li>6. 図形の作成、SmartArt グラフィック(2)</li> <li>7. オブジェクトの挿入(1)</li> <li>8. オブジェクトの挿入(2)</li> <li>9. プレゼンテーション実習(1)-1</li> <li>10. プレゼンテーション実習(1)-2</li> <li>11. 配付資料の作成</li> <li>12. プレゼンテーション実習(2)-1</li> <li>13. プレゼンテーション実習(2)-2</li> <li>14. まとめ</li> </ol> <p>クラスによって多少進度が異なることがある。また、受講者数によっては実習の回数が増えることがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

03年度以降	[応用] 情報科学各論 (Word 中級)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的・概要：</b>この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、Word の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p> <p><b>履修条件：</b>2008 年度に「情報科学各論 (中級 Word を使いこなす)」を履修した人は履修できない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・基本操作の確認</li> <li>2. 段落、段組、その他書式設定(1)</li> <li>3. 段落、段組、その他書式設定(2)</li> <li>4. アウトラインに沿った編集(1)</li> <li>5. アウトラインに沿った編集(2)</li> <li>6. 脚注・コメントの作成</li> <li>7. ワードアートの利用</li> <li>8. 図形の利用(1)</li> <li>9. 図形の利用(2)</li> <li>10. 図形の利用(3)・組織図の作成</li> <li>11. 目次作成・索引作成</li> <li>12. Excel との連携(1)</li> <li>13. Excel との連携(2)</li> <li>14. まとめ</li> </ol> <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

03年度以降	[応用] 情報科学各論 (Word 中級)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的・概要：</b>この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、Word の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p> <p><b>履修条件：</b>2008 年度に「情報科学各論 (中級 Word を使いこなす)」を履修した人は履修できない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・基本操作の確認</li> <li>2. 段落、段組、その他書式設定(1)</li> <li>3. 段落、段組、その他書式設定(2)</li> <li>4. アウトラインに沿った編集(1)</li> <li>5. アウトラインに沿った編集(2)</li> <li>6. 脚注・コメントの作成</li> <li>7. ワードアートの利用</li> <li>8. 図形の利用(1)</li> <li>9. 図形の利用(2)</li> <li>10. 図形の利用(3)・組織図の作成</li> <li>11. 目次作成・索引作成</li> <li>12. Excel との連携(1)</li> <li>13. Excel との連携(2)</li> <li>14. まとめ</li> </ol> <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

03年度以降	[応用] 情報科学各論 (Office 中級)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的・概要：</b>この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、Word、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。中学校・高校などの教員が利用する可能性の高い機能を中心にとりあげるため、主に教員志望の学生向けであるが、それ以外の学生が受講してもかまわない。</p> <p>実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p> <p><b>履修条件：</b>履修条件はないが、他の科目と内容が重複する場合がある。Word、Excel、PowerPoint の各ソフトの詳細な用法を習得したい場合には、各ソフトごとに用意されている授業の履修を勧める。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・基本操作の確認</li> <li>2. Word (1) 段落、段組、その他書式設定</li> <li>3. Word (2) アウトラインに沿った編集、脚注・コメントの作成</li> <li>4. Word (3) ワードアートの利用</li> <li>5. Word (4) 図形の利用(1)</li> <li>6. Word (5) 図形の利用(2)</li> <li>7. Excel (1) 表の編集、計算式、セル参照方法の確認</li> <li>8. Excel (2) 関数・グラフの利用(1)：成績処理を例に</li> <li>9. Excel (3) 関数・グラフの利用(2)：成績処理を例に</li> <li>10. PowerPoint (1) 基本操作の確認</li> <li>11. PowerPoint (2) 様々なメディアの利用</li> <li>12. PowerPoint (3) プレゼンテーション実習(1)</li> <li>13. PowerPoint (4) プレゼンテーション実習(2)</li> <li>14. まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
適宜指示する。		授業時に説明する。	

03年度以降	[応用] 情報科学各論 (Office 中級)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的・概要：</b>この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、Word、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。中学校・高校などの教員が利用する可能性の高い機能を中心にとりあげるため、主に教員志望の学生向けであるが、それ以外の学生が受講してもかまわない。</p> <p>実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p> <p><b>履修条件：</b>履修条件はないが、他の科目と内容が重複する場合がある。Word、Excel、PowerPoint の各ソフトの詳細な用法を習得したい場合には、各ソフトごとに用意されている授業の履修を勧める。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・基本操作の確認</li> <li>2. Word (1) 段落、段組、その他書式設定</li> <li>3. Word (2) アウトラインに沿った編集、脚注・コメントの作成</li> <li>4. Word (3) ワードアートの利用</li> <li>5. Word (4) 図形の利用(1)</li> <li>6. Word (5) 図形の利用(2)</li> <li>7. Excel (1) 表の編集、計算式、セル参照方法の確認</li> <li>8. Excel (2) 関数・グラフの利用(1)：成績処理を例に</li> <li>9. Excel (3) 関数・グラフの利用(2)：成績処理を例に</li> <li>10. PowerPoint (1) 基本操作の確認</li> <li>11. PowerPoint (2) 様々なメディアの利用</li> <li>12. PowerPoint (3) プレゼンテーション実習(1)</li> <li>13. PowerPoint (4) プレゼンテーション実習(2)</li> <li>14. まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
適宜指示する。		授業時に説明する。	

03年度以降	情報科学各論（言語情報処理1）	担当者	羽山 恵
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>[目的]</p> <p>この授業では、言語が機械（コンピューター）可読の資料になったとき、それらをどのような方法で分析し、その結果をどのようなことに生かせるのかについて知り、考えることを目的とする。</p> <p>[概要]</p> <p>コンピューター・データベース化された大量の自然言語資料を「コーパス」といい、近年では数多くの辞書や文法書、外国語学習書にその分析結果が活かされている。コンピューターを利用することにより、人間の目あるいは直感では知りえないことがある。たとえば「この世の中で最も多く使われている英単語トップ10は何か」とか、「日本の高校で使われている単語は、英字新聞の何%をカバーしているのか」といったことである。</p> <p>本授業は、さまざまなジャンル、モード、発話者から集められたコーパスを、専用のソフトウェアを用いて分析する演習を中心に進められる。</p> <p>※ 基本的なパソコン操作ができることが望ましい</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. コーパスとは何か、身近な活用例</li> <li>3. コンピューターの基本操作: テキストエディタ</li> <li>4. コンピューターの基本操作: MS Excel</li> <li>5. 高度な Web 検索方法</li> <li>6. British National Corpus (BNC) の紹介</li> <li>7. BNC を利用した語彙リストの作成</li> <li>8. BNC を利用した語彙リストの比較</li> <li>9. BNC を利用した語句検索</li> <li>10. BNC を利用した共起検索</li> <li>11. 品詞の特徴と分析</li> <li>12. DIY コーパス (映画, 小説, 教科書, etc.) (1)</li> <li>13. DIY コーパス (映画, 小説, 教科書, etc.) (2)</li> <li>14. <u>最終レポート</u>の準備</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
PowerPoint の資料を「講義支援システム」を利用して提示する。		出席+授業活動への参加度+レポートにより評価する。欠席の場合は次回授業で特別課題の提出・発表を求める。	

03年度以降	情報科学各論（言語情報処理2）	担当者	羽山 恵
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>[目的]</p> <p>春学期に引き続きコーパス分析を行うが、今学期は日本人英語学習者による話し言葉・書き言葉を集めた、「学習者コーパス」を分析の対象とする。私たち自身を含む英語学習者のアウトプットデータを分析することにより、どのような語彙・文法使用および誤り（エラー）がわれわれ日本人英語学習者の特徴なのかを知り、今後の学習や教育に活かすことを目的とする。</p> <p>[概要]</p> <p>主に日本人 1200 人分の英語によるインタビューデータを収集し、コーパス化した NICT JLE Corpus を扱う（日本人中高生 1 万人の英作文を集めた JEFLL Corpus にも触れる）。このコーパスは異なる英語力を持つ学習者グループのデータを含んでいるため、「英語力が低い人と高い人は具体的に何が違うのか？」という疑問に対する答えを求めることができる。分析は、語彙、文法、談話、誤り等の観点から行う。</p> <p>※ 基本的なパソコン操作ができることが望ましい</p> <p>※ 「情報科学各論（言語情報処理1）」を受講していることが望ましい</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 学習者コーパスとは何か、身近な活用例</li> <li>3. NICT JLE Corpus の概要</li> <li>4. 流暢さの分析 (1)</li> <li>5. 流暢さの分析 (2)</li> <li>6. 使用語彙の分析 (1)</li> <li>7. 使用語彙の分析 (2)</li> <li>8. 使用文法事項の分析 (1)</li> <li>9. 使用文法事項の分析 (2)</li> <li>10. 誤り分析 (1)</li> <li>11. 誤り分析 (2)</li> <li>12. 誤り分析 (3)</li> <li>13. <u>最終レポート</u>の準備 (1)</li> <li>14. <u>最終レポート</u>の準備 (2)</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
PowerPoint の資料を「講義支援システム」を利用して提示する。		出席+授業活動への参加度+レポートにより評価する。欠席の場合は次回授業で特別課題の提出・発表を求める。	

03 年度以降	情報科学各論（言語情報処理 1）	担当者	吉成 雄一郎
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>（講義目的・講義概要は春・秋学期共通です）</b></p> <p>本講義では、最終的にはコンピュータというメガネを通して、「英語」という言葉の特徴を見てみようというのがねらいです。たとえば、皆さんはある形容詞がどのような名詞と相性を知りたい時、どうしますか。辞書で調べても知りたい形容詞と名詞の組み合わせが出ているとは限りません。身近にネイティブスピーカーがいればその人にたずねるのも一案ですが、必ずしも近くにいるとは限りませんし、聞く相手によって答えが揺れることもあります。</p> <p>そんな時に、一つのヒントを与えてくれるものが、「コーパス」です。コーパスというのは、コンピュータで自在に検索できる言葉のデータベースです。コーパスを検索することで、普通の辞書では得られない例文を見つけたり、また先ほどのコロケーションの問題もスコアで示したりできます。これは英語を勉強・研究する人に大変便利なものです。</p> <p>本講義では、まず春学期に情報処理の基本的な考え方、発想を Microsoft Excel を使って学びます。秋学期に Excel を使って言語処理を行うための準備です。コーパスの分析（下に続く↓）</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 講義のガイダンス：言語情報処理とは何か</li> <li>2 言語情報処理とコーパス・表計算一巡り</li> <li>3 計算(計算式、計算式のコピー、セルの相対参照、絶対参照等)</li> <li>4 Excel 関数(算術・統計関数を中心に)</li> <li>5 Excel 関数(文字列操作関数を中心に)</li> <li>6 Excel 関数(論理関数を中心に)</li> <li>7 Excel 関数のネスト (1)</li> <li>8 Excel 関数のネスト (2)</li> <li>9 Excel 関数のネスト (3)</li> <li>10 データベース処理(並べ替えと集計・レコードの抽出および条件検索)</li> <li>11 データベース処理(クロス集計とピボットテーブル)</li> <li>12 データベース上のデータの蓄積方法</li> <li>13 自家製コーパスの構想を練る：データ収集の方法など</li> <li>14 まとめと演習</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト、参考文献は授業中に随時紹介する。また本講義用ホームページ (<a href="http://www.yuchan.com/~gengojoho/">http://www.yuchan.com/~gengojoho/</a>) を参照すること。</p>		<p>学期末試験および2回程度の小レポートおよび出席を加味して行う。</p>	

03 年度以降	情報科学各論（言語情報処理 2）	担当者	吉成 雄一郎
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>には専用のソフトウェアがいくつか開発されていますが、それらのツールは特定の処理には適しているものの、汎用性が少なくまた自由な発想からの分析には向いていません。この講義ではそのようなツールを使うのではなく、あえて汎用性のある表計算ソフトウェアを使います。</p> <p>秋学期は、春学期に学んだ Excel の知識を活用して、学生一人一人が自分だけの「自家製コーパス」を作ります。同時にコーパス言語学の基礎的な知識を学びます。素材の集め方から、コーパスの構築の仕方、および Excel で KWIC Concordance を実現する手法、および統計的な処理方法をじっくりと学ぶことにします。さらに、本格的なコーパス、約1億語の British National Corpus にアクセスします。秋学期後半は、コーパス以外の言語分析についても触れたいと思います。文体をコンピュータで分析する試みや語彙の使われ方をコンピュータで見るとどのようなことが分かるのかなどを実際に文献をコンピュータを使って分析してみましょう。</p> <p>本講義で修得したコンピュータを使った見方と、構築した自分専用のコーパスは、講義終了後も生の言語レファレンスとして活用できることでしょ。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 講義のガイダンス：コーパスとその応用</li> <li>2 Access 上にデータを格納</li> <li>3 Access のデータを引き出して Excel で分析</li> <li>4 コンコーダンスの利用(1)：コロケーションを調べる(MI-Score)。</li> <li>5 コンコーダンスラインの利用(2)：コロケーションを調べる(t-score)。</li> <li>6 コンコーダンスラインの利用(3)：演習</li> <li>7 品詞情報のタグ付け：各単語に品詞のタグをつけて、より精密な分析を試みる。また、自動タグ付けも試みる。</li> <li>8 タグ付けされたテキストの分析：品詞情報のタグ付けがされたテキストを分析する。</li> <li>9 品詞の使われ方と英文の特徴</li> <li>10 最先端のコーパスの現状：体験アクセス</li> <li>11 「文体」をどうとらえるか。一文の長さー</li> <li>12 文の長さが意味するものー標準偏差・変動係数</li> <li>13 語彙密度・K 特性値</li> <li>14 まとめと演習</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト、参考文献は授業中に随時紹介する。また本講義用ホームページ (<a href="http://www.yuchan.com/~gengojoho/">http://www.yuchan.com/~gengojoho/</a>) を参照すること。</p>		<p>学期末レポートおよび2回程度の小レポートおよび出席を加味して行う。</p>	

03年度以降	[HTML] 情報科学各論 (HTML 初級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>講義目的・概要：</b>この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、主にホームページ作成の基礎を習得することを目的とする半期完結授業である。</p> <p>まず、コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成、ファイルの種類やフォルダの構造といったコンピュータに関する基礎知識を復習する。その上で、インターネットサービスの1つであるWWW (World Wide Web) における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」(Hyper-Text Markup Language) を学ぶ。また、簡単な自分自身のホームページの試作もする。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p> <p><b>履修条件：</b>2008年度以前に「情報科学各論 (HTML 入門) (HTML 応用 1) (HTML 正しく伝えるために) (HTML 美しく見せるために)」のいずれかを履修した人、2009年度以降に「情報科学各論 (HTML 中級)」を履修したことのある人は履修できない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習</li> <li>2. WWW とホームページの基礎知識</li> <li>3. 情報の単位と情報通信</li> <li>4. ハイパーテキストと HTML</li> <li>5. インターネットと情報倫理</li> <li>6. ページの構造と HTML</li> <li>7. ホームページの作成 テキスト</li> <li>8. ホームページの作成 イメージ</li> <li>9. ホームページの作成 リンク</li> <li>10. ホームページの作成 テーブル</li> <li>11. ホームページの作成 その他</li> <li>12. ホームページの作成 完成</li> <li>13. ファイルの転送とページの更新</li> <li>14. 総合復習</li> </ol> <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

03年度以降	[HTML] 情報科学各論 (HTML 初級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>講義目的・概要：</b>この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、主にホームページ作成の基礎を習得することを目的とする半期完結授業である。</p> <p>まず、コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成、ファイルの種類やフォルダの構造といったコンピュータに関する基礎知識を復習する。その上で、インターネットサービスの1つであるWWW (World Wide Web) における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」(Hyper-Text Markup Language) を学ぶ。また、簡単な自分自身のホームページの試作もする。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p> <p><b>履修条件：</b>2008年度以前に「情報科学各論 (HTML 入門) (HTML 応用 1) (HTML 正しく伝えるために) (HTML 美しく見せるために)」のいずれかを履修した人、2009年度以降に「情報科学各論 (HTML 中級)」を履修したことのある人は履修できない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習</li> <li>2. WWW とホームページの基礎知識</li> <li>3. 情報の単位と情報通信</li> <li>4. ハイパーテキストと HTML</li> <li>5. インターネットと情報倫理</li> <li>6. ページの構造と HTML</li> <li>7. ホームページの作成 テキスト</li> <li>8. ホームページの作成 イメージ</li> <li>9. ホームページの作成 リンク</li> <li>10. ホームページの作成 テーブル</li> <li>11. ホームページの作成 その他</li> <li>12. ホームページの作成 完成</li> <li>13. ファイルの転送とページの更新</li> <li>14. 総合復習</li> </ol> <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降	情報科学各論(HTML 中級)	担当者	金子 憲一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は、コンピュータ初級の授業「HTML 入門」の次に位置する中級科目である。コンピュータの基礎知識やネットワーク構成、及び「<u>HTML を用いたホームページ作成技術を習得した人 (FTP の理解を含む) を対象</u>」に、一方向の情報発信ではなく、インタラクティブなページ作成を通じて、コンピュータの深い理解とコミュニケーション技術を得ることを目標とする。</p> <p>この授業ではまず、ファイルの種類、フォルダ構造などのコンピュータの基礎知識やネットワーク構成、及び HTML、FTP などの復習を行う。次に JavaScript や CGI プログラムを利用して、メッセージの表示や画像の変化、カウンタ、掲示板の設置等を行う。作成の成果は、受講生相互で批評・検討する。</p> <p>受講上の注意： 評価方法等を詳しく説明しますので、<u>ガイダンスには必ず出席すること</u>。 平常点評価の実習授業ですので、全回出席する、という前提で授業は構成、進行します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンスとイントロダクション</li> <li>2 HTML と FTP の復習 (1)</li> <li>3 HTML と FTP の復習 (2)</li> <li>4 インタラクティブなページ (HTML と CGI)</li> <li>5 プログラミングの基礎知識</li> <li>6 JavaScript (1)</li> <li>7 JavaScript (2)</li> <li>8 JavaScript (3)</li> <li>9 JavaScript (4)</li> <li>10 JavaScript (5)</li> <li>11 CGI の利用</li> <li>12 総合課題 (1)</li> <li>13 総合課題 (2)</li> <li>14 鑑賞・報告会</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>授業用 Web にて資料等を配布。 参考文献等は随時紹介します。</p>		<p>授業中に作成する課題と平常点(課題の途中経過を含む)で総合評価する。出席及び締切厳守は特に重視する。 最低限のルールやマナー(禁飲食等)を守れない場合は、失格を含め厳しく対応します。</p>	

03年度以降	経済原論 a	担当者	井上 智弘
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義概要：</b>          経済学を初めて学ぶ学生を対象として、経済学の基礎的な理論について講義する。春学期は、家計に代表される消費者と企業に代表される生産者の行動に焦点を当てるミクロ経済学の基礎理論について説明する。また、受講生の理解を測るために、講義中に問題演習や小テストを行う。講義は右の授業計画に沿って行う予定であるが、小テストの結果等を踏まえて、計画を一部変更する可能性はある。</p> <p><b>講義目的：</b>          ミクロ経済分析を行う上で、必要不可欠な基礎理論の習得を目指す。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 経済学とは何か</li> <li>2. 需要と供給 ①</li> <li>3. 需要と供給 ②</li> <li>4. 消費者行動 ①</li> <li>5. 消費者行動 ②</li> <li>6. 消費者行動 ③</li> <li>7. 生産者行動 ①</li> <li>8. 生産者行動 ②</li> <li>9. 生産者行動 ③</li> <li>10. 余剰分析</li> <li>11. 価格規制、数量規制、課税の影響</li> <li>12. 不完全競争 ①</li> <li>13. 不完全競争 ②</li> <li>14. まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
テキストは指定しない。必要に応じて資料を配布する。		定期試験と講義内で行う小テストの成績で評価する。	

03年度以降	経済原論 b	担当者	井上 智弘
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義概要：</b>          経済学を初めて学ぶ学生を対象として、経済学の基礎的な理論について講義する。秋学期は、一国全体の経済に焦点を当てるマクロ経済学の基礎理論について説明する。また、受講生の理解を測るために、講義中に問題演習や小テストを行う。講義は右の授業計画に沿って行う予定であるが、小テストの結果等を踏まえて、計画を一部変更する可能性はある。</p> <p><b>講義目的：</b>          マクロ経済分析を行う上で、必要不可欠な基礎理論の習得を目指す。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. マクロ経済学の全体像</li> <li>2. 国民経済計算と GDP (国内総生産)</li> <li>3. 国民所得の決定メカニズム ①</li> <li>4. 国民所得の決定メカニズム ②</li> <li>5. 財政政策</li> <li>6. 貨幣の機能 ①</li> <li>7. 貨幣の機能 ②</li> <li>8. 金融政策</li> <li>9. IS-LM 分析 ①</li> <li>10. IS-LM 分析 ②</li> <li>11. 物価変動と失業 ①</li> <li>12. 物価変動と失業 ②</li> <li>13. 経済成長</li> <li>14. まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
テキストは指定しない。必要に応じて資料を配布する。		定期試験と講義内で行う小テストの成績で評価する。	

シラバス フランス語学科

---

2010年4月1日発行

獨協大学教務課

〒340-0042 埼玉県草加市学園町1-1

電話 048-946-1656



DOKKYO UNIVERSITY

学 科	学年	氏 名
学科	年	